

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	財務管理論Ⅰ (Financial ManagementⅠ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	上野 清貴								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 財務管理論Ⅰでは、財務環境、財務制度、財務管理と企業経営、資本運用の新たな動きについて解説する。具体的には、情報革命、機関投資家、コーポレート・ガバナンス、証券市場、財務分析、利益管理、リスクマネジメント、キャッシュフロー管理等を解説する。									
授業目標： 財務管理論Ⅰおよび次の財務管理論Ⅱは、最新の財務制度を取り扱いつつ、現代の財務環境および財務管理の意義から考察を始めて、財務管理論の内容を全般的に理解し、現代の企業に対する考え方および最新の財務管理論の考え方を理解することを目標としている。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	財務環境の問題点と株主価値経営の破綻 株主価値経営の意義と問題点を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
2	環境問題とは 環境問題の軌跡と新しい資本概念を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
3	貧困と格差 実体経済と金融経済の乖離を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
4	情報革命 デジタルトランスフォーメーション（DX）を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
5	機関投資家 ESG投資と機関投資家を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
6	コーポレート・ガバナンス コーポレート・ガバナンスの方法を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
7	持株会社制度の導入 持株会社に期待される効果を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
8	証券市場 有価証券と証券市場およびその役割を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
9	ディスクロージャーと財務分析 財務諸表を用いた財務分析を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
10	利益管理とEVA EVAの求め方と投下資本利益率（ROIC）を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
11	リスクマネジメント リスクマネジメントのプロセスと戦略を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
12	運転資本管理と設備資本管理 資本管理の重要性とその内容を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
13	キャッシュフロー管理 キャッシュフローと企業価値を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
14	株価と投資評価 正味現在価値と投資の評価を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
15	総括 これまでの財務管理論の内容を総復習する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
教本： 鳥居陽介編『テキスト 財務管理論（第6版）』中央経済社					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ファイナンスの基礎を身に付けておくこと。日々の予習復習を怠らないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	財務管理論Ⅱ（Financial ManagementⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	上野 清貴								
履 修 条 件	前提科目	財務管理論Ⅰ 会計学Ⅰ・Ⅱ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 財務管理論Ⅱでは、資金調達の新たな動き、財務戦略、財務管理の新展開について解説する。具体的には、銀行業の発展と今日的課題、今後の証券化金融市場の行方、資本政策と自社株取得、知的財産、デリバティブ、ESG投資、これからの財務管理等を解説する。									
授業目標： 財務管理論Ⅱおよび前の財務管理論Ⅰは、最新の財務制度を取り扱いつつ、現代の財務環境および財務管理の意義から考察を始めて、財務管理論の内容を全般的に理解し、現代の企業に対する考え方および最新の財務管理論の考え方を理解することを目標としている。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	財務管理論Ⅱの概要説明 これからの講義内容の概要を説明する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
2	借入金の調達 借入金の形態と BIS 規制を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
3	銀行業の発展と今日的課題 ファンド化・情報化を進める銀行経営を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
4	今後の証券化商品市場の行方 証券化商品の意味と証券化市場の行方を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
5	社債と格付け 社債の意味と債券の格付けを解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
6	CP と MTN CP・MTN の意味と最近の動向を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
7	資本政策と自社株取得 資本政策の意味と株主還元政策を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
8	M&A M&A の意味と財務上の考慮点を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
9	知的財産 知的財産戦略の意味とその焦点を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
10	デリバティブ デリバティブの意味と財務の関係を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
11	新たな中小企業経営 新しい中小企業財務の動きを解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
12	新ベンチャービジネスとクラウドファインディング 新ベンチャービジネスの資金調達の特徴を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
13	ESG 投資、SDGs と企業財務 ESG 情報開示の必要性和企業財務を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
14	これからの財務管理 ESG、SDGs と社会的価値の追求を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
15	総括 これまでの財務管理論の内容を総復習する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
教本： 鳥居陽介編『テキスト 財務管理論（第6版）』中央経済社					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ファイナンスの基礎を身に付けておくこと。日々の予習復習を怠らないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	財務諸表論 (Financial Accounting)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	会計学Ⅰ・Ⅱ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 企業会計は、財務会計と管理会計とに分類できる。中でも、財務会計は、企業外の利害関係者に対して財務諸表を公表することを目的とする。財務諸表論では、財務会計を中心に財務諸表の特徴およびそれにかかる原則等について学ぶ。また、財務諸表の作成だけでなく利用についても財務諸表分析をとおして学ぶ。									
授業目標： 財務諸表に関わる知識およびその活用方法を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	会計情報と意思決定 財務会計の基本的な事項について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
2	ディスクロージャーと有価証券報告書 制度会計やGAAPについて解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
3	貸借対照表 貸借対照表の構成と役割について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
4	損益計算書 損益計算書の構成と役割について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
5	キャッシュ・フロー計算書 キャッシュ・フロー計算書の構成と役割について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
6	株主資本等変動計算書 株主資本等変動計算書の構成と役割について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
7	問題演習 1 第 1 回から第 6 回までの理解度をみる。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
8	収益性分析 1（ROA） 構成比および ROA について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
9	収益性分析 2（ROE） ROE について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
10	収益性分析 3（CVP 分析） CVP 分析について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
11	問題演習 2 収益性分析の理解度をみる。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
12	安全性分析 1（短期の安全性分析） 短期における安全性分析について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
13	安全性分析 2（長期の安全性分析） 長期における安全性分析について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
14	安全性分析 3（キャッシュ・フローの安全性分析） キャッシュ・フローを使った分析について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
15	問題演習 3 について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教本： 内藤文雄『会計学エッセンス』（最新版）、中央経済社。					参考文献： 乙政正太『財務諸表分析』（最新版）、同文館。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 試験（80％）とレポート（20％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 念のため電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	産業心理学Ⅰ（Occupational PsychologyⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現在は産業・組織心理学として社会に認知されており、本授業と組織心理学とは不可分のものである。本授業では、主に企業組織において求められる人材とは何かを中心として学びを進める。内容としては、企業トップがしばしば陥る判断誤り、産業場面において事故多発者と無事故者におけるパーソナリティの差異や、「安全」と「リスク」の定義、リーダーシップと生産効率、及び事故防止に向けた危険感受性訓練法等である。授業形態は講義を中心としますが討議法も随時使い、「分かりやすい授業」を目指す。									
授業目標： ①生産効率にかかわる社員のパーソナリティ特性、②社員にやる気をもたらす動機づけの仕組み、③リーダーシップの働きまでが理解できることを、本授業の到達目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、ディスカッション 20分	
2	ミュンスターバークに始まる産業心理学の発展・展開を産業心理学史Ⅰとして学ぶ。その中で特に重要であるテイラーを取り上げ、彼が主張した科学的管理法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
3	産業心理学史Ⅱとして、産業心理学を大きく飛躍させる契機となった「ホーソン実験」を取り上げ、その後の人事相談制度が開設されるまでのいきさつを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
4	産業場面で発生する労働災害の推移を学ぶと共に、企業トップが冒す判断誤りの過程を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
5	産業場面では多くの人が協同して働いており、対人関係からくる衝突を回避するためには、各人の性格やパーソナリティ特性をと何かを学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
6	産業場面においては、事故が少ない人と事故を引き起こすことが多い人がいる。事故多発者のパーソナリティ特性を理解すると共に、多面評価法（自己評価法と他者評価法）を用いて、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、評価実習 30 分、PBL 20 分	
7	「安全」と「リスク」の定義を考えることに加え、実際に産業場面で使用されている active safety、passive safety の定義と方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
8	ヒューマンエラーの発生過程を認知心理学の視点から、大脳で行われている内部情報処理過程の働きを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
9	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、我々が環境を見ていく際の目の配り方と情報摂取のあり方を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
10	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 30 分、実験 40分、PBL 20分	
11	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組みを学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
12	リーダーシップ研究を概観し、またレヴィンらの実験手法を伴うリーダーシップ研究の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
13	代表的なリーダーシップ理論である「PM 理論」と「マネジリアルグリッド理論」を学び、その意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
14	行動変容をもたらす集団訓練方法（危険感受性訓練法）を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、ディスカッション 20分	

教本： 深澤伸幸「ヒューマンエラーの心理学入門－発生過程の理解と対策－」(株)杏林舎、¥2,300	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100％）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので、注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	産業心理学Ⅱ（Occupational Psychology Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	産業心理学Ⅰを履修していることが望ましい							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現在は産業・組織心理学として社会に認知されており、本授業も産業心理学とは不可分の関係にある。そこで本授業では、組織とは何かから始め、組織内において生じる対人関係の在り方、精神的ストレスの定義と対処法、生理的特性や動機づけ、及び作業行動の発生過程までを学ぶ。授業形態は講義を中心とするが、随時討議や実習も行い、「分かりやすい授業」を目指す。									
授業目標： 組織構造や組織規範、対人関係から生じる精神的なストレスの意味を把握すると共に、ストレスからの脱出方法までを学ぶ。加えて、組織集団が有するリスク知覚とリスク回避方法までを正しく理解できることを到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法及び学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義70分、ディスカッション20分	
2	組織とは何か。組織の定義に始まり、組織構造、組織規範を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義60分、ディスカッション10分、PBL20分	
3	動機づけに関する考え方を学び、動機づけの手法である外発的動機づけ、内発的動機づけの長所と短所を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義60分、ディスカッション10分、PBL20分	
4	動機づけを基にした目標管理制度の意味と、そこで用いられるPDCAサイクルの意味と、OJTやoff-JT等の研修の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
5	産業場面で発生するヒューマンエラーには、人間の生理的な特性も関与している。サーカディアンリズムとこれに連動する大脳覚醒水準の特性を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
6	事故や労働災害を減少するには、人間の行動の仕組みを知ることが不可欠である。我々の作業行動を理解することを目指し、作業行動モデルの作成を行う。ここでは集団ブレインストーミング法を用い、作業行動を考え合う。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、ディスカッション 70分	
7	前回到引き続き集団ブレインストーミングを通じて得られた様々なアイデアを、KJ法を用いてカテゴリ化を図る。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、ディスカッション 70分	
8	前回到引き続きKJ法で得られたカテゴリ間に関連性を持たせ、人の作業行動のあり方、プロセスの図化を試み、その後班ごとに発表を行い、作業行動の仕組みを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、ディスカッション 70分	
9	用語としてのストレスの意味と使用方法の変遷、ストレスの構造とセリエの考えを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
10	精神的ストレスの定義、ライフイベント研究、ストレスの測定方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
11	ラザラスらが主張する心理学的ストレスモデルを学び、ストレスからの脱出方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 30分、実験 40分、PBL 20分	
12	精神的ストレスを軽減するためのソーシャルサポート、THP、ストレスチェックの方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
13	リスク、リスク・パーセプションを学び、職場安全管理対策の重要性を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
14	職場安全風土醸成を目指す集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、ディスカッション 20分	

教本： 深澤伸幸「ヒューマンエラーの心理学入門－発生過程の理解と対策－」 (株)杏林舎、¥2,300	参考文献：
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100％）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1 / 3を超える場合には、受験しても評価しないので、注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	産業心理学概論（Occupational Psychology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現在は産業・組織心理学として社会に認知されており、本授業と組織心理学とは不可分のものである。本授業では、主に企業組織において求められる人材とは何かを中心として学びを進める。内容としては、企業トップがしばしば陥る判断誤り、産業場面において事故多発者と無事故者におけるパーソナリティの差異や、「安全」と「リスク」の定義、リーダーシップと生産効率、及び事故防止に向けた危険感受性訓練法等である。授業形態は講義を中心としますが討議法も随時使い、「分かりやすい授業」を目指す。									
授業目標： ①生産効率にかかわる社員のパーソナリティ特性、②社員にやる気をもたらし動機づけの仕組み、③リーダーシップの働きまでが理解できることを、本授業の到達目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、ディスカッション 20分	
2	ミュンスターバークに始まる産業心理学の発展・展開を産業心理学史Ⅰとして学ぶ。その中で特に重要であるテイラーを取り上げ、彼が主張した科学的管理法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
3	産業心理学史Ⅱとして、産業心理学を大きく飛躍させる契機となった「ホーソン実験」を取り上げ、その後の人事相談制度が開設されるまでのいきさつを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
4	産業場面で発生する労働災害の推移を学ぶと共に、企業トップが冒す判断誤りの過程を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
5	産業場面では多くの人が協同して働いており、対人関係からくる衝突を回避するためには、各人の性格やパーソナリティ特性をととは何かを学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
6	産業場面においては、事故が少ない人と事故を引き起こすことが多い人がいる。事故多発者のパーソナリティ特性を理解すると共に、多面評価法（自己評価法と他者評価法）を用いて、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、評価実習 30 分、PBL 20 分	
7	「安全」と「リスク」の定義を考えることに加え、実際に産業場面で使用されている active safety、passive safety の定義と方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
8	ヒューマンエラーの発生過程を認知心理学の視点から、大脳で行われている内部情報処理過程の働きを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
9	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、我々が環境を見ていく際の目の配り方と情報摂取のあり方を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
10	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講 義 30 分、実 験 40分、PBL 20分	
11	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組みを学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
12	リーダーシップ研究を概観し、またレヴィンらの実験手法を伴うリーダーシップ研究の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
13	代表的なリーダーシップ理論である「PM 理論」と「マネジリアルグリッド理論」を学び、その意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
14	行動変容をもたらし集団訓練方法（危険感受性訓練法）を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、ディスカッション 20分	

教本： 深澤伸幸「ヒューマンエラーの心理学入門－発生過程の理解と対策－」(株)杏林舎、¥2,300	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100％）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので、注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義										
授業科目(英文)	自己の心理学（ Psychology of Self）						科目分類	専門科目											
担 当 教 員	菅沼 憲治																		
履 修 条 件	前提科目	なし																	
	そ の 他	なし																	
授業概要： 自己心理学の抽象的理論や諸概念を受講者自身の発達と人生経験に結びつけるには、体験学習によるエクササイズが適していると考えられる。そこで、ウィラード・B。フリック著『Personality Theories Journeys Into Self An Experiential Workbook』の和訳資料に基づき受講者の自己洞察を促し自己成長が達成出来ることを目的に授業を行う。																			
授業目標： ① 自己とは、何かを自分の経験に関連させて理解する態度を育成する。 ② パーソナリティ心理学の基礎知識や理論が、心理職の実践 5 大職域に関連する仕組みと役割を学ぶ。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養												
			◎				○												
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	子ども時代の記憶と体験					事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認		講義											
2	ジークムンド・フロイトと精神分析					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義											
3	アルフレッド・アドラーとアドラー心理学					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義											
4	カール・ユングと分析心理学					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義											
5	カレン・ホーナヒと精神分析的社会理論					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義											
6	エリック・エリクソンと心理社会理論					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義											
7	アルバート・バンデューラと社会的学習理論					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義											
8	ゴードン・オルポートと特性論					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義											
9	アブラハム・マズローと自己実現理論					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義											
10	カール・ロジャーズと自己理論					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義											
11	医療・保健領域と自己心理学					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義											
12	福祉領域と自己心理学					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義											
13	教育・学校領域と自己心理学					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義											
14	司法・矯正領域と自己心理学					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義											
15	産業・組織領域と自己心理学					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義											
教本： ウィラード B. フリック著「人から人に伝わるパーソナリティ心理学」風間書房										参考文献： 授業中に随時紹介する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テストとレポート（40%）、定期試験（60%）等により総合評価する。																			
学生へのアドバイス： 本授業は、世界で活躍した 9 名の心理学者の人物像と心理学への功績を学ぶことで、自己洞察力の育成を目指す。																			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																			

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	事故の法的責任論 (Legal Responsibility for Accidents)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	リスク危機マネジメント基礎論Ⅰ、法の性格と役割							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私たちの日常生活では、さまざまな事故に遭遇する。交通事故や契約上のトラブルなどがその代表であろう。そのような事故に遭遇した場合、どのような法律を基に当事者間の紛争を解決すればよいのかについて、①底流を流れる法理論の把握とともに、②実際に起きた紛争についてどのような判断がなされ、またどのような問題点をはらんでいるのかについて主体的に考える機会を提供する。									
授業目標： 1. 紛争の解決に向けた判断基準となる法概念を身につける。 2. 実社会で起きている紛争をもとに、論点と解決策を提示できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	大学生の法的立場を考える（導入）					事前：教本1章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
2	契約と消費者トラブル					事前：教本2章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
3	学生生活と法～学生生活における法トラブルについて考える					事前：教本3章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
4	働くことを考える					事前：教本4章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
5	就職活動で知っておきたい法律					事前：教本5章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
6	労働者の保護と法律					事前：教本6章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
7	結婚における法トラブル					事前：教本7章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
8	子どもの権利・子育てにおける法トラブル					事前：教本8章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
9	生活設計～お金にまつわる法トラブル					事前：教本9章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
10	犯罪と私たちの生活					事前：教本10章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
11	交通事故における法の適用					事前：教本11章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
12	公的医療保険・介護保険制度					事前：教本12章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
13	年金・相続における法トラブル					事前：教本13章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
14	民主主義とそのための仕組み					事前：教本14章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
15	市民社会と国際平和～開発・貧困における法の役割					事前：教本15章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
教本： 森川幸一『新版大学生が知っておきたい生活のなかの法律』 慶應義塾大学出版会、2022年。					参考文献： 授業中に適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業への参加状況等（30%）、授業内での課題（70%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自らの周りで起きる紛争について、なぜ起きたのか、どのような解決法があるのか、という視点を常に意識しながら受講して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	事故リスク危機マネジメント (Risk and Crisis Management in the Study of Accidents)							科目分類	専門科目
担 当 教 員	宮林 正恭								
履 修 条 件	前提科目	「リスク危機マネジメント基礎論」、「リスク危機マネジメントの考え方とその応用」は出来る限り学んでおいてほしい							
	そ の 他	なし							
授業概要： 事故及び災害のリスクマネジメントおよびクライシスマネジメント（危機管理）について学ぶ。									
授業目標： 事故や災害など主として保険の保護対象となるようなリスクについて把握し、それらによる被害をできるだけ抑えるためのリスク管理、及び、そのリスクが発現したとき、すなわち危機となったときの対応のあり方を理解して、事故や災害についてのリスク管理および危機管理を行なえる基本素養を身につけること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）				授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方など） 事故や災害の性格とリスク、危機			事前：なし 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
2	労働災害事故			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
3	交通関係事故			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
4	火災爆発			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
5	原子力事故			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
6	ビジネス事故、家庭内事故			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
7	産業事故			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
8	医療事故			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
9	サイバー事故地震と津波			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
10	地震と津波、火山爆発			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
11	風水害、パンデミック			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
12	環境、汚染事故、その他の災害			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
13	緊急対応			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
14	事故及び災害のリスクと危機に対するの公的制度と組織 保険とリスクファイナンス			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
15	まとめ			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応				講義 60分、 ディスカッション 30分	
教本： なし。				参考文献： 必要に応じ授業中に指示する。					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（小テスト・レポート等を含む）（60％）、定期試験（40％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 事故や災害のニュースは必ず詳細を知るように努めてください。									
オフィスアワー： 別途掲示される予定になっているのでその時間帯に来てください。あらかじめ、電話またはメールで、あるいは、研究室へのメッセージの投函で事前連絡をくれるとありがたいです。電話番号は080-4732-3423、メールアドレスはmmiyabas@shoin-u.ac.jp、研究室は3810室です。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	持続可能な開発目標と国際社会 (Sustainable Development Goals and Global Community)							科目分類	基礎科目
担 当 教 員	松浦 広明								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 2015年9月25日、日本を含む193か国の指導者達は、2030年までに達成すべき17個の目標と169のターゲットである「持続可能な開発目標 (SDGs)」の採択に合意しました。人口学は、それ以前の15年間の開発目標であったミレニアム開発目標 (MDGs) の時代から、開発目標アプローチの根幹たる指標のためのデータ構築・収集・分析において中心的な役割を担ってきました。本講義では、人口学の視点から、2030年における SDGs の達成に向け、世界が直面している課題と、それに対する日本および世界の取組みについて概観します。									
授業目標： 人口学のアプローチを通して、持続可能な開発目標 (SDGs) を通じて、日本および世界全体が達成べきするための取り組みを理解し、その中で自分がどのように貢献できるかを考え、最終的に実行に結びつけること。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	
1	SDGs に向けて				事前：なし 事後：第2章 (佐藤・松浦)			講義 90分	
2	経済成長・発展とその決定要因				事前：Chapter 3 and 4 (Sachs) 事後：授業の復習			講義 90分	
3	貧困と不平等				事前：Chapter 5 (Sachs) 事後：授業の復習			講義 90分	
4	国際機関の取り組み				事前：Handout (国際連合システム) 事後：課題			講義 90分	
5	人口と経済				事前：第7章 (佐藤・松浦) 事後：授業の復習			講義 90分	
6	移民と難民				事前：兄玉「統計からみる国際移民の動向」 事後：授業の復習			講義 90分	
7	教育と労働				事前：Chapter 8 (Sachs) 事後：授業の復習			講義 90分	
8	こどもと女性				事前：第5章 (佐藤・松浦) 事後：課題			講義 90分	
9	グローバル・ヘルスの挑戦：MDGs の下での GH				事前：Ch.9 (Sachs) 事後：国連ミレニアム開発目標報告 2015			講義 90分	
10	グローバル・ヘルスの挑戦：SDGs の下での GH				事前：兄玉「国連持続可能な開発目標 3 (SDG3) ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の達成状況と課題」 事後：授業の復習			講義 90分	
11	グローバル・ヘルスの挑戦：新型コロナウイルスと世界				事前：コロナ禍のニュースや生活を振り返る。 事後：授業の復習			講義 90分	
12	国際観光				事前：Handbout 事後：授業の復習			講義 90分	
13	国際防災協力とレジリエントな都市				事前：Ch.11 (Sachs) 事後：授業の復習			講義 90分	
14	SDGs とデータ				事前：第9章 (佐藤・松浦) 事後：授業の復習			講義 90分	
15	まとめ				事前：なし 事後：課題			講義 90分	
教本： 佐藤・松浦(編)「SDGsの人口学」(人口学ライブラリー) 原書房、2023					参考文献： Sachs, J. “The Age of Sustainable Development” Columbia University Press, New York, USA; 2015				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等 (100%) で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 新型コロナウイルスの蔓延下により、講義中心のカリキュラム編成になっています。状況が許せば、例年通り、ゲスト講師を招いたり、JICA 横浜での研修を行います。講義はスライドを中心に行います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	持続可能な開発目標と国際社会 A（Sustainable Development Goals and Global Community A）							科目分類	基礎科目
担 当 教 員	松浦 広明								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 2015年9月25日、日本を含む193か国の指導者達は、2030年までに達成すべき17個の目標と169のターゲットである「持続可能な開発目標（SDGs）」の採択に合意しました。人口学は、それ以前の15年間の開発目標であったミレニアム開発目標（MDGs）の時代から、開発目標アプローチの根幹たる指標のためのデータ構築・収集・分析において中心的な役割を担ってきました。本講義では、人口学の視点から、2030年における SDGs の達成に向け、世界が直面している課題と、それに対する日本および世界の取組みについて概観します。									
授業目標： 人口学のアプローチを通して、持続可能な開発目標（SDGs）を通じて、日本および世界全体が達成べきするための取り組みを理解し、その中で自分がどのように貢献できるかを考え、最終的に実行に結びつけること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	SDGs に向けて				事前：なし 事後：第 2 章（佐藤・松浦）			講義 90分	
2	経済成長・発展とその決定要因				事前：Chapter 3 and 4（Sachs） 事後：授業の復習			講義 90分	
3	貧困と不平等				事前：Chapter 5（Sachs） 事後：授業の復習			講義 90分	
4	国際機関の取り組み				事前：Handout（国際連合システム） 事後：課題			講義 90分	
5	人口と経済				事前：第 7 章（佐藤・松浦） 事後：授業の復習			講義 90分	
6	移民と難民				事前：兄玉「統計からみる国際移民の動向」 事後：授業の復習			講義 90分	
7	教育と労働				事前：Chapter 8（Sachs） 事後：授業の復習			講義 90分	
8	こどもと女性				事前：第 5 章（佐藤・松浦） 事後：課題			講義 90分	
9	グローバル・ヘルスの挑戦：MDGs の下での GH				事前：Ch.9（Sachs） 事後：国連ミレニアム開発目標報告 2015			講義 90分	
10	グローバル・ヘルスの挑戦：SDGs の下での GH				事前：兄玉「国連持続可能な開発目標 3（SDG3）ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成状況と課題」 事後：授業の復習			講義 90分	
11	グローバル・ヘルスの挑戦：新型コロナウイルスと世界				事前：コロナ禍のニュースや生活を振り返る。 事後：授業の復習			講義 90分	
12	国際観光				事前：Handbout 事後：授業の復習			講義 90分	
13	国際防災協力とレジリエントな都市				事前：Ch.11（Sachs） 事後：授業の復習			講義 90分	
14	SDGs とデータ				事前：第 9 章（佐藤・松浦） 事後：授業の復習			講義 90分	
15	まとめ				事前：なし 事後：課題			講義 90分	
教本： 佐藤・松浦（編）「SDGsの人口学」（人口学ライブラリー）原書房、2023					参考文献： Sachs, J. “The Age of Sustainable Development” Columbia University Press, New York, USA; 2015				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（100％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 新型コロナウイルスの蔓延下により、講義中心のカリキュラム編成になっています。状況が許せば、例年通り、ゲスト講師を招いたり、JICA 横浜での研修を行います。講義はスライドを中心に行います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	持続可能な開発目標と国際社会B（Sustainable Development Goals and Global Community B）							科目分類	基礎科目
担 当 教 員	松浦 広明								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 本講義では、2030年におけるSDGsの達成に向け、世界が直面している課題と、それに対する日本および世界の取組みについて概観します。									
授業目標： ①持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた日本および世界全体の取り組みを理解し、その中で自分がどのように貢献できるかを考え、最終的に実行に結びつけること。 ②国連機関とのパートナーシップ等、松蔭大学が持っているリソースを利用して、学生として大学を通し、どのようにSDG sに貢献していけるかを考え、最終的に実行に結びつけること。 ③海外での大学院進学や国際開発のキャリアを歩んでいきたい学生に必要な情報とネットワークを作る機会を与えること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	前期の復習				事前：Handout 事後：授業の復習			講義 90分	
2	人権				事前：なし 事後：授業の復習			講義 90分	
3	産業と技術革新				事前：Chapter 3（Sachs） 事後：授業の復習			講義 90分	
4	公開講義：地球温暖化の現状と苫小牧CCS実証試験について				事前：事前資料 事後：授業の復習			講義 90分	
5	国際貿易				事前：なし 事後：授業の復習			講義 90分	
6	多国籍企業とBOP戦略				事前：なし 事後：授業の復習			講義 90分	
7	ビジネスと人権				事前：「ビジネスと人権に関する指導原則」を読む 事後：授業の復習			講義 90分	
8	法と制度				事前：なし 事後：授業の復習			講義 90分	
9	戦争・紛争・テロ				事前：Handout 事後：授業の復習			講義 90分	
10	経済制裁				事前：Handout 事後：授業の復習			講義 90分	
11	水と衛生				事前：第6章（佐藤・松浦） 事後：授業の復習			講義 90分	
12	地球温暖化				事前：第8章（佐藤・松浦）・Ch.12（Sachs） 事後：授業の復習			講義 90分	
13	生物多様性				事前：Ch.13（Sachs） 事後：授業の復習			講義 90分	
14	循環経済				事前：Handout 事後：授業の復習			講義 90分	
15	まとめ				事前：なし 事後：課題			講義 90分	
教本： 佐藤・松浦（編）「SDGsの人口学」（人口学ライブラリー）原書房、2023					参考文献： Sachs, J. “The Age of Sustainable Development” Columbia University Press, New York, USA; 2015				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 新型コロナウイルスの蔓延下により、講義中心のカリキュラム編成になっています。状況が許せば、例年通り、ゲスト講師を招いたり、JICA横浜での研修を行います。講義はスライドを中心に行います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	実用英語 I （Practical English I）						科目分類	専 門 科 目	
担 当 教 員	田 中 一 郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 実用英語技能検定（通称・英検）準 2 級合格を目指し、実用英語能力を身に付けるための授業を行う。英検は、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四つの技能を、筆記・リスニング・スピーキング（面接）のテストで測定する。準 2 級の試験は一次試験（筆記試験とリスニング）と二次試験（英語での面接）から成る。授業では、一次試験対策として、出題傾向の分析に基づいて、よく出される単語・熟語・構文・会話表現を学習する。また、二次試験攻略のための練習もする。									
授業目標： 実社会で役立つ実用英語能力の測定資格試験として定着している実用英語技能検定（通称・英検）の準 2 級に合格すること、あるいは同程度の実用英語能力を身に付けること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	導入授業：授業の進め方と授業概要の説明					事前：なし 事後：復習		演習（説明 45分、質疑 応答 45分）	
2	筆記（語法・文法問題）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、 解説 30分）	
3	筆記（語法・文法問題）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、 解説 30分）	
4	筆記（会話問題）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、 解説 30分）	
5	筆記（長文穴埋め問題）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、 解説 30分）	
6	筆記（長文穴埋め問題）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、 解説 30分）	
7	筆記（長文読解問題）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、 解説 30分）	
8	筆記（長文読解問題）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、 解説 30分）	
9	筆記（英文論述問題）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、 解説 30分）	
10	リスニング（対話の応答問題）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、 解説 30分）	
11	リスニング（対話の内容一致問題）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、 解説 30分）	
12	リスニング（英文内容一致問題）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、 解説 30分）	
13	スピーキング（面接）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、 解説 30分）	
14	模擬試験（過去問題）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、 解説 30分）	
15	模擬試験（過去問題）、まとめ					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、 解説 30分）	
教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 真剣に英検合格を目指す学生諸君の履修登録を求めます。英検 3 級を取得していることあるいは同程度の能力のあることが望ましい。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	実用英語Ⅱ（Practical EnglishⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田中 一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 実用英語技能検定（通称・英検）2 級合格を目指し、実用英語能力を身に着けるための授業を行う。英検は、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四つの技能を、筆記・リスニング・スピーキング（面接）のテストで測定する。2 級の試験は一次試験（筆記試験とリスニング）と二次試験（英語での面接）から成る。授業では、一次試験対策として、出題傾向の分析に基づいて、よく出される単語・熟語・構文・会話表現を学習する。また、二次試験攻略のための練習もする。									
授業目標： 実社会で役立つ実用英語能力の測定資格試験として定着している実用英語技能検定（通称・英検）の 2 級に合格すること、あるいは同程度の実用英語能力を身に付けること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	導入授業：授業の進め方と授業概要の説明					事前：なし 事後：復習		演習（説明 45分、質疑応答 45分）	
2	筆記（短文の語句空所補充）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、解説 30分）	
3	筆記（短文の語句空所補充）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、解説 30分）	
4	筆記（長文の語句空所補充）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、解説 30分）	
5	筆記（長文の語句空所補充）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、解説 30分）	
6	筆記（長文の内容一致選択）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、解説 30分）	
7	筆記（長文の内容一致選択）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、解説 30分）	
8	筆記（長文の内容一致選択）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、解説 30分）	
9	筆記（英文論述問題）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、解説 30分）	
10	リスニング（会話の内容一致選択）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、解説 30分）	
11	リスニング（会話の内容一致選択）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、解説 30分）	
12	リスニング（文の内容一致選択）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、解説 30分）	
13	リスニング（文の内容一致選択）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、解説 30分）	
14	まとめ スピーキング（面接）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、解説 30分）	
15	模擬試験（過去問題）					事前：予習 事後：復習		演習（Exercise 60分、解説 30分）	
教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 真剣に英検合格を目指す学生諸君の履修登録を求めます。英検準 2 級を取得していることあるいは同程度の能力のあることが望ましい。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	質 的 調 査 法 (Qualitative Survey Methods)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 質的研究法とは、数値データを分析する量的研究法とは異なり、人の語りや記述などの言語データを分析する研究方法である。本講義では質的研究法の基本について、概論の講義と質的研究法を用いた研究論文により学び、その上で代表的な質的研究法のひとつである KJ 法を実際に体験する。									
授 業 目 標 : 質的研究法について理解し、代表的な質的研究法のひとつである KJ 法ができるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授 業 計 画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講 義	
2	量的研究と質的研究					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講 義	
3	質的調査法を用いた研究論文紹介①					事前：資料確認・課題検討 事後：講義で取り上げた論文を読む		講 義	
4	質的調査法を用いた研究論文紹介②					事前：資料確認・課題検討 事後：講義で取り上げた論文を読む		講 義	
5	質的調査法を用いた研究論文を検索し、読み込む（グループワーク）					事前：資料確認・課題検討 事後：グループを決めて論文を読む		講義 40分、 グループワーク 50分	
6	論文の内容をまとめる（グループワーク）					事前：グループを決めて論文を読む 事後：発表資料作成		グループワーク 90分	
7	発表資料を作成する					事前：発表資料作成 事後：発表準備		グループワーク 90分	
8	発表会①					事前：発表準備 事後：発表に対する意見をまとめる		発表・討議 90分	
9	発表会②					事前：発表準備 事後：発表に対する意見をまとめる		発表・討議 90分	
10	KJ 法を用いた研究の実施（グループワーク）					事前：KJ 法について調べておく 事後：データの検討		講義 40分、 グループワーク 50分	
11	KJ 法を用いた研究の実施（グループワーク）					事前：データの検討 事後：発表資料作成		グループワーク 90分	
12	KJ 法を用いた研究の実施（グループワーク）					事前：発表資料作成 事後：発表準備		グループワーク 90分	
13	発表会					事前：発表準備 事後：発表内容を振り返る		発表・討議 90分	
14	結果をレポートにまとめる					事前：発表内容を振り返る 事後：レポート作成		講 義	
15	まとめ					事前：レポート作成 事後：理解の補完		講 義	
教 本 : なし。授業中に資料を配布する。									
参 考 文 献 : 授業中に、適宜紹介する。									
成 績 評 価 の 方 法、評価基準 : 授業参加状況等（50%）、レポート等（50%）で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講義には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オ フ ィ ス ア ウ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	私法学Ⅰ（Private LawⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他								
授業概要： 本講義では、私法とは何かを学ぶために、私法の一般法としての民法典を中心に講義を行います。私法の基礎知識を習得するために、講義のテーマは民法第一編総則の重要な概念を取り上げることとします。これらを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授業目標： ①民法典の構造を理解し、説明できる。②契約の基本構造を説明できる。③意思表示の基本理論を説明できる。 ④私法における個人間の関係モデルを説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション（私法の一般法としての民法典の構成）				事前： 事後：配布資料の見直し			講義 60分 質疑応答 30分	
2	私法とは何か				事前：資料の予習 事後：私法の特徴をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
3	民法典の構造と民法典の構成				事前：民法の構成について調べる。 事後：民法典の体系について調べる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
4	民法財産法とは何か（1） 物権法の概要				事前：物権とは何かを調べる。 事後：物権法の概要をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
5	民法財産法とは何か（2） 債権法の概要				事前：債権とは何かを調べる。 事後：債権法の概要についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
6	契約の主体（1） 権利能力について				事前：権利能力について調べる。 事後：権利能力の始期と終期、例外をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
7	契約の主体（2） 権利能力・意思能力・行為能力				事前：権利能力・意思能力・行為能力の関係を調べる。 事後：権利能力・意思能力・行為能力の関係をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
8	契約の主体（3） 行為能力と成年後見制度				事前：行為能力と成年後見制度を調べる。 事後：成年後見制度の概要をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
9	意思表示（1） 意思表示とは何か／心裡留保				事前：意思表示とは何かを調べる。 事後：心裡留保についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
10	意思表示（2） 虚偽表示とは何か／権利外観法理				事前：虚偽表示とは何かを調べる。 事後：権利外観法理についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
11	意思表示（3） 虚偽表示における第三者の範囲／94条2項と権利外観法理				事前：虚偽表示における第三者の範囲を調べる。 事後：94条2項と権利外観法理をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
12	意思表示（4） 錯誤とは何か				事前：錯誤とは何かを調べる。 事後：錯誤法についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
13	意思表示（5） 詐欺・強迫				事前：詐欺・強迫を調べる。 事後：詐欺・強迫についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
14	契約の拘束力と無効・取消し・解除				事前：契約の無効・取消し・解除のつがいを調べる。 事後：契約の無効・取消し・解除をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
15	まとめ				事前：講義の論点を整理する。 事後：講義の論点について自分なりにまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分	
教本： とくになし（資料を配布します）。					参考文献： 授業中に適宜指示します。				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	私 法 学 I（Private Law I）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	新 城 将 孝								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に な し							
	そ の 他								
授業概要： 私法（民法・商法）学び方について概説する。中心となるのは、民法総論となる。そして、商法の領域も見ることとする。日常生活の中での法、とりわけ、法類型の中での私法、財産取引を中心とする。									
授業目標： 財産法を中心とするが、資本主義経済社会の法としての視点から、私法、民法・商法への理解を深める。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）				事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）			授 業 形 態	
1	開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。私法の特徴（概要）を示し、私法を学んでいくうえでの心構え等を説明する。				事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、私法分野についての事前のチェックをする。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
2	私法の全体像を概観する。これから学習する個別問題を全体の中での位置確認に向けた指標とする。				事前：民法典、商法典、会社法典等の法典構成の確認をする。 事後：これから学ぶ範囲（私法領域）を確認し、ノートにまとめる			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
3	私権の構造を概観する。理解を深めるため、私法上の権利、公法上の権利を概説し、私権の種類に関し概観し、その概説等を行う。				事前：私法上の権利、公法上の権利、そして、私権の種類と内容を確認する。 事後：私法上の権利、公法上の権利、そして、私権の種類と内容を確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
4	私権の行使と公共の福祉、信義則、権利の濫用、いわゆる民法（私法）の基本原則（民法第1条）について概説する。				事前：私権の行使と公共の福祉、信義則、権利の濫用についてその意味・内容を確認する。 事後：私権の行使と公共の福祉、信義則、権利の濫用についてその意味・内容を確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
5	権利の主体および権利能力の取得、喪失について概説する。				事前：権利の主体および権利能力の取得、喪失についてその意味・内容を確認する。 事後：権利の主体および権利能力の取得、喪失についてその意味・内容を確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
6	権利主体、その中での法人について概観する。具体的には、民法、一般法人法、公益法人法、そして、会社法を参考にしながら、法人一般についての理解を深める。				事前：民法、一般法人法、公益法人法、そして、会社法を参考にし、法人の種類、その働きについて確認する。 事後：民法、一般法人法、公益法人法、そして、会社法を参考にし、法人の種類、その働きについて確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
7	私法における団体（組合、法人、権利能力なき団体等）について概観し、生活における役割等を考える。				事前：私法における団体（組合、法人、権利能力なき団体等）について調べ、その働きを確認する。 事後：私法における団体（組合、法人、権利能力なき団体等）およびその働きについて確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
8	権利客体としての「物」について、概観する。具体的には、動産、不動産について概説し、権利変動を留意し、とりわけ、今日における取引実情を考慮し、権利客体に関する考察をする。				事前：権利客体としての物について調べ、かつ、今日における取引実情を概観し、権利客体一般に関する確認をする。 事後：権利客体としての物、かつ、今日における取引実情を確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	
9	人の能力（権利能力、意思能力、行為能力）について概観する。 それを基礎に、権利の変動に触れつつ、法律行為について概説する。				事前：人の能力及び法律行為について調べ、財産取引における意思表示に関し確認をする。 事後：人の能力及び法律行為について調べ、財産取引における意思表示に関し確認し、ノートにまとめる。			講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分	

10	前回の講義を基礎にして、意思無能力制度、制限行為能力者制度について概観する。	事前：意思無能力者制度、行為無能力者制度について調べ、財産取引における法的効果について確認する。 事後：意思無能力者制度、行為無能力者制度について調べ、財産取引における法的効果について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
11	前回の講義を基礎にして、意思表示の欠缺および瑕疵について概観する。具体的に、心理留保、虚偽表示、錯誤、詐欺・脅迫等について概説する。	事前：意思表示の欠缺及び瑕疵について調べ、法律行為に関する確認をする。 事後：意思表示の欠缺及び瑕疵について調べ、法律行為に関する確認をし、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
12	代理について概観する。法定代理及び任意代理に関する説明をし、任意代理を中心に概説する。	事前：代理について調べ、任意代理及びその展開の場を想定し、確認等をする。 事後：代理について調べ、任意代理及びその展開の場を想定し、確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
13	表見代理について概観する。代理権授与表示による表見代理、代理権踰越による表見代理、代理権消滅後の表見代理について概説する。	事前：表見代理について調べ、表見代理の成立する場を想定し、確認等をする。 事後：表見代理について調べ、表見代理の成立する場を想定し、確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
14	期限と条件について概観する。確定期限、不確定期限、そして、停止条件、解除条件について概説する。	事前：期限と条件について調べ、確定期限、不確定期限、そして、停止条件、解除条件について確認等をする。 事後：期限と条件について調べ、確定期限、不確定期限、そして、停止条件、解除条件について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
15	時効について概観する。取得時効、消滅時効、加えて、除斥期間について概説する。	事前：時効について調べ、取得時効、消滅時効、加えて、除斥期間について確認をする。 事後：時効について調べ、取得時効、消滅時効、加えて、除斥期間について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
教本：「六法（ポケット六法、デイリー六法等）」は、必ず準備してください。 参考文献：初回講義日に伝えます。			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	私法学Ⅰ (Private Law Ⅰ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	藤原 俊雄								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私法分野の法律問題とくにわれわれの日常生活に関わりの深い民法上の基本的な問題について学習する。下記授業計画で示したように、教師が一方的に口述する講義ではなくて学生参加型の授業なので、それなりの「覚悟」をもって受講することが望まれる。									
授業目標： 私法分野の法律問題を学習することによって、法的思考力・法的な問題解決能力を涵養することが、この授業の目標である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	私法とはどのような法律分野か。					事前：ネットで検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 90分	
2	民法の基本原則とその修正の理由について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
3	債権債務の発生原因について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
4	契約成立のプロセスについて説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
5	契約成立の諸形態について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
6	意思表示とはどのようなことをいうか説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
7	意思表示の瑕疵とはどういうことか、どのような種類があるか説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
8	代理・表見代理とはどのような行為か説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
9	契約の履行にはどのような形態があるか説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
10	債務不履行の種類、その場合の救済手段について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
11	不法行為とはどのような行為かその類型としてはどのようなものがあるか説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
12	使用者責任について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
13	連帯債務・保証につて説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
14	債権譲渡・債務引受について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
15	消滅時効について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
教本： とくにない。					参考文献： 伊藤真著『伊藤真の民法入門 第7版』（日本評論社、2020）¥1,700				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（グループディスカッションへの参加状況20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 上記したように受講生参加型の授業ですので、そのつもりで履修すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	私 法 学 Ⅱ (Private Law Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	新 城 将 孝								
履 修 条 件	前 提 科 目	私 法 学 Ⅰ (同 時 履 修 も 含 め、好 ま し い。)							
	そ の 他								
授 業 概 要： 私 法 学 Ⅰ を 基 礎 と し、私 法 (民 法 ・ 商 法) 学 び 方 に つ い て 概 説 す る。中 心 と な る の は、民 法 総 論 と な る。そ し て、商 法 の 領 域 も 見 る こ と と す る。日 常 生 活 の 中 で の 法、と り わ け、法 類 型 の 中 で の 私 法、財 産 法、商 法 を 中 心 と す る が、最 後 に、家 族 法 に つ い て も 触 れ て い き た い。									
授 業 目 標： 私 法 学 Ⅰ を 基 礎 と し、財 産 法 を 中 心 と し、資 本 主 義 経 済 社 会 の 法 と し て の 視 点 か ら、私 法 (民 法 ・ 商 法) へ の 理 解 を 深 め る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	開 講 に あ た り、ガ イ ダ ン ス を 行 う。受 講 に お け る 約 束、テ ス ト、評 価 等 の 説 明 等 を 行 う。私 法 の 特 色 (概 要) を 示 し、私 法 学 Ⅱ を 学 ん で い く う え で の 心 構 え 等 を 説 明 す る。				事 前： 事 後：次 回 講 義 の た め の 準 備 六 法 ・ テ キ ス ト 等 の 購 入、私 法 分 野 に つ い て の 事 前 の チ ェ ッ ク を す る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
2	物 権 法 全 体 に つ い て 概 説 す る。具 体 的 に は、物 権 の 概 念、種 類 等 に つ い て 概 観 す る。				事 前：民 法 第 2 編 物 権 の 構 成 を 確 認 し、そ の 種 類 に つ い て 確 認 を す る。 事 後：民 法 第 2 編 物 権 の 構 成 を 確 認 し、そ の 種 類 に つ い て 確 認 を し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
3	物 権 変 動 に い て 概 説 す る。具 体 的 に、物 権 の 変 動 (取 得、喪 失、移 転 等) に つ い て 概 観 す る。				事 前：物 権 変 動 の 基 本 構 造 の 確 認、二 重 譲 渡、不 動 産 登 記 等 に つ い て 確 認 す る。 事 後：物 権 変 動 の 基 本 構 造 の 確 認、二 重 譲 渡、不 動 産 登 記 等 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
4	占 有 権、所 有 権 に つ い て 概 説 す る。占 有 権 の 概 要、占 有 権 の 効 力 等 に つ い て 概 観 す る。所 有 権 の 概 要、所 有 権 の 制 限 等 に つ い て 概 観 す る。				事 前：占 有 権 及 び 所 有 権 の 概 要 等 に つ い て 確 認 す る。 事 後：占 有 権 及 び 所 有 権 の 概 要 等 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
5	用 益 物 権 (地 上 権、永 小 作 権、地 役 権) に つ い て 概 観 す る。				事 前：用 益 物 権 (地 上 権、永 小 作 権、地 役 権) の 概 要 に つ い て 確 認 す る。 事 後：用 益 物 権 (地 上 権、永 小 作 権、地 役 権) の 概 要 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
6	担 保 物 権 (留 置 権、先 取 特 権、質 権、抵 当 権) に つ い て 概 観 す る。				事 前：担 保 物 権 (留 置 権、先 取 特 権、質 権、抵 当 権) の 概 要 に つ い て 確 認 す る。 事 後：担 保 物 権 (留 置 権、先 取 特 権、質 権、抵 当 権) の 概 要 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
7	債 権 の 発 生 原 因、債 権 の 種 類、債 権 の 効 力 等 に つ い て 概 観 す る。				事 前：債 権 の 発 生 原 因、債 権 の 種 類、債 権 の 効 力 等 の 概 要 に つ い て 確 認 す る。 事 後：債 権 の 発 生 原 因、債 権 の 種 類、債 権 の 効 力 等 の 概 要 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
8	債 務 不 履 行 と 損 害 賠 償 に つ い て 概 観 す る。				事 前：債 務 不 履 行 と 損 害 賠 償 の 概 要 に つ い て 確 認 す る。 事 後：債 務 不 履 行 と 損 害 賠 償 の 概 要 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
9	契 約 の 成 立、契 約 の 効 力、典 型 契 約 等 に つ い て 概 観 す る。				事 前：契 約 の 成 立、契 約 の 効 力、典 型 契 約 等 の 概 要 に つ い て 確 認 す る。 事 後：契 約 の 成 立、契 約 の 効 力、典 型 契 約 等 の 概 要 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	
10	一 般 不 法 行 為 及 び 特 殊 不 法 行 為 に つ い て 概 観 す る。				事 前：一 般 不 法 行 為 及 び 特 殊 不 法 行 為 の 概 要 に つ い て 確 認 す る。 事 後：一 般 不 法 行 為 及 び 特 殊 不 法 行 為 の 概 要 に つ い て 確 認 し、ノ ー ト に ま と め る。			講 義 75 分 (そ の 中 で の 質 疑 応 答 あ り)、リ ア ク シ ョ ン ・ ペ ー パ ー の 記 入 15 分	

11	商人、その人的施設、物的施設、そして、商行為、営業類型等について概観する。	事前：商人、その人的施設、物的施設、そして、商行為、営業類型等の概要について確認する。 事後：商人、その人的施設、物的施設、そして、商行為、営業類型等の概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
12	会社、会社の種類、会社の機関等について概観する。	事前：会社、会社の種類、会社の機関等の概要について確認する。 事後：会社、会社の種類、会社の機関等の概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
13	有価証券、手形・小切手法を中心に概観する。	事前：有価証券、手形・小切手法に概要について確認する。 事後：有価証券、手形・小切手法に概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
14	夫婦、親子、そして、親族について概観する。	事前：夫婦、親子、そして、親族の概要について確認する。 事後：夫婦、親子、そして、親族の概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
15	相続、遺言、祭祀承継等について概観する。	事前：相続、遺言、祭祀承継等の概要について確認する。 事後：相続、遺言、祭祀承継等の概要について確認し、ノートにまとめる。	講義75分（その中での質疑応答あり）、リアクション・ペーパーの記入15分
教本：「六法（ポケット六法、デイリー六法等）」は、必ず準備してください。 参考文献：初回講義日に伝えます。			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	私法学Ⅱ（Private Law Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	藤原 俊雄								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰを履修していることが望ましい。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私法学Ⅰに引き続き、私法分野の法律問題とくにわれわれの日常生活に関わりの深い民法上の基本的な問題について学習する。下記の授業計画で示したように、教師が一方向的に口述する講義ではなくて学生参加型の授業なので、それなりの「覚悟」をもって受講することが望まれる。									
授業目標： 私法分野の法律問題を学習することによって、法的思考力・法的な問題解決能力を涵養することが、この授業の目標である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	双務契約の典型例としての売買契約の基本構造について説明できるようにする。					事前：ネットで検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 90分	
2	売買契約の効力・買戻しについて説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
3	賃貸借契約（賃貸借一般）の効力について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
4	賃貸借契約（宅地・建物）の効力について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
5	金銭消費貸借契約について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
6	連帯保証について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
7	雇用契約の現代的意義と新たな形態について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
8	会社と取締役の関係・委任契約の意義について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
9	患者と医者との関係、医者との責任の基本構造について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
10	物的担保の種類について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
11	抵当権の設定・効力について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
12	物上代位と抵当権の侵害について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
13	責任財産の保全、債権者代位権と詐害行為取消権について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
14	「親族とは何か」について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
15	有責配偶者の離婚請求に関する裁判例を説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの精読・ネットの検索 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
教本： とくにない。					参考文献： 伊藤真著『伊藤真の民法入門 第7版』（日本評論社、2020）¥1,700				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（グループディスカッションへの参加状況20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 上記したように受講生参加型の授業ですので、そのつもりで履修すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	児 童 家 庭 福 祉 （Child and Family Welfare）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 玉 和 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 現代における児童家庭福祉の意義を理解し、子どもや家庭に対する法制度や行財政、実施機関・施設、歴史の変遷などについて学習する。また子どもの人権について考え、国際社会や日本における子どもの人権擁護を理解し、少子化社会の現状に対応した施策や子育て支援など、保育士資格に必要な基礎的知識を学んでいく。									
授業目標： 到達目標は以下の通りである。 1. 児童家庭福祉の意義や目的を理解できるようになる。 2. 歴史の変遷を経て現在の法制度等が成り立っていることを知り、現代社会の問題を理解できるようになる。 3. 子どもの基本的人権を保障する仕組みについて理解し、子どもの最善の利益を考えることができるようになる。 4. 子育て支援策を学び、子どもと家庭への支援の必要性を理解できるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	児童家庭福祉の意義を学び、現代社会の現状を把握し、どのような問題が存在するのか理解する。現在起きている子どもと家庭に関する問題についてグループディスカッションを行う。					事前：子どもと家庭に関する新聞記事等を読み、自分の意見を下書きする。 事後：グループディスカッションで発表された意見をまとめる。		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
2	児童家庭福祉における家庭支援の意味を考え、超少子高齢社会の現状について学ぶ。日本の超少子化社会の問題について配付資料を基にグループディスカッションを行う。					事前：超少子高齢社会に関連する記事等を読み、200字程度にまとめる。 事後：家族形態の変化と共働き世帯の増加との関連性についてまとめる。		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
3	欧米における児童家庭福祉の歴史の変遷を学ぶ。主として早くから福祉国家を目指したイギリスの歴史展開を、その当時の社会問題と合わせ理解する。					事前：中世以降のイギリスの歴史的發展を調べておく。 事後：その時代の子ども観を200字程度で整理する。		講義70分、リアクションペーパーの記入20分	
4	日本の児童家庭福祉の歴史の変遷を学ぶとともに、児童福祉施設の始まりについても学ぶ。日本の児童福祉施設についてグループディスカッションを行う。					事前：日本の歴史上重要な児童福祉施設について調べ200字程度にまとめる。 事後：日本と諸外国の歴史的發展の相違点をまとめる。		講義70分、事前学習のグループディスカッション20分	
5	子どもの人権について国際社会および日本での子どもの人権保障の仕組みを学ぶ。人権侵害に関する問題に関するグループディスカッションを行い、認識を深めていく。					事前：日本国憲法における基本的人権に関する事項を読み、ノートにまとめる。 事後：権利侵害状況について話し合った内容を200字程度でまとめる。		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
6	児童家庭福祉の法体系において、子どもに関する基本的法律である児童福祉法の意義と目的を学ぶとともに、関連する法制について学習する。					事前：テキスト第5章を読んでおく（p.41～48）。 事後：「子どもの最善の利益」を定めた法律等を整理する。		講義75分、事前学習に関する意見交換15分	
7	児童家庭福祉の行財政や実施体制を学び、実施する児童家庭福祉機関の役割や機能について理解する。					事前：テキスト第6章を読んでおく（p.49～56）。 事後：地域にある児童福祉機関の所在地と業務内容についてまとめる。		講義70分、事前学習に関する意見交換20分	
8	日本の児童福祉施設の成り立ちを知り、施設で働く専門職について理解する。					事前：保育士資格で勤務できる児童福祉施設を調べる。 事後：専門職に課せられている要件を整理しまとめる。		講義70分、事前学習に関する意見交換20分	
9	国が実施する子育て支援に関する少子化対策や地域における子育て支援の現状について学ぶ。待機児童問題に関するグループディスカッションを行う。					事前：日本の待機児童問題について調べ、200字程度にまとめる。 事後：現在までの少子化対策における重点課題を時系列にまとめる。		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
10	児童虐待など子どもに対する暴力についてその要因を理解し、対応する法制度や支援について学ぶ。児童虐待事件と児童相談所の対応等に関するグループディスカッションを行う。					事前：近年起きた児童虐待事件を調べ、200字程度で意見を書く。 事後：児童虐待に対応する児童福祉機関等を整理する。		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	

11	社会的養護を必要とする子どもへの福祉的支援について学ぶ。家庭で養護を受けられない子どもの現状とその後の育ちについて理解する。	事前：要養護児童に関する記事や本を読み、感想を書く。 事後：児童相談所や児童養護施設等の対応について200字程度でまとめる。	講義50分、DVD視聴20分、視聴レポート作成20分
12	障害のある子どもに対する福祉施策やサービス等について学ぶ。子どもの権利との関係についてグループディスカッションを行う。	事前：テキスト第11章を読んでおく（p.89～104）。 事後：子どもの人権との関連性について、自分の意見を200字程度でまとめる。	講義50分、グループディスカッション20分、発表20分
13	母子保健は子どもの育ちや親支援に必要であることを確認し、子どもの健全育成が行われている状況について学ぶ。	事前：保健所と保健センターの役割と機能を整理する。 事後：児童館で実施している子どもの健全育成事業を調べて整理する。	講義70分、事前学習に関する意見交換20分
14	ひとり親家庭の現状と支援策について学ぶ。	事前：ひとり親家庭の実態について調べ、200字程度でまとめる。 事後：ひとり親家庭を支援する機関・施設を整理する。	講義70分、事前学習に関する意見交換20分
15	子どもの貧困について認識し、現状を知るとともに支援策について学ぶ。	事前：地域の子どもの食堂などの活動を調べ、レポートを作成する。 事後：子どもの貧困の支援策を整理し、課題を考える。	講義60分、事前学習のレポート内容発表30分
教本：谷田貝公昭・石橋哲成監修、高玉和子・千葉弘明編著、コンパクト保育者養成シリーズ『新版 児童家庭福祉』一藝社、¥2,000（税別） 参考文献：授業中に適宜提示する。			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、ワーク、グループディスカッションのまとめ（40%）、レポート（40%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 子育て家庭を取り巻く社会状況や問題に関する本や新聞記事（インターネットの記事で可）などを読み、関心を持って主体的に調べることを望む。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	児童文学研究（Study of Children's Literature）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： (1) 児童文学の歴史を代表的作品で学ぶ (2) 児童文学を通して子どもたちの心の問題の認識を深める									
授業目標： (1) 明治以降の児童文学の作品を講読し、語り合う (2) 子ども生きる課題を追究し、自らの生き方を問い直す (3) レポートディスカッションの表現力、対話力の向上を目指す									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	・児童文学の成立－巖谷小波「こがね丸」と小川未明「赤い船」					事前：なし 事後：感想200字		講義 60分、話し合い 30分	
2	・童心主義－鈴木三重吉 児童雑誌『赤い鳥』（大正7年）					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
3	・小川未明「ろうそくと人魚」を読む					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
4	・子どもは純粋無垢なものか－小川未明「ろうそくと人魚」を検討する					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
5	・子どもこそ正義－プロレタリア児童文学（昭和初期）					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
6	・坪田譲治「風の中の子ども」を読む					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 20分、映画鑑賞 40分、 話し合い 30分	
7	・環境の中成長していく子ども－坪田譲治「風の中の子ども」を検討する					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
8	・童話伝統批判－灰谷健次郎「兎の眼」（昭和44年）					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
9	・灰谷健次郎「兎の眼」を読む					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		作品を読む 60分、話し合い 30分	
10	・未明を焼く－灰谷健次郎「兎の眼」を検討する					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
11	・ファンタジーとは何か－安房直子「きつねの窓」					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
12	・安房直子「きつねの窓」を読む					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		作品を読む 45分、話し合い 45分	
13	・失敗作か－安房直子「きつねの窓」を検討する					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
14	・児童小説と児童童話のちがい－宮沢賢治「注文の多い料理店」を読む。					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		作品を読む 30分、 話し合い 30分、講義 30分	
15	・まとめ－芥川龍之介「白」を読む					事前：なし 事後：感想1200字		作品を読む 30分、 話し合い 30分、講義 30分	
教本：『語り論』が拓く文学の授業』（中村龍一著 ひつじ書房） 参考文献：・授業時に紹介する									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： レポート課題をしっかりと提出する。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	社会学 (Sociology)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	佃 直毅								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 社会と文化は人間の行為を通して制度という標準化された行為様式によって形づくられてきたものである。標準化され、制度化された人間の行為の集積が社会構造をつくり変動させ、社会としての機能を支えている。本授業科目では、社会を人間の行為を基盤においた社会のとらえ方を、いくつかの社会的構造や機能を通して学習する。									
授業目標： 社会学の視点で、身の回りの社会の様子を見て、社会の理解を深めることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	社会学的なものの見方 ーパーソンズ・F、の社会学から、今日の社会学の歴史的変遷をたどりながら					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
2	家族とは何か 日本だけでなく、世界の家族の形態を知る					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
3	家族のはたらき 日本の家族の働きを歴史的にたどる					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
4	家族関係の日本の特質 ー日本家族の肉感的親子関係を他国の特質と比較しながら理解する					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
5	消えゆく「里」と「村人」たち 里が都市にのまれていく課程を中心に					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
6	都市とは何か 都市機能とラーバンゼイションを振り返りながら理解する					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
7	コミュニティの変貌 コミュニティの質的变化を中心に学ぶ					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
8	組織の中の人間労働 組織の中でいかに人間性を確保できるか					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
9	職場の中の緊張関係 組織内の人間関係の特性をみる					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
10	職場生活・職業生活の変化 職業生活は生き方の中心となっている点に注目					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
11	労働における人間の復権 労働の中での生きがいと権利について					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
12	歴史と社会の変動 変化変動の要因となるものと現実について					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
13	近代化という変動 近代化は、変動としてどんな意味をもつか					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
14	社会学と社会病理の解明 社会病理とその要因となる人間関係を中心に					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
15	社会学の研究手法 社会調査法やその他の方法について					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義：70分 質疑応答：20分	
教本： 秋元律郎他著「社会学入門」（新版）有斐閣新書					参考文献： 姜尚中著「トーキョー・ストレンジャー」集英社 他は授業内で適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 現実の社会生活に目を向けて、学んだ内容をあてはめてみること、テキストを読んでから授業に臨むこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会学（Sociology）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 社会学では、社会学のベーシックな考え方を身につけることを目的としています。授業は①社会学とは何か②どのように社会の影響を受けているのか(社会化) ③社会学的な考え方や手法といった3つの観点を中心に授業をすすめていきます。									
授業目標： 社会学的想像力／社会学的思考を身につけることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：次回の配布資料を読む		講義 70分・発表 20分	
2	「社会的存在としての自己」とは何か 社会学の基本的な考え方である社会的存在としての自己について考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
3	「社会学的想像力」とはなにか 社会学の基本的な考え方である社会学的想像力について、考え、ディスカッションを通じてその重要性を理解してもらいます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
4	文化と社会 ブルデューの『ディスタンクシオン』を中心に階層について考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
5	「社会化」とはなにか 社会の中でわれわれがどう育まれるかについて「社会化」という視点から考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
6	ジェンダーの社会化 社会学の基本的な考え方である社会化について、ジェンダーの視点からより具体的に考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
7	家族における社会化 家族がどう変化し、なぜそういった変化が生じたか・どういった影響があるかを考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
8	学校における社会化 近年の教育問題は学校を取り巻く環境の変化が影響をしています。社会変化と学校の関係性を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
9	ヒドゥンカリキュラムから考える ヒドゥンカリキュラムから、学校で実際に何が伝達されているのか考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 30分	
10	情報化社会の中の私 情報化社会の影響の大きさについて、子どもの影響から考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
11	社会学史Ⅰ 古典ともいえる社会学者「コント」「デュルケイム」「ウェーバー」を中心に社会学がどう発展してきたのかを考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
12	社会学史Ⅱ 「機能主義」「コンフリクトの社会学」「シンボリックインタラクショニズム」といった社会学理論を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	
13	社会学の手法Ⅰ 質的調査の特徴を理解し、どう活用すればいいかを考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 20分・ グループディスカッション 60分・発表 10分	
14	社会学の手法Ⅱ 量的調査について、各種調査データの読み取り方・活用の仕方等を考えていきます。					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 20分・ グループディスカッション 60分・発表 10分	
15	まとめ					事前：資料を下読みする 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 90分	

教本： なし 毎回、作成したプリントを配布し、それにそって授業をすすめていきます。	参考文献： アンソニーギテンス「社会学（第五版）」而立書房 ￥3,888 その他授業中に適宜紹介します。
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価します。	
学生へのアドバイス： 社会学の狙いの一つは、社会学的思考力を身につけ、自分の考えを人に伝えるスキルを身につけることです。独学では難しいので、積極的に授業に参加し、一緒に考えていきましょう。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。	

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	社会心理学概論 (Social Psychology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 社会心理学はその研究対象が極めて広いため、幾つかのトピックスを取り上げて授業を行う。本授業では主に、個人における対人認知のあり方や、集団内における対人関係性のあり方、及び集団が個人に対する意見や態度変容を促す要因や仕組みを学ぶ。授業形態は、講義はもちろんであるが履修生の自発的な関心を高めるために、討議や履修生の発表を中心として行う。									
授業目標： 各トピックスが内包する心理学的な知識の習得にとどまらず、各事例が有する問題点に気づき、自分なりに考え、解釈することが出来るようになるまでが目標である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、ディスカッション 20分	
2	社会心理学の歴史、社会心理学の扱うテーマ・方法等の概略を学ぶ。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
3	傍観者効果、多元的無知の現象を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
4	社会的促進、社会的抑制、注意のコンフリクトの現象を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
5	メイヨーやレスリスバーガーが行った「ホーソン実験」、及び実験後に生まれた人間関係論を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
6	集団行動にみられる同調行動、集団斉一性、集団規範、集団凝集性の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
7	フェスティンガーが主張する「認知的不協和理論」と共に、「反態度的行動」の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
8	社会行動を理解するには、我々が有する「態度（社会的な態度）」と、態度を構成する認知的成分、感情的成分、行動的成分の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
9	社会的アイデンティティ、及びハイダーらが主張する「バランス理論」の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
10	自己知覚理論、内発的動機づけ、自己効力感の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
11	社会行動を理解するには、内集団、外集団、ステレオタイプ、偏見等の意味を考えることが重要であり、それらの現象の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
12	集団で話し合いを行い決定を下す際には、集団的浅慮、心理的拘泥現象等が関係する。これらの意味を学び理解委する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
13	説得的コミュニケーション、精緻化見込みモデルを学び意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
14	ジンバルドらによって実行されたスタンフォード監獄実験、並びに没個性化、社会的従属性の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、ディスカッション 30分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、ディスカッション 20分	

教本： 山岸俊男監修「徹底図解 社会心理学」（新星出版）¥1,600	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	社会心理学実験演習（Social Psychology Experimentation）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	心理学実験法、心理学統計法、データ処理入門を履修していることが望ましい							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本演習では、社会心理学の基本的な研究方法について、グループでの演習を行いながら学ぶ。基本的には、実験や調査によるデータ取得の方法とあわせてそのデータの解析方法を学び、「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」から成る研究レポートを提出していただく。									
授業目標： 実験・調査を体験し、研究レポートを作成することにより、人間の行動や内的状態を測定し、得られたデータから結論を導き出すプロセスを体得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、レポートの書き方					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	社会心理学実験・調査 ①：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習	
3	社会心理学実験・調査 ①：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習	
4	社会心理学実験・調査 ①：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習	
5	社会心理学実験・調査 ①：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習	
6	社会心理学実験・調査 ②：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習	
7	社会心理学実験・調査 ②：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習	
8	社会心理学実験・調査 ②：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習	
9	社会心理学実験・調査 ②：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習	
10	社会心理学実験・調査 ③：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習	
11	社会心理学実験・調査 ③：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習	
12	社会心理学実験・調査 ③：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習	
13	社会心理学実験・調査 ③：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習	
14	研究発表					事前：資料確認・課題検討 事後：演習内容の復習		発表 30分、 討議 60分	
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		演習	
教本： なし。授業中に資料を配布する。					参考文献： 授業中に適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、レポート（60%）で総合評価する。授業の3分の2以上に出席し、かつ3本のレポート全てを提出した場合にのみ、成績評価の対象となる。									
学生へのアドバイス： グループで行った実験・調査の結果をレポートにまとめていく演習であるため、授業への出席は、非常に重要である。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習										
授業科目(英文)	社会調査研究法演習（Practical Training of Field Work）						科目分類	専門科目											
担 当 教 員	深澤 伸幸																		
履 修 条 件	前提科目	社会調査入門、社会調査法、及び心理統計学のすべての単位を取得済みであること（必須条件）																	
	そ の 他	各自 PC を持参すること、演習という性質上履修生は10名以内とする																	
授業概要： 本授業では、社会調査研究法のまとめとして、自らが調査を企画し、調査項目の選定から調査票を作成することができ、さらに得られた調査データに基本的な検定を行い、調査報告書を作成できるまでを授業の到達目標とします。この目標に到達するに当たり、事前に社会調査入門、社会調査法、加えて心理統計学における様々な知見が必ず必要となります。本授業においては、講義の部分は極力削減し、各人の演習を中心とします。授業評価は調査報告書の手続きき上での適切さ、結果の処理や考察の完成度を対象として行います。																			
授業目標： 自らが社会調査を企画し、調査の実施と調査報告者が作成できることを授業の到達目標とします。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養												
◎			○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義70分、 ディスカッション20分											
2	調査の企画・準備、調査票の作成手続きを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義70分、 ディスカッション20分											
3	研究テーマの設定、目的等の調査企画を考える（1）					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義30分、ディスカッション30分、実習30分											
4	研究テーマの設定、目的等の調査企画を考える（2）					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義30分、ディスカッション30分、実習30分											
5	研究テーマの設定、目的等の調査企画を決定					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義30分、ディスカッション30分、実習30分											
6	参考文献の収集と仮説を考え、質問項目を考える（1）					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義30分、ディスカッション30分、実習30分											
7	参考文献の収集と仮説を考え、質問項目を考える（2）					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義30分、ディスカッション30分、実習30分											
8	質問項目を決定、調査票の作成					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義30分、ディスカッション30分、実習30分											
9	調査実施					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義30分、ディスカッション30分、実習30分											
10	調査データの入力作業					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義20分、実習70分											
11	調査結果の分析、作図・作表の作成					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義20分、実習70分											
12	統計検定法を用いての分析（1）					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義20分、実習70分											
13	統計検定法を用いての分析（2）					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義20分、実習70分											
14	調査報告書作成作業					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義20分、実習70分											
15	報告書修正作業、調査報告書提出					事前：全体を復習する。 事後：再度全体を復習する		講義20分、実習70分											
教本： 宮本和彦・梶原隆之・山村豊編「社会福祉士シリーズ5 社会調査の基礎」（弘文堂）、¥2,500										参考文献： 日花弘子著「できるビジネスパーソンのためのExcel統計解析入門」（SBクリエイティブ）									
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート（100％）等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1／3を超える場合には、報告書を提出しても評価しないので注意されたい。																			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																			

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習	
授業科目(英文)	社会調査入門（Primary Social Research）						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	深澤 伸幸									
履 修 条 件	前提科目	統計に関わる授業を履修していることが望ましい								
	そ の 他	各自 PC を持参すること								
授業概要： 社会調査とは何か、また調査結果をどのような形で分析に繋げることが出来るのか、という一連の過程を学ぶ。具体的には、得られた調査結果をエクセルのシート上に入力することに始まり、各人で初歩の統計法を用いることで調査対象が有する潜在的な特性を明らかにする。社会調査に関わる知識のみにとどまらず、PC を使い、各自で表数計算用のエクセルの活用ができるまでとする。										
授業目標： 社会調査の意味や手続きに加え、初歩の統計に関わる知識も学ぶ。この過程において、各自で PC を使い、エクセル上で初歩の分析ができ、かつ結果を正しく解釈できるまでを授業目標とする。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 90分		
2	社会調査の目的・種類、調査実施方法、数値の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分		
3	社会調査研究のプロセス、操作的定義と仮説の設定の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分		
4	社会調査の倫理、インフォームド・コンセントの意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分		
5	量的調査の性質、平均値、分散、標準偏差を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 70分、 ディスカッション 20分		
6	表計算シートのエクセルを使い、平均値・分散の意味、平均値や分散に関する計算の実習を行い、用語の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
7	エクセルシート上で例題を通じ、ヒストグラム分布を作成する手順を実習する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
8	引き続き履修生全員がエクセルシート上でヒストグラム分布を作成する手順を習得するまで実習を続ける。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
9	例題を通じて得られたヒストグラム分布結果を作図する実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
10	エクセルシート上で「データ分析ツール」を開き、基本統計量算出の実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
11	SD 法、カラーイメージの測定実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
12	カラーイメージ測定結果の入力方法、入力書式決定の実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
13	カラーイメージの測定結果から基本統計量を算出し、結果を空間表示できるまでの実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
14	演習として行われた実習結果をレポートにまとめ、社会調査報告書の形式を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分		
15	まとめ・全体を振り返る					事前：全体を復習する。 事後：再度全体を復習する		講義 90分		
教本： 宮本和彦・梶原隆之・山村豊編「社会福祉士シリーズ5 社会調査の基礎」（弘文堂）¥2,500										参考文献： 日花弘子著「できるビジネスパーソンのための Excel 統計解析入門」（SBクリエイティブ）
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（60%）、定期試験（40%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習										
授業科目(英文)	社会調査法 (Social Research)						科目分類	専門科目											
担 当 教 員	深澤 伸幸																		
履 修 条 件	前提科目	社会調査入門を履修済みであること																	
	そ の 他	各自 PC を持参すること																	
授業概要： 社会調査入門では、調査結果が量的数値として得られる場合を学んできたが、本授業では主に郵送調査や電話調査、様々なアンケートにおいて得られる質的数値での調査法を学ぶ。本授業においては社会調査に関わる知識のみにとどまらず、PC を用い、各自で表数計算用のエクセルの活用ができるまでとする。																			
授業目標： 社会調査の意味や手続きに加え、初歩の統計に関わる知識も学び、最終的に各人で質問項目を作成・実施し、かつ分析できるまでを授業目標とする。その過程でエクセルシートを活用し、データ入力、分析、結果のまとめとしても作図・作表方法を習得する。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養												
◎			○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、 ディスカッション 20分											
2	調査の企画・準備、調査票の作成手続きを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分											
3	調査の実施、母集団と標本、無作為抽出法の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分											
4	質的調査の特徴・種類、観察法の実施・記録法の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：振り返りシートに記述		講義 70分、 ディスカッション 20分											
5	質問紙調査とプロセス、調査票の基本構成を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 70分、 ディスカッション 20分											
6	質的社会調査の実用例、研究デザイン、データ収集方法を学び、各手続きを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 70分、 ディスカッション 20分											
7	調査手続きを理解するため、実際に調査テーマを設定し、質問項目作成、分析、レポート作成までを実習する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分											
8	実際に行う調査のテーマを、集団ブレインストーミングを通じて話し合い、調査目的を設定するまでを実習する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分											
9	実際の調査項目選定に向け、集団ブレインストーミングを通じて話し合い、調査項目を設定するまでを実習する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分											
10	引き続き実際の調査項目選定に向け、集団ブレインストーミングを通じて話し合い、調査票の作成までを実習する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分											
11	回収したデータをエクセルシート上に入力作業を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分											
12	上記で得られた調査データを群ごとに区分し、再度項目毎に基本統計量を算出する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分											
13	基本統計量の算出、作図・作表実習に加え、基礎的な統計検定法を用いた演算の実習を行う。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分											
14	演習として行われた実習結果をレポートにまとめ、社会調査報告書の形式を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業内容を復習する。		講義 20分、実習 70分											
15	まとめ・全体を振り返る					事前：全体を復習する。 事後：再度全体を復習する		講義 70分、 ディスカッション 20分											
教本： 宮本和彦・梶原隆之・山村豊編「社会福祉士シリーズ5 社会調査の基礎」（弘文堂）¥2,500										参考文献： 日花弘子著「できるビジネスパーソンのための Excel 統計解析入門」（SBクリエイティブ）									
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（60%）、定期試験（40%）等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。																			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																			

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会的養護（Social Care）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中島 健一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本科目では、児童養護施設など、社会的養護を担う児童福祉施設の実践内容について学ぶ。特に児童養護施設の実践を中心に、子どもたちの生活とそれを支える援助者（保育士など）の役割、求められるスキル、社会的養護の実践が抱える課題について、理解を深める。									
授業目標： 本科目では、社会的養護領域の施設で生活する子どもたちの現状と、施設養護実践における援助者側の課題理解を目標とする。自分自身の生活体験などと比較しつつ、社会的養護についての問題意識を明確にし、家庭養護との関連性について理解することを到達点とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業オリエンテーション、社会的養護とはなにか 「社会的養護」の学問的位置づけと重要性について解説する。					事前：シラバス通読 事後：授業予定等の確認		講義 60分、質疑 10分、 演習 20分	
2	社会的養護に関する社会的状況 子どもと家庭を取り巻く環境の変化について解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト 10分、講義 60分、 質疑等 20分	
3	子どもの人権と社会的養護 社会的養護における子どもの権利の考え方について解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト 10分、講義 60分、 質疑等 20分	
4	社会的養護の制度と法体系 児童相談所や市町村など関係機関の機能について解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト 10分、講義 60分、 質疑等 20分	
5	社会的養護の施設（1） 乳児院など養護系施設の概要について解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト 10分、講義 60分、 質疑等 20分	
6	社会的養護の施設（2） 障害児入所施設など障害系施設の概要について解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト 10分、講義 60分、 質疑等 20分	
7	家庭養護 里親制度ならびに関連する支援施策を概観する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト 10分、講義 60分、 質疑等 20分	
8	社会的養護の変遷／理念と概念 社会的養護の歴史を概観し、基本理念の変遷を概観する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト 10分、講義 60分、 質疑等 20分	
9	社会的養護の基本原則 社会的養護の 6 つの基本原則について解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト 10分、講義 60分、 質疑等 20分	
10	社会的養護の理論（1） 心理学領域を中心に社会的養護に関する諸理論を概観する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト 10分、講義 60分、 質疑等 20分	
11	社会的養護の理論（2） 家族再統合などソーシャルワーク領域の諸理論を概観する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト 10分、講義 60分、 質疑等 20分	
12	社会的養護の実施体系 児童養護施設など社会的養護の施設の体系を概観する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト 10分、講義 60分、 質疑等 20分	
13	社会的養護にかかわる専門職 社会的養護関係施設に従事する専門職について解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト 10分、講義 60分、 質疑等 20分	
14	被措置児童等虐待の防止 被措置児童等虐待防止の取り組みについて解説する。					事前：テキスト通読 事後：小テスト箇所の復習		小テスト 10分、講義 60分、 質疑等 20分	
15	社会的養護の課題 授業を振り返り、社会的養護の現状と課題を整理する。					事前：テキスト全体の通読 事後：授業全体の振り返り		質疑 10分、試験 40分、 講義 40分	
教本： よりそい支える社会的養護Ⅰ、中村正雄監修、浦田雅夫編著、教育情報出版、 ¥2,270＋税					参考文献： 授業中に指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業時に実施する小テスト（40％）、期末試験（40％）、授業参加状況等（20％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日頃から、新聞やTVニュースで、社会的養護の事象に関心を向けること（例、児童虐待、子どもの貧困など）。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必修(保育)	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	社会的養護内容 (Social Care Content)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中島 健一郎								
履 修 条 件	前提科目	社会的養護							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本科目では、社会的養護の歴史的変遷や、児童養護施設を中心とした児童福祉施設の現状と課題を理解した上で、子どものウェルビーイングを保障するための、保育士（対人援助職）としての責務と専門職倫理、必要となる援助技術について学ぶ。									
授業目標： 本科目では、社会的養護の実践現場で必要となる援助方法や、そのために必要となる専門スキル、活用すべき社会資源などの知識を獲得することを目指すとする。また、今日の社会情勢を広い視野で捉え、多様な角度から考察できる知識と問題意識の獲得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業オリエンテーション、社会的養護の実践について（概要） 「社会的養護」の授業を踏まえ、養護実践について概観する。					事前：シラバス通読 事後：授業予定等の確認		講義 60分、質疑 10分、 演習 30分	
2	社会的養護とは何か（その概要について） 講義と、子どもの貧困問題を中心とした事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10分、 講義 50分、演習 30分	
3	社会的養護を必要とする背景（社会が抱える問題） 講義と、児童虐待問題を中心とした事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10分、 講義 50分、演習 30分	
4	施設養護の原理・原則 養護の原理原則に基づく支援について、事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10分、 講義 50分、演習 30分	
5	養護系施設の実践内容・1（乳児院の実践について） 乳児院の実践について、事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10分、 講義 50分、演習 30分	
6	養護系施設の実践内容・2（児童養護施設の実践について） 児童養護施設の実践について、事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10分、 講義 50分、演習 30分	
7	障害系施設の実践内容（障害児入通所支援について） 講義と、障害児者支援に関する事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10分、 講義 50分、演習 30分	
8	施設における支援過程の理解・1（年齢に応じた支援） 講義と、施設入所児童の年齢別課題に関する事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10分、 講義 50分、演習 30分	
9	施設における支援過程の実践・2（入所～退所への流れ） 講義と、施設における援助過程に関する事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10分、 講義 50分、演習 30分	
10	施設における支援家庭の実践・3（1日の生活） 講義と、施設における日常生活支援に関する事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10分、 講義 50分、演習 30分	
11	施設の小規模化と里親制度 講義と、里親支援に関する事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10分、 講義 50分、演習 30分	
12	里親・里子の関係性を考える 講義と、里親、養子縁組制度に関する事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10分、 講義 50分、演習 30分	
13	里親制度と養子縁組制度 講義と、子どもの「出自を知る権利」に関する事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10分、 講義 50分、演習 30分	
14	「生い立ちの整理」とライフストーリーワーク（LSW） 講義と、LSW 実践における課題についての事例検討を行う。					事前：前回資料の通読 事後：事例の振り返り		小テスト 10分、 講義 50分、演習 30分	
15	授業のまとめ 授業を振り返り、社会的養護の現状と課題を整理する。					事前：過去の資料を精読 事後：授業全体の振り返り		小テスト 10分、 講義 50分、演習 30分	
教本： なし（授業時にレジュメ配布）					参考文献： 授業中に指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業時に実施する小テスト（70%）、授業参加状況等（30%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日頃から、新聞やTVニュースで、社会的養護の事象に関心を向けること（例、児童虐待、子どもの貧困など）。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	社会福祉概論（Introduction to Social Welfare）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高玉 和子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私たちの生活を支える社会福祉の仕組みについて理解し、福祉ニーズや課題についてグループディスカッションを通して思考力を養う。社会福祉の成り立ちや法制度、福祉サービス等を学び、少子高齢社会への対応について自分の意見を述べられる力を培う。社会福祉や保育等の現場で実践者としての基本的技術・知識を習得して対応する力をつける。									
授業目標：到達目標は以下の通りである。 1．社会福祉の意義と目的を理解できるようになる。 2．社会福祉制度について理解し、知識として活用できるようになる。 3．社会福祉の知識・技術を身につけ、福祉・保育等の現場で活用できるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	社会福祉に関する身近な生活問題についてグループで話し合ってみよう				事前：テキストの第1章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、グループワーク、グループ発表 40分	
2	社会福祉の歴史を理解し、今日の社会福祉の成り立ちを理解する				事前：テキスト第2章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、ワーク、グループ発表 40分	
3	社会問題について現代生活の中で何が起きているか関心を持ち、グループディスカッションを行う				事前：テキストの第3章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、ワーク、グループディスカッション、発表 40分	
4	日本の福祉政策を調べ、それぞれの施策についてグループディスカッションを行う				事前：テキストの第4章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、ワーク、グループディスカッション、発表 40分	
5	福祉サービスの供給を実際に担っている事業について調べ、グループディスカッションを行う				事前：テキストの第5章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、ワーク、グループディスカッション、発表 40分	
6	社会保障制度、特に現在の年金制度や医療制度、公的扶助等について知り理解を深め、グループワークを行う				事前：テキスト第5章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、ワーク、グループ発表 40分	
7	相談援助の基盤と方法について理解し、模擬体験する				事前：テキストの第7章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、ロールプレイ、感想 40分	
8	地域社会の社会資源の活用について考え、地域福祉についてグループディスカッションを行う				事前：テキストの第8章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、ワーク、グループディスカッション、発表 40分	
9	共生社会とは何か身近な事例をあげて考え、グループディスカッションを行う				事前：テキストの第9章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、ワーク、グループディスカッション、発表 40分	
10	子育て家庭の現状と支援を理解し、現在の問題についてグループディスカッションを行う				事前：テキストの第10章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、ワーク、グループディスカッション、発表 40分	
11	障害者の現状や生活実態に対し、何が求められているかを考え、グループディスカッションを行う				事前：テキストの第11章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、ワーク、グループディスカッション、発表 40分	
12	高齢者への福祉対応が喫緊の課題となっている状況を考え、グループディスカッションを行う				事前：テキストの第12章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、ワーク、グループディスカッション、発表 40分	
13	権利擁護の仕組みについて理解し、私たちの権利についてグループディスカッションを行う				事前：テキストの第13章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、ワーク、グループディスカッション、発表 40分	
14	日本とは異なる文化・経済背景をもつ諸外国の福祉の相違を理解しながら、福祉の在り方についてグループディスカッションを行う				事前：テキスト第14章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、ワーク、グループディスカッション、発表 40分	
15	これから必要とされる社会福祉の課題への対応について、グループディスカッションを行う				事前：テキスト第15章を読んでおく 事後：ワークの確認、まとめ			講義 50分、ワーク、グループディスカッション、発表 40分	
教本： 高玉和子・和田上貴昭編著『これから学ぶ・理解する社会福祉』一藝社（2023年3月刊行）					参考文献： 授業中に適宜提示する。				
成績評価の方法、評価基準： ワークおよびグループディスカッションのまとめ（70%）、レポート（30%）で総合評価。									
学生へのアドバイス： 少子高齢社会の中で学習することの意義は大きくなってきています。自分で調べて理解する力をつけてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	宗教史（Religion）						科目分類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 1. 宗教学とはなにかを理解する。 2. 日本の宗教の歴史について、特に日本の宗教について共に学び、考える。 3. 「日本の宗教」に関して主体的に考える力を養う。									
授業目標： 日本宗教の成り立ちやその基本的な思想・世界観を理解し、また、日本宗教が文化や政治とどのような相互関係にあったかについて理解を深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、 宗教とは。日本宗教の形成と展開について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	（通史）宗教の風景について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	（古代）神々の世界 神社の歴史と役割について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	（古代）儒教と道教と仏教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	（中古）平安時代の宗教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	（中古）平安仏教〔最澄・空海〕について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	（中世）鎌倉仏教、法然・親鸞・栄西・道元・日蓮について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	（中世）禅とその文化について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	（近世）近世の宗教と学問 キリスト教について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	（近世）国学と国体について学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	近代日本における政教分離の形成について考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	一神教と多神教。学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	宗教の未来。学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	学生の発表を行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	まとめ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： 授業時にプリント配付。					参考文献： 1. 末木文美士『日本宗教史』岩波書店、2006年（岩波新書） 2. 山折哲雄監修『宗教の事典』朝倉書店				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とレポート（50%）と試験（50%）などで評価する。仔細は授業時に明示する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	集団の社会心理学 (Social Psychology of Group-Behaviors)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： それぞれの集団間において、互いのコミュニケーションを図るために様々なジェスチャーやサイン行動等の表出を行っている。本授業では社会心理学並びに比較行動学の視点から、主になわばり行動（人間の空間行動）、身体的なサインやノンバーバルコミュニケーション行動を取り上げ、集団を含む社会行動の意味を理解する。									
授業目標： 我々が集団の一員として行う様々な社会行動の意味を学び、それらの意味と問題点が理解できることを、本授業の到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：宿題に取り組む		講義 70分、 ディスカッション 20分	
2	「動作」には生得的動作に始まり、発見動作、同化動作、訓練された動作に加え、獲得された混合動作があり、それらの動作の意味を理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
3	「ジェスチャー」には偶発ジェスチャー、表出ジェスチャー、模倣ジェスチャー等があり、各ジェスチャーの持つ意味を理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
4	「サイン（合図）」には肯定・否定のサインや、凝視行動、歓迎と送別や挨拶を示す行動などが含まれる。我々が他者に示す様々なサイン行動の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
5	我々が安心感や安らぎを求める際には、「身体接触結合サイン」や「自己接触行動」等を表出する。これらのサインが有する意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
6	我々が肯定や否定を行う際には、「矛盾信号」や「不足信号」、及び「過剰信号」等の身体表出を行っている。これらのサインが有する意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
7	我々が示す「なわばり行動」すなわち「パーソナルスペース（空間行動）」は、我々の快－不快の感情とも密接な関係がある。我々が有する空間行動の意味を理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
8	我々が強敵から身を守る際には「身をすくめる」、「防衛する」に加え、「服従する」等の行動を取る。これらの行動の意味を理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
9	様々な争いの際に見られる「利他的行動」や「闘争行動」に加え、「勝利のディスプレイ」を示す。これらの行動の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
10	外部からの刺激が遮断されると、我々は様々な精神的不安定状態に置かれる。「ひきこもり」現象のように、外部刺激が遮断されることが自律神経信号に変調をもたらすことを理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
11	人を不快にさせる他者の表出行動には「軽蔑信号」や「威嚇行動」等があり、これらの行動の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
12	人は男らしさや女らしさの信号として「着衣信号」や「身体装飾」等を行うが、これらの信号の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
13	他者との接触を求める際に、我々は「親信号」や「幼児信号」等を表出する。これらの信号の意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
14	集団で行われるスポーツ行動の歴史と意味を考え理解する。					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、 ディスカッション 20分	

教本： デズモンド・モリス（藤田 統 訳）「マンウォッチング 人間の行動学」、 小学館、¥4,800	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	集団間の対立と和解（Conflict and Compromise among Groups）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 歴史的に見ても、様々な国や集団間において対立や和解が起きている。これらの対立や和解には、他の集団に対する偏見や社会的な態度が大きく関わっている。また偏見や社会的態度を構成する要因としては、様々な社会的な事象や出来事が大きく関与している。本授業においては、対立や和解を生じさせる各種の要因を取り上げ、我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する。									
授業目標： 集団間の対立と和解を生み出す幾つかの社会的な要因をトピックスとして取り上げ、我々の社会生活に与える意味と問題点を考え、理解できることを到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）					事前：シラバスを読むこと 事後：宿題に取り組む		講義 70分、 ディスカッション 20分	
2	「グローバル化」と「ソーシャルネットワーク」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
3	「うわさと流行の心理」と「報道と世論」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
4	「社会的偏見と差別」と「社会的ジレンマ」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
5	「集団主義文化と個人主義文化」と「都市環境と人の幸福」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
6	「社会的促進と社会的抑制」と「社会的手抜き」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
7	「同調行動」と「集団的浅慮」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
8	「リーダーシップ」と「集団規範」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
9	「マイノリティ・インフルエンス」と「集団間葛藤と集団エゴイズム」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
10	「社会的アイデンティティ」と「没個性化」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
11	「子供どうしの人間関係」と「いじめ」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
12	「自尊心と感情の関係」と「愛の三角理論」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
13	「自己開示」と「自己呈示」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
14	「言語的コミュニケーション」と「非言語的コミュニケーション」が我々の社会生活に与える意味と問題点を理解する					事前：宿題に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、反転授業・プレゼンテーション 40分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、 ディスカッション 20分	

教本： 無藤 隆・森敏 昭・池上知子・福丸由佳編 「よくわかる心理学」、ミネルヴァ書房、¥3,000	参考文献：
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100％）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。	

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	食文化と観光 (Food Culture and Tourism)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 我が国における食文化の現状と特性及び食文化を活かした観光の現状と分析、海外との比較と外国人観光客にとっての食の魅力等を学修することにより、食文化と観光の今後のあり方について探求する。									
授業目標： ①我が国の食文化の特性について理解する。 ②食文化と国内観光・国際観光の現状と今後の食文化観光 (Food Tourism) のあり方を考察する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	
1	食文化と観光の構造：食文化と観光との関係について理解するための体系について学修する。				事前：和食の魅力について調査する。 事後：食文化と観光において学修すべき点について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
2	味覚と環境：味覚の基本的な構造及び味覚と環境との関係について学修する。				事前：味覚の構造について調査する。 事後：環境と味覚の関係について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
3	日本料理(和食)の特徴：日本食の秀でているところ、世界遺産としての和食の認定要件等、日本料理の特徴について学修する。				事前：食の無形文化遺産について調査する。 事後：和食の特徴について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
4	地域と食文化：地域の生活と密着して形成された食の素材・料理等における地域固有の食文化・地域特性について学修する。				事前：B 級グルメについて事例検索する。 事後：食の地域性について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
5	食と観光：観光における食の魅力と食観光の構造について学修する。				事前：食を目的とした旅行について調査する。 事後：観光と食との関係について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
6	食観光の変遷：観光における食の体験の類型と、観光の変遷に伴う食体験の変容について学修する。				事前：江戸時代の食について調査する。 事後：食観光の今日における課題を整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
7～11	食空間と観光：宿泊施設、食堂、路上(食べ歩き)、自然環境など観光における食と関連する場・施設やその内容の現状を把握することにより食と観光との関連について学修する。 ・都市と食環境 ・港・市場と食環境 ・農村と食環境など ・鉄道と食 (観光列車、駅弁など)				事前：観光地の食事場所について検索する。 事後：観光地における食の場・施設と観光の関係について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
12～13	国際観光と食文化の差異：インバウンド観光における和食の満足度の現状、韓国、台湾、モンゴル、ネパール等の地域の食文化、食のマナーや食器など海外との比較による和食文化の特性など、食文化における社会的差異について学修する。				事前：外国人観光客が求める日本の食文化について調査する。 事後：今後の国際観光における和食の活用方策について整理する。			各回：復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
14	麺文化と観光：そば、うどん、ラーメン、焼きそば等日本固有の発展を遂げている麺文化の現状と観光との連携について学修する。				事前：麺により観光振興を行っている事例を検索する。 事後：麺の地域性と観光活用について整理する。			各回：復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
15	塩文化と観光：塩の製造文化、塩の道、塩とエステ、塩と温泉など、塩と観光との連携について学修する。				事前：塩の効用と地域性について調査する。 事後：塩と観光との連携について整理する。			復習 10分、講義 70分、理解度テスト 10分	
教本： テキストは授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (10%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。基本的には在席中はいつでも可。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	書 道（Calligraphy）						科目分類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小川 美 年 子								
履 修 条 件	前提科目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 多様な文字環境の中で書くことの意義を見いだし、書くことによって思考力・文章力・審美力・表現力などの能力を育み、文字表現の実用的側面のみならず、芸術的側面を実技において学ぶ。									
授業目標： 日本の歴史の伝える書写書道教育が我が国の伝統文化に果たした役割を理解し、日常生活に必須である日本の文字や書を習得することによって、国語力の基礎を養い、これを土台に美に対する想像力・表現力を培う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	国語科書写で学ぶ内容と意義。 文字を正しく整えて速く書く。今までどのように文字を書いていたか。 用具用材の種類と制作について知ること。					事前：用具用材について調べる。 事後：用具用材について纏める		講義 50分 実技 30分 質疑応答 10分	
2	姿勢執筆法を学ぶ。筆の持ち方、腕の構え方・墨の磨り方などを実習する。漢字の変遷。漢字の歴史と書体について学ぶ。					事前：漢字の変遷を調べる 事後：姿勢執筆法を纏める		講義 50分 実技 40分	
3	楷書の基本用筆。前回の姿勢執筆法をふまえ、墨色・線質について実習を通して学ぶ。					事前：姿勢執筆法の復習 事後：テスの見直し		姿勢執筆法テスト 15分 講義 30分 実技 45分	
4	楷書の基本点画。前回の基本用筆をふまえ、とめ、はね、払い等 筆使いを実習する。					事前：墨色、線質の復習 事後：基本点画の練習。		講義 30分 実技 60分	
5	書の学び方。臨書の意義と方法。古典から学ぶ字形・執筆法。楷書の字形がどのようにできたのか。					事前：臨書とは何か調べる 事後：古典について纏める		講義 50分 実技 40分	
6	古典から学ぶ字形・執筆法。色々な字形・執筆法があり、実習を通して理解する。					事前：古典の特徴を纏める 事後：古典の復習		前回の古典の特徴を発表 10分 講義 30分 実技 50分	
7	中学書写の楷書指導。字形と筆順の関わりを理解する。 中学書写のお手本を使い、筆順を確認する。					事前：筆順確認 事後：筆順確認		講義 40分 実技 50分	
8	中学書写の楷書指導。字形の取り方。外形・中心・点画の関わり方。実習を通して字形の取り方を確認する。					事前：字形の練習 事後：字形の練習		筆順テスト 10分 講義 30分 実技 50分	
9	行書の基本用筆。行書の特徴、楷書との違いについて理解する。					事前：行書の特徴を調べる 事後：基本用筆練習		講義 40分 実技 50分	
10	古典から学ぶ行書の字形、筆使い。歴史的に有名な王羲之や蘭亭序について学ぶ。					事前：王羲之について纏める 事後：蘭亭序について纏める		講義 50分 実技 40分	
11	蘭亭序から学ぶ行書の字形・筆使い。					事前：蘭亭序について確認 事後：蘭亭序練習		蘭亭序テスト 15分 講義 30分 実技 45分	
12	古典から学ぶ行書。風信帖。空海や三筆・三蹟について日本の古典を学ぶ。					事前：三筆・三蹟を調べる 事後：風信帖練習		三筆・三蹟について発表 10分 講義 30分 実技 50分	
13	中学書写の行書。楷書と同じ課題を行書で書写し違いを理解する。					事前：行書の特徴確認 事後：字形練習		講義 30分 実技 60分	
14	中学書写の行書。楷書と同じ課題を、楷書との違いを指摘し行書書体に変えて書く。					事前：行書の特徴確認 事後：字形練習		講義 10分 実技 80分	
15	臨書した古典から文字を選び清書した作品を合評する。					事前：書く文字を選択する 事後：		実技 60分 合評 30分	
教本： なし					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 積極的に学ぶ姿勢。実技を伴いますから、毎回の積み重ねで、書写技術の向上を目指してください。									
オフィスアワー： 選択者は事前に教科書を注文してください。道具については初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	書道Ⅰ（CalligraphyⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小川 美年子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 多様な文字環境の中で書くことの意義を見いだし、書くことによって思考力・文章力・審美力・表現力などの能力を育み、文字表現の実用的側面のみならず、芸術的側面を実技において学ぶ。									
授業目標： 日本の歴史の伝える書写書道教育が我が国の伝統文化に果たした役割を理解し、日常生活に必須である日本の文字や書を習得することによって、国語力の基礎を養い、これを土台に美に対する想像力・表現力を培う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	国語科書写で学ぶ内容と意義。 文字を正しく整えて速く書く。今までどのように文字を書いていたか。 用具用材の種類と制作について知ること。					事前：用具用材について調べる。 事後：用具用材について纏める		講義 50分 実技 30分 質疑応答 10分	
2	姿勢執筆法を学ぶ。筆の持ち方、腕の構え方・墨の磨り方などを実習する。漢字の変遷。漢字の歴史と書体について学ぶ。					事前：漢字の変遷を調べる 事後：姿勢執筆法を纏める		講義 50分 実技 40分	
3	楷書の基本用筆。前回の姿勢執筆法をふまえ、墨色・線質について実習を通して学ぶ。					事前：姿勢執筆法の復習 事後：テスの見直し		姿勢執筆法テスト 15分 講義 30分 実技 45分	
4	楷書の基本点画。前回の基本用筆をふまえ、とめ、はね、払い等 筆使いを実習する。					事前：墨色、線質の復習 事後：基本点画の練習。		講義 30分 実技 60分	
5	書の学び方。臨書の意義と方法。古典から学ぶ字形・執筆法。楷書の字形がどのようにできたのか。					事前：臨書とは何か調べる 事後：古典について纏める		講義 50分 実技 40分	
6	古典から学ぶ字形・執筆法。色々な字形・執筆法があり、実習を通して理解する。					事前：古典の特徴を纏める 事後：古典の復習		前回の古典の特徴を発表 10分 講義 30分 実技 50分	
7	中学書写の楷書指導。字形と筆順の関わりを理解する。 中学書写のお手本を使い、筆順を確認する。					事前：筆順確認 事後：筆順確認		講義 40分 実技 50分	
8	中学書写の楷書指導。字形の取り方。外形・中心・点画の関わり方。実習を通して字形の取り方を確認する。					事前：字形の練習 事後：字形の練習		筆順テスト 10分 講義 30分 実技 50分	
9	行書の基本用筆。行書の特徴、楷書との違いについて理解する。					事前：行書の特徴を調べる 事後：基本用筆練習		講義 40分 実技 50分	
10	古典から学ぶ行書の字形、筆使い。歴史的に有名な王羲之や蘭亭序について学ぶ。					事前：王羲之について纏める 事後：蘭亭序について纏める		講義 50分 実技 40分	
11	蘭亭序から学ぶ行書の字形・筆使い。					事前：蘭亭序について確認 事後：蘭亭序練習		蘭亭序テスト 15分 講義 30分 実技 45分	
12	古典から学ぶ行書。風信帖。空海や三筆・三蹟について日本の古典を学ぶ。					事前：三筆・三蹟を調べる 事後：風信帖練習		三筆・三蹟について発表 10分 講義 30分 実技 50分	
13	中学書写の行書。楷書と同じ課題を行書で書写し違いを理解する。					事前：行書の特徴確認 事後：字形練習		講義 30分 実技 60分	
14	中学書写の行書。楷書と同じ課題を、楷書との違いを指摘し行書書体に変えて書く。					事前：行書の特徴確認 事後：字形練習		講義 10分 実技 80分	
15	臨書した古典から文字を選び清書した作品を合評する。					事前：書く文字を選択する 事後：		実技 60分 合評 30分	
教本： なし					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 積極的に学ぶ姿勢。実技を伴いますから、毎回の積み重ねで、書写技術の向上を目指してください。									
オフィスアワー： 選択者は事前に教科書を注文してください。道具については初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	情報基礎 (Basic Course of Information Technologies)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	井上明也・金 宰都・鈴木秀顕・山本美紀								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他	高校の情報科目の基本的なコンピュータスキルの習得が不十分な学生は必ず履修することを進める。							
授業概要： 学生生活において不可欠であるコンピュータおよびインターネットを活用する基本能力の育成を目標とし、コンピュータ利用の基礎となる技術を学ぶとともに、コンピュータ利用のマナーや情報倫理などを中心に講義を進める。今後、高度情報化社会へ進む上での第一歩を踏み出すための基本について、演習を通して学習する。									
授業目標：具体的には下記の項目を身につけることを目標とし、授業を行う。 1. コンピュータ利用のマナーや情報倫理の理解 2. コンピュータを用いた文書作成や表計算の利用スキル 3. インターネット活用スキル 4. 学生生活・社会生活に必要な ICT を活用する基本スキル									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	この授業科目に関するガイダンスおよび自己紹介文作成・提出する。				事前：シラバスを読む 事後：情報について調べる			講義80分、発表10分	
2	タイピングソフトの配布、練習、USB メモリの使い方、安全なパスワード作成方法、及びキーボードの操作を説明する。				事前：USB メモリを用意する 事後：授業関連課題を行う			講義40分、実習10分、 課題40分	
3	タイピングソフト練習、WindowsOS、GUI、ファイル管理、種類、文書の保存・読込みなどを習得し、その課題を行う。				事前：ID、パスワードを用意する 事後：タイピングを練習する			講義40分、実習10分、 課題40分	
4	タイピングソフト練習、及び絵描きソフトによる課題作成を行い、その課題を行う。				事前：ペイントについて調べる 事後：絵描きソフトを纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
5	タイピングソフト練習、文書形式、文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成し、その課題を行う。				事前：文書形式について調べる 事後：授業関連課題を纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
6	タイピングソフト練習、文字サイズの変更、文字揃えなどの関連課題の作成し、その課題を行う。				事前：文字揃えなどを調べる 事後：文字揃えなどを纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
7	タイピングソフト練習、均等割付・段組、縦書き文字などの関連課題の作成、及び提出する。				事前：段組などを調べる 事後：段組などを纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
8	タイピングソフト練習、表作成・編集を作成し、その課題を行う。				事前：表作成、表編集を調べる 事後：表作成、表編集を纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
9	タイピングソフト練習、英語文書作成（段組み、ドロップキャップ、ページ罫線）し、その課題を行う。				事前：英語文書を調べる 事後：英語文書作成を纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
10	タイピングソフト練習、図形描画の関連課題作成、及び提出する。				事前：図形描画を調べる 事後：図形描画を纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
11	タイピングソフト練習、トリミング練習、地図を作成し、その課題を行う。				事前：トリミングを調べる 事後：トリミングなどを調べる			講義40分、実習10分、 課題40分	
12	タイピングソフト練習、図レイアウト、数式入力を行う。				事前：数式入力を調べる 事後：数式入力などを纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
13	タイピングソフト練習、文書（レポート）作成を行い、その課題を提出する。				事前：レポート文書を調べる 事後：レポート文書作成を纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
14	タイピングソフト練習、文書（論文）作成を行い、その課題を提出する。				事前：論文文書を調べる 事後：論文文書作成を纏める			講義40分、実習10分、 課題40分	
15	最終総合演習として文書作成などをまとめ、その内容について議論する。				事前：総合課題を作成する。 事後：総合課題を提出する			講義50分、 ディスカッション40分	
教本：参考文獻： 『大学生のための情報処理演習』（立野貴之、共立出版）									
成績評価の方法、評価基準： 出席、授業に対する姿勢、タイピングテスト、提出課題の評価にて判断する。 出席・授業に対する姿勢（30%）、タイピングテスト（20%）、提出課題（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにして下さい。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。指定クラス以外での履修は抽選となります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	情報検索論（Information Retrieval Theory）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井 上 明 也								
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： 情報検索の技術は、大容量の多種多様な情報資源の中から必要な情報を効率的に見つけ出すために重要な基盤技術である。本講義では、情報検索の各種理論の概要とその実現技術について学ぶ。合わせて、具体的な検索対象を想定した演習により、効率的な情報検索方法を理解する。									
授業目標： 本講義では、情報検索の各種理論の概要とその実現技術を理解するとともに、必要な情報を効率的に得るための情報検索方法の修得も目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、情報検索技術の概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	情報検索システムの構成と処理概要					事前：資料を事前に読む 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
3	文書の収集・変換					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
4	索引付け					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
5	検索モデル					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
6	問い合わせ処理とユーザインターフェース					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
7	情報検索システムの性能評価					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
8	分類とクラスタリング					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
9	ソーシャル検索					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
10	各種メディアの検索					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
11	多言語情報アクセス					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
12	テキストマイニング					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
13	情報検索手法の基礎と検索戦略					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
14	情報検索演習Ⅰ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
15	情報検索演習Ⅱ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
教本： 講義初回のガイダンスで指示する。					参考文献： 講義内で指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（100％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論 (Information and Communication)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴 木 秀 顕								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 : 本講義では、デジタル時代における他との情報コミュニケーションについて、広報という形からの知見を高める。企業、個人、地域社会、自治体、マスコミ、それぞれの立場に立った上でのコミュニケーションについて、議論により理解を深める。									
授 業 目 標 : 現代社会のコミュニケーションについて、広報という立場から理解し、自分自身がその情報コミュニケーション能力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	産業社会とメディアの変容					事前：精読（11-29） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
2	デジタル時代に問われる広報コミュニケーション					事前：精読（33-45） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
3	コーポレートコミュニケーション					事前：精読（48-62） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
4	広報戦略の立案					事前：精読（66-78） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
5	ICTの活用とコミュニケーションデザイン					事前：精読（81-94） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
6	マーケティングコミュニケーション					事前：精読（97-110） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
7	インターナルコミュニケーション					事前：精読（113-124） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
8	CSRと地域社会への広報活動					事前：精読（127-138） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
9	成功するIR活動					事前：精読（141-152） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
10	グローバルコミュニケーション					事前：精読（156-168） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
11	電子自治体・行政広報の要点と実務					事前：精読（172-184） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
12	危機管理対応とリスク管理					事前：精読（187-197） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
13	コミュニケーション効果と効果測定					事前：精読（199-212） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
14	インターネット広報とオウンドメディアの活用					事前：精読（215-228） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
15	メディアリレーションズ					事前：精読（231-243） 事後：議論レポートの作成		講義45分 ディスカッション45分	
教 本 : 『広報コミュニケーション基礎』（宣伝会議）									
参 考 文 献 : 『みる／みられるのメディア論』（ナカニシヤ出版）									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
オ フ ィ ス ア ヱ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	情報システム概論 (Introduction to Computer Systems)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論							
	そ の 他								
授業概要： 情報システムの役割、情報技術、情報リテラシーの必要性、情報収集・加工・分析、情報の表現、論理的思考、ネットワーク化による資源の共有、インターネットの概要、電子メールによる業務の効率化、グループウェアとその機能などについて学習する。									
授業目標： 情報システムの構成要素であるコンピュータなどのハードウェア、ネットワークそして、ソフトウェアまでの基本的な知識が理解・修得ができて、また実際のビジネスの中で情報システムがどのように活用されているか、理解できることを学習する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、授業科目名である情報システムについて説明し、確認をする。					事前：教科書の準備をする 事後：情報について調べる		講義 80分、 ディスカッション 10分	
2	情報の歴史から現在のコンピュータの開発経緯まで説明し、その後、課題を行う。					事前：情報の歴史について調べる 事後：コンピュータ経緯を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
3	データの基礎的表現について説明する。n進数の相互変換について、その関係を含めて、理解し、その課題を行う。					事前：n進数について調べる。 事後：n進数を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
4	コンピュータ内で、数値、文字、画像、音声などのデータについて構造を説明する。その後、課題を行う。					事前：各種データについて調べる 事後：各種データを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
5	アナログ信号をデジタル信号に変換する原理を説明し、プログラミングを用いて課題を行う。					事前：デジタル信号を調べる 事後：デジタル信号を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
6	コンピュータの5大装置（入力、制御、記憶、演算、および出力装置）について学習する。その後、課題を行う。					事前：コンピュータ仕組みを調べる 事後：コンピュータの5大装置を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
7	ソフトウェアの基本構成（基本ソフトウェア、ミドルウェア、及び応用ソフトウェア）について理解し、その後、課題を行う。					事前：ソフトウェアを調べる 事後：ソフトウェアを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
8	OS (Operating System) のプログラム、および役割（種類、構成等）について理解し、その後、課題を行う。					事前：OSについて調べる 事後：OSを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
9	言語処理ソフトウェアの機械語、アセンブラ言語、及び高水準言語の種類及びその処理方式について学習し、課題を行う。					事前：言語処理を調べる 事後：言語処理を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
10	ファイル構成、論理レコードの形式、ファイルの編成及びファイル処理方式について説明する。その後、課題を行う。					事前：FAT32,NTFS等を調べる 事後：ファイルシステムを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
11	ネットワーク（プロトコルとOSI参照モデルなど）と情報システムについて説明し、課題を行う。					事前：OSI参照モデルを調べる 事後：OSI参照モデルを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
12	ネットワーク基礎について学習する。その後、課題を行う。					事前：伝送速度について調べる 事後：インターネットを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
13	データベースの構造、それを使用してレコードの検索およびレコードの並べ替えを実習し、課題を行う。					事前：データベースを調べる 事後：データベースを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
14	ソフトウェアの開発と保守の考え方及び情報セキュリティと重要性を理解し、その方法を学習し、課題を行う。					事前：情報セキュリティを調べる 事後：情報セキュリティを纏める		講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分	
15	コンピュータの構成や動作原理などを復習し、開発保守や情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する。					事前：全資料を下読みする。 事後：総合課題を提出する		講義 40分、 ディスカッション 50分	
教本： なし					参考文献： 「情報システム概論、和泉順子他、サイエンス社、2018」				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、課題（30%）、発表（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 初回の授業に必ず出席すること。情報システムの基礎知識（定義）を事前に調べること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	情報職業論（Information Vocational theory）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 秀顕								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他								
授業概要： 現代社会における職業は、情報による DX が進められており、今までのビジネスモデルを理解するとともに、これからのビジネスモデルまでも理解する必要が出てくる。それらビジネスモデルについて、知見を得るとともに、議論により理解を深める。									
授業目標： デジタルビジネスモデルを理解し、デジタルトランスフォーメーション DX に対する考え方を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	次世代企業の構築（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）					事前：精読①（14-38） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
2	デジタル化がもたらす脅威と事業機会（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）					事前：精読①（40-60） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
3	企業の未来のデジタルビジネスモデル（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）					事前：精読①（62-97） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
4	デジタル競争優位を生み出すもの（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）					事前：精読①（100-144） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
5	モバイルやIoTを使ってどのようにつながるか（ヤマダホールディングスグループ統合報告書にてディスカッション）					事前：精読①（146-194） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
6	ビジネスモデルとは何か。ビジネスモデル（アドオン）					事前：精読②（15-36） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
7	ビジネスモデル（アフェリエイト、合気道、オークション、バーター、キャッシュマシン、クロスセル）					事前：精読②（128-157） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
8	ビジネスモデル（クラファン、クラウドソーシング、カスタマーロイヤリティ、デジタル化、直販モデル、Eコマース）					事前：精読②（158-190） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
9	ビジネスモデル（体験の販売、フラット料金、部分所有、フランチャイズ、フリーミアム、プル戦略への移行）					事前：精読②（191-222） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
10	ビジネスモデル（稼働保証、隠れた収益源、素材ブランディング、インテグレーター、専門特化プレイヤー、顧客データ活用）					事前：精読②（223-252） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
11	ビジネスモデル（ライセンスリング、ロックイン、ロングテール、保有能力の活用、マスカスタマイゼーション、格安製品）					事前：精読②（253-282） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
12	ビジネスモデル（オープンビジネス、オープンソース、オーケストレーター、従量課金、賽銭方式、個人間取引）					事前：精読②（283-311） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
13	ビジネスモデル（成果報酬型契約、サブライム品、レンタル、レベニユーシェア、リバースエンジニア、リバースイノベ）					事前：精読②（312-340） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
14	ビジネスモデル（ロビンフッド、セルフサービス、店舗内出店、ソリューションプロバイダー、サブスク、スーパーマーケット）					事前：精読②（341-368） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
15	ビジネスモデル（低所得層ターゲット、廃品リサイクル、両面マーケット、究極の逸品、プロシューマー、OEM製品）					事前：精読②（367-398） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
教本： ①『デジタル・ビジネスモデル』（日本経済新聞出版社） ②『ビジネスモデルナビゲーター』（翔泳社）					参考文献： ヤマダホールディングスグループ統合報告書				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ビジネスモデルを中心に考察、議論していきます。事前準備をしっかりとってから臨んでください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 処 理 概 論 (Basic Course of Informaition Technologies)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井上明也・金 宰 郁・鈴木秀顕・山本美紀								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他	高校の情報科目の基本的なコンピュータスキルの習得が不十分な学生は必ず履修することを進める。							
授業概要： 学生生活において不可欠であるコンピュータおよびインターネットを活用する基本能力の育成を目標とし、コンピュータ利用の基礎となる技術を学ぶとともに、コンピュータ利用のマナーや情報倫理などを中心に講義を進める。今後、高度情報化社会へ進む上での第一歩を踏み出すための基本について、演習を通して学習する。									
授業目標：具体的には下記の項目を身につけることを目標とし、授業を行う。 1. コンピュータ利用のマナーや情報倫理の理解 2. コンピュータを用いた文書作成や表計算の利用スキル 3. インターネット活用スキル 4. 学生生活・社会生活に必要な ICT を活用する基本スキル									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習 （学習課題）		授 業 形 態	
1	この授業科目に関するガイダンスおよび自己紹介文作成・提出する。					事前：シラバスを読む 事後：情報について調べる		講義80分、発表10分	
2	タイピングソフトの配布、練習、USBメモリの使い方、安全なパスワード作成方法、及びキーボードの操作を説明する。					事前：USBメモリを用意する 事後：授業関連課題を行う		講義40分、実習10分、課題40分	
3	タイピングソフト練習、WindowsOS、GUI、ファイル管理、種類、文書の保存・読込みなどを習得し、その課題を行う。					事前：ID、パスワードを用意する 事後：タイピングを練習する		講義40分、実習10分、課題40分	
4	タイピングソフト練習、及び絵描きソフトによる課題作成を行い、その課題を行う。					事前：ペイントについて調べる 事後：絵描きソフトを纏める		講義40分、実習10分、課題40分	
5	タイピングソフト練習、文書形式、文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成し、その課題を行う。					事前：文書形式について調べる 事後：授業関連課題を纏める		講義40分、実習10分、課題40分	
6	タイピングソフト練習、文字サイズの変更、文字揃えなどの関連課題の作成し、その課題を行う。					事前：文字揃えなどを調べる 事後：文字揃えなどを纏める		講義40分、実習10分、課題40分	
7	タイピングソフト練習、均等割付・段組、縦書き文字などの関連課題の作成、及び提出する。					事前：段組などを調べる 事後：段組などを纏める		講義40分、実習10分、課題40分	
8	タイピングソフト練習、表作成・編集を作成し、その課題を行う。					事前：表作成、表編集を調べる 事後：表作成、表編集を纏める		講義40分、実習10分、課題40分	
9	タイピングソフト練習、英語文書作成（段組み、ドロップキャップ、ページ野線）し、その課題を行う。					事前：英語文書を調べる 事後：英語文書作成を纏める		講義40分、実習10分、課題40分	
10	タイピングソフト練習、図形描画の関連課題作成、及び提出する。					事前：図形描画を調べる 事後：図形描画を纏める		講義40分、実習10分、課題40分	
11	タイピングソフト練習、トリミング練習、地図を作成し、その課題を行う。					事前：トリミングを調べる 事後：トリミングなどを調べる		講義40分、実習10分、課題40分	
12	タイピングソフト練習、図レイアウト、数式入力を行う。					事前：数式入力を調べる 事後：数式入力などを纏める		講義40分、実習10分、課題40分	
13	タイピングソフト練習、文書（レポート）作成を行い、その課題を提出する。					事前：レポート文書を調べる 事後：レポート文書作成を纏める		講義40分、実習10分、課題40分	
14	タイピングソフト練習、文書（論文）作成を行い、その課題を提出する。					事前：論文文書を調べる 事後：論文文書作成を纏める		講義40分、実習10分、課題40分	
15	最終総合演習として文書作成などをまとめ、その内容について議論する。					事前：総合課題を作成する。 事後：総合課題を提出する		講義50分、ディスカッション40分	
教本：参考文獻： 『文科系学生のための情報活用』（立野貴之、共立出版）									
成績評価の方法、評価基準： 出席、授業に対する姿勢、タイピングテスト、提出課題の評価にて判断する。 出席・授業に対する姿勢（30%）、タイピングテスト（20%）、提出課題（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにして下さい。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。指定クラス以外での履修は抽選となります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	情報セキュリティ概論（Introduction to Information Security）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 情報セキュリティの歴史や、暗号の歴史、認証、ウィルス、電子透かし等の脅威や OS、アプリケーション、プログラミングレベルでのセキュリティ対策等の技術的な対策要素について学ぶ。また、技術演習を行い、実際の対策も経験する。									
授業目標： 情報セキュリティの必要性を理解し、最近の情報セキュリティ技術動向を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	ガイダンス、授業科目名である情報セキュリティについて説明する。				事前：教科書の準備をする 事後：情報セキュリティを調べる			講義 80分、ディスカッション 10分	
2	情報セキュリティの考え方、技術の歴史について説明し、その後、課題を行う。				事前：セキュリティ歴史を調べる 事後：セキュリティ歴史を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
3	情報セキュリティ基礎であるセキュリティの考え方（3要素、時系列、及び管理方法）を学ぶ。その後、課題を行う。				事前：セキュリティ要素を調べる 事後：セキュリティ要素を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
4	情報セキュリティに対するインシデントの具体例、企業の対策状況を学ぶ。				事前：インシデントを調べる 事後：セキュリティのインシデントを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
5	情報セキュリティにおける脅威（不正アクセス、ウィルス感染等）について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：セキュリティ脅威を調べる 事後：暗号技術を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
6	情報セキュリティ技術の基礎となる暗号技術について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：暗号技術について調べる 事後：暗号技術を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
7	電子署名、電子認証、及び PKI の方式、運用について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：PKI について調べる 事後：電子署名、PKI を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
8	情報セキュリティ対策（ファイアウォール機能、種類、構成など）について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：ファイアウォールを調べる 事後：ファイアウォールを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
9	情報セキュリティ対策（有効なウィルス対策、SPAM メール対策、及び認証の強化など）について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：SPAM メールを調べる 事後：セキュリティ対策を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
10	侵入技術、DOS 攻撃、実装攻撃について現状と技術について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：DOS 攻撃を調べる 事後：セキュリティ攻撃を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
11	安全なネットワーク構成の考え方について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：DMZ について調べる 事後：安全なネットワーク構成を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
12	情報セキュリティポリシー策定（必要性、概念等）について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：セキュリティポリシーを調べる 事後：セキュリティポリシーを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
13	情報セキュリティの国際標準と法規について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：情報セキュリティの国際標準を調べる 事後：情報セキュリティの国際標準を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
14	クラウドコンピューティングの考え方と情報セキュリティリスクについて学ぶ。その後、課題を行う。				事前：セキュリティリスクを調べる 事後：セキュリティリスクを纏める			講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分	
15	学習内容を纏めて復習し、整理する。情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する。				事前：全資料を下読みする。 事後：総合課題を提出する			講義 40分、ディスカッション 50分	
教本： 情報セキュリティ初級公式問題集 全日本情報学習振興協会					参考文献： 情報セキュリティ初級認定試験関連の参考書				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、課題（30%）、発表（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 初回の授業に必ず出席すること。情報セキュリティの基礎知識（定義）を事前に調べること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	情報セキュリティ論 (Information Security)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前提科目	情報セキュリティ概論							
	そ の 他	なし							
授業概要： この授業では、情報システムとネットワークなどで重要になっているセキュリティ技術および関連するソフトウェア技術を、コンピュータで実習を行いながら習得する。									
授業目標： 企業にとっての情報管理の本質である機密性、一貫性及び可用性の確保とは何かを理解し、そのために必要な情報セキュリティの問題の本質を理解しながら、情報セキュリティの基礎と応用の最新技術を習得する。プログラミングを用いて演習も行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、授業科目名である情報セキュリティについて説明する。					事前：教科書の準備をする 事後：情報セキュリティを調べる		講義 80分、ディスカッション 10分	
2	情報セキュリティの必要性、対策について説明し、その後、課題を行う。					事前：情報セキュリティを調べる 事後：情報セキュリティを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
3	不正攻撃（ハッカーとクラッカー、及びサイバーテロ）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：ハッカーを調べる 事後：不正攻撃を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
4	不正攻撃（DoS、トロイの木馬、及びセキュリティホールなど）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：トロイ木馬を調べる 事後：不正攻撃を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
5	ウイルス（不正プログラムの種類、ウイルスの種類、及びワームなど）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：ウイルスを調べる 事後：ウイルスを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
6	共通鍵暗号（DES、3DES、AES など）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：共通鍵暗号について調べる 事後：共通鍵暗号を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
7	公開鍵暗号（RSA など）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：RSA について調べる 事後：公開鍵暗号を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
8	ブロック暗号のモード（ECB モード、CBC モードなど）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：ブロック暗号を調べる 事後：ブロック暗号を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
9	ハイブリッド暗号システムについて学ぶ。その後、課題を行う。					事前：ハイブリッド暗号を調べる 事後：ハイブリッド暗号を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
10	一方向ハッシュ関数（MD5、SHA-3など）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：MD5について調べる 事後：ハッシュ関数等を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
11	メッセージ認証子（MAC、HMAC など）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：MAC について調べる 事後：メッセージ認証子を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
12	デジタル署名（技術、利用など）について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：デジタル署名を調べる 事後：デジタル署名を纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
13	ステガノグラフィと電子透かしについて学ぶ。その後、課題を行う。					事前：電子透かしを調べる 事後：電子透かしを纏める		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
14	鍵・乱数・応用技術について学ぶ。その後、課題を行う。					事前：暗号技術の鍵、乱数を調べる 事後：暗号技術の鍵・乱数を纏める		講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分	
15	学習内容を纏めて復習し、整理する。情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する。					事前：全資料を下読みする。 事後：総合課題を提出する		講義 40分、ディスカッション 50分	
教本：					参考文献： 情報セキュリティ概論，瀬戸洋一 他著				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、課題（40%）、発表（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 情報セキュリティの概要と基礎理論の基礎知識（定義）を事前に調べること。予習・復習を行い、授業には欠席しないこと。課題で授業の内容をもう一度理解して確認すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 理 論 (Information Theory)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 情報データを数理的に取り扱う理論とデジタル表現に変換する方法を学ぶ。次に、デジタル情報データについて、圧縮したり、誤りが生じたときにそれを検出・訂正したり、情報を暗号化したりする方法について説明する。数値・文字・音声・画像・動画などのさまざまな形態の情報が、その特性に応じてどのような方式でデジタル情報として処理されているかを解説する。									
授業目標： 情報データの圧縮、誤り検出・訂正、暗号化、符号化の方法について理解する。数値・文字・音声・画像・動画を実際にデジタル化する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	ガイダンス、 授業科目名であるメディア技術について説明し、確認をする。					事前：教科書の準備をする。 事後：メディア関連書を調べる。		講義 80分、ディスカッション 10分	
2	メディア技術において数学的準備である情報（数値データ）のデジタル化を説明し、数値データ表現の課題を行う。					事前：n進数について調べる。 事後：数値データ化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
3	メディア技術において数学的準備である情報（文字データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。					事前：文字データを調べる。 事後：文字データ化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
4	数値、文字データのデジタル化の課題についてディスカッションを行い、発表を行う。					事前：バイナリデータを調べる。 事後：バイナリデータを纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
5	メディア技術において数学的準備である情報（画像データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。					事前：画像データを調べる。 事後：画像データ化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
6	メディア技術において数学的準備である情報（音声データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。					事前：音声データを調べる。 事後：音声データ化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
7	画像、音声データのデジタル化の課題についてディスカッションを行い、発表を行う。					事前：RGB,CMYKを調べる。 事後：RGB,CMYKを纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
8	オープンネットワーク社会におけるメディア技術の概要、および動向を説明し、課題を行う。					事前：メディア技術を調べる。 事後：メディア技術の概要、および動向を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
9	メディア技術の処理基礎である情報圧縮技術について説明し、課題を行う。					事前：情報圧縮技術を調べる。 事後：情報圧縮技術を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
10	メディア技術の処理基礎である音声、音響符号化、および復号化技術について説明し、課題を行う。					事前：音響符号化を調べる。 事後：音響符号化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
11	メディア技術の処理基礎である画像圧縮、および符号化について説明し、課題を行う。					事前：画像圧縮、符号化を調べる。 事後：画像圧縮、符号化を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
12	メディア技術の処理基礎である復号化技術について説明し、課題を行う。					事前：復号化技術を調べる。 事後：復号化技術を纏める。		講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
13	マルチメディア作品として動画制作をしながら、コンセプトシート（テーマ、企画立案、構成など）を作成する。					事前：SNSにつて調べる。 事後：コンセプトシートを纏める。		講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分	
14	動画制作の最終確認を行う。コンセプトシートを提出する。					事前：動画の編集を行う。 事後：動画の最終確認を行う。		講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分	
15	課題発表会にて動画を上映し、評論する。					事前：全資料を下読みする。 事後：発表の振り返り。		発表 60分、ディスカッション 30分	
教本： なし					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、課題（30%）、発表（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 初回の授業に必ず出席すること。情報理論の基礎知識（定義）を事前に調べること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	情報倫理（Information Ethics）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 秀 顕								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他								
授業概要： 情報社会が進展している。その中には、本来知るべき情報のほか、人々が興味を持つことだけが優先されてしまうためにフェイクニュースなども出回ってしまっている。それは、人としての倫理観が失われているほかならない。本講義では、情報社会における倫理観を知り、醸成するとともに現代社会のニュースによるディスカッションを行うことにより理解を深める。									
授業目標： 本講義の目的は、情報倫理の基本的な考え方を身につけ、ニュース時事能力検定 3 級程度の実力を身につけることである。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	情報倫理の必要性					事前：シラバスを読む 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
2	情報通信社会とインターネット、進化と変遷					事前：精読（21-34） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
3	ネット時代のコミュニケーション					事前：精読（35-47） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
4	メディアの変遷					事前：精読（49-61） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
5	メディアリテラシー					事前：精読（63-76） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
6	情報技術とセキュリティ					事前：精読（77-88） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
7	インターネットと犯罪					事前：精読（89-100） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
8	個人情報とプライバシー					事前：精読（101-114） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
9	知的所有権とコンテンツ					事前：精読（115-128） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
10	企業と情報倫理					事前：精読（129-140） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
11	科学技術と倫理					事前：精読（141-153） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
12	ビッグデータと AI の倫理					事前：精読（155-169） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
13	デジタルデバイドとユニバーサルデザイン					事前：精読（171-184） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
14	SNS と情報モラル					事前：精読（185-196） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
15	情報通信社会とリテラシー					事前：精読（197-204） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
教本： 『情報倫理』（技術評論社）					参考文献： 2023年度版ニュース検定公式テキスト＆問題集「時事力」基礎編（3・4 級対応）				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 事前準備として、テキストの精読は準備しておいてください。また、ディスカッションはニュースに基づいたテーマにより行われます。常にニュースを気にしつつ、ディスカッションへは積極的に参加するようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	人 工 知 能 と 未 来 (Artificial Intelligence and the Future)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井 上 明 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	デ ー タ サ イ エ ン ス、統 計 学、多 変 量 解 析 入 門、情 報 倫 理、情 報 セ キ ュ リ テ ィ 論、プ ロ グ ラ ム ミ ン グ 基 礎							
	そ の 他	ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と							
授 業 概 要： 本講義では、人工知能の全体像とその基礎技術を理解した上で、どのような対象に活用され、またビジネス領域にどのような影響を与えるかを、講義、演習、グループディスカッション、プレゼンテーションを通じて理解する。									
授 業 目 標： 人工知能の全体像とその基礎技術を理解することにより、既存の適用事例における効果や課題を分析・理解できる能力、新たな対象やビジネス領域への適用の可能性を検討できる能力の修得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	シラバスの説明、人工知能 AI 概説 この授業の目標、実施方法、内容等について説明する					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講 義	
2	人工知能の歴史と論理的な思考法：人工知能の歴史と人工知能の技術を理解する上で必要となる論理的な思考法について					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 60分 演 習 30分	
3	AI 技術 1 機械学習の分類、基本的な考え方、評価指標等について学ぶ					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 60分 演 習 30分	
4	AI 技術 2 予測を目的とした機械学習の手法と適用事例について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 60分 演 習 30分	
5	AI 技術 3 実データによる演習課題により機械学習の予測手法を学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 60分 演 習 30分	
6	AI 技術 4 分類を目的とした機械学習の手法と適用事例について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 60分 演 習 30分	
7	AI 技術 5：ニューラルネットワーク & ディープラーニング、及び教師なし機械学習の手法と適用事例について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 60分 演 習 30分	
8	人工知能技術の活用 1 機械学習による画像認識モデルの作成と評価を行う					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 60分 演 習 30分	
9	人工知能技術の活用 2：前回作成したモデルと評価のプレゼン、機械学習による音声認識モデルの作成と評価を行う					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 60分 演 習 30分	
10	AI 戦略の取り組み概要：国内における AI 技術への取り組み概要と AI 利活用ガイドラインについて学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 60分 演 習 30分	
11	人工知能のビジネス活用事例と課題 1：AI 技術が実装された対象のインパクトとリスク、課題について議論し、まとめる					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講 義 30分、 ディスカッション 60分	
12	人工知能のビジネス活用事例と課題 2：前回の検討結果のプレゼンと、2 つ目の対象についてのグループディスカッション					事前：プレゼン資料を作成する 事後：資料と課題を復習する		プレゼン 30分 ディスカッション 60分	
13	人工知能のビジネス活用事例と課題 3：前回の検討結果のプレゼンと、3 つ目の対象についてのグループディスカッション					事前：プレゼン資料を作成する 事後：資料と課題を復習する		プレゼン 30分 ディスカッション 60分	
14	人工知能のビジネス活用事例と課題 4：前回の検討結果のプレゼンと、4 つ目の対象についてのグループディスカッション					事前：プレゼン資料を作成する 事後：資料と課題を復習する		プレゼン 30分 ディスカッション 60分	
15	人工知能のビジネス活用事例と課題 5：各自が選定したビジネス活用事例について検討した結果をプレゼンする					事前：プレゼン資料を作成する 事後：これまでの資料を復習する		講 義 10分 プレゼン 80分	
教 本： 指定しない					参 考 文 献： 講義内で指示する				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 演習課題・レポート等（100％）で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	人口問題（Population Problems）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	松浦 広明								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他								
授業概要： 人類の始まりから現在に至るまで、これまで約1080億人のヒトが地球上に生を受け、その約7％にあたる約70億人が、今、地球上に暮らしています。地球上に、かつて、これだけの人々が暮らしていた時代はありません。そして、この数は、今後もさらに増え続けると予測されています。本授業では、人口の増減および人口構成の変化が作り出す社会・経済・環境問題について学習します。									
授業目標：									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクション					事前：リヴィー・バッチ（ch.1） 事後：講義資料の復習		講義 90分	
2	人口学の基本的なコンセプト					事前：講義資料の予習 事後：講義資料の復習		講義 90分	
3	人口増加と経済成長					事前：講義資料の予習 事後：講義資料の復習		講義 90分	
4	人口転換の理論と歴史					事前：リヴィー・バッチ（ch.4&5） 事後：講義資料の復習		講義 90分	
5	少子高齢化					事前：講義資料の予習 事後：講義資料の復習		講義 90分	
6	人間の寿命とその決定要因					事前：講義資料の予習 事後：講義資料の復習		講義 90分	
7	将来人口の推計					事前：講義資料の予習 事後：講義資料の復習		講義 90分	
8	結婚と離婚					事前：講義資料の予習 事後：講義資料の復習		講義 90分	
9	ビジネスと人口学					事前：講義資料の予習 事後：講義資料の復習		講義 90分	
10	貧困の計測					事前：講義資料の予習 事後：講義資料の復習		講義 90分	
11	都市化					事前：講義資料の予習 事後：講義資料の復習		講義 90分	
12	人権の人口学					事前：講義資料の予習 事後：講義資料の復習		講義 90分	
13	移民の人口学					事前：講義資料の予習 事後：講義資料の復習		講義 90分	
14	難民・強制移住					事前：講義資料の予習 事後：講義資料の復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：レポート課題 事後：レポート課題		講義 90分	
教本： マッシモ・リヴィーバッチ著『人口の世界史』、東洋経済新報社、2014年 佐藤・松浦(編)「SDGsの人口学」(人口学ライブラリー) 原書房、2023 鬼頭宏著『上智大学の学生たちの熱い関心を集めた 愛と希望の「人口学講義』、ウェッジ、2015年						参考文献：			
成績評価の方法、評価基準：出席態度重視 小テスト・レポート等（100％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 人口学は、単純な学問のようですが、それだけに応用範囲が非常に広い学問です。ぜひ自分の関心と結び付けてみてください。講義はスライドを中心にを行います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義他
授業科目(英文)	人的資源管理論Ⅰ（Human Resources ManagementⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	沈 瑛								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では事例を活用しながら、企業などの組織における人的資源管理とは何かについて考えてみる。前半は人的資源管理の基本を理解し、後半は人的資源管理の各分野を知る。									
授業目標： 1. 企業の人的資源管理への関心を高める。 2. 事例研究を通して、企業が直面する人的資源管理に関する課題を知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（人的資源管理論の研究対象と学び方）					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義	
2	企業経営と人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
3	人的資源管理の基本的課題					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
4	人的資源管理の諸機能①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
5	人的資源管理の諸機能②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
6	従業員のモチベーション①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
7	従業員のモチベーション②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
8	ミニテスト①（前半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
9	リーダーシップとは何か①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
10	リーダーシップとは何か②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
11	組織と従業員の関係					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
12	組織構造と職務内容①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
13	組織構造と職務内容②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
14	ミニテスト②（後半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
15	人的資源管理の諸課題をどう見るか （企業を見るために私たちが持つべき視点を整理する）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
教本： 奥林康司・上林憲雄・平野光俊『入門 人的資源管理（第2版）』 中央経済社、2010年。					参考文献： 授業中に適宜文献を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義の効果を上げるためには、普段からテレビ、新聞、ネットでの企業に関するニュースに気に留めておくことが大事です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義他
授業科目(英文)	人的資源管理論Ⅱ（Human Resources Management Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	沈 瑛								
履 修 条 件	前提科目	担当教員による人的資源管理Ⅰを履修していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 人的資源管理論Ⅰの内容を深め、企業が抱える経営課題を整理しながら人的資源管理の問題を掘り下げる。社会の状況を踏まえつつ、人的資源管理の方向性を考えていく。									
授業目標： 1. グローバリゼーションが人的資源管理に与えた影響を理解する。 2. 企業における人的資源管理の重要性を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（①講義全体の流れ、②人的資源管理の諸分野の概略）					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義	
2	モチベーション戦略と人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
3	グローバリゼーションの進展と人的資源管理 ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
4	グローバリゼーションの進展と人的資源管理 ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
5	経営戦略の展開とミドル・マネジメント ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
6	経営戦略の展開とミドル・マネジメント ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
7	ミニテスト ①（前半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
8	就業形態多様化と人的資源管理 ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
9	就業形態多様化と人的資源管理 ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
10	女性労働者の能力活用と人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
11	優良企業の研究－事例研究－ ①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義30分、 ディスカッション60分	
12	優良企業の研究－事例研究－ ②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義30分、 ディスカッション60分	
13	外国人労働者の人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
14	ミニテスト ②（後半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
15	全体のまとめ（人的資源管理の方向性について考える）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義60分、 ディスカッション30分	
教本： 奥林康司・上林憲雄・平野光俊『入門 人的資源管理（第2版）』 中央経済社、2010年。									
参考文献： 授業中に適宜文献を紹介する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義の効果を上げるためには、普段からテレビ、新聞、ネットでの企業に関するニュースに気に留めておくことが大事です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	人的担保法（Personal Collateral Law）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前提科目	法学／私法学Ⅰ／私法学Ⅱ／物権法							
	そ の 他								
授業概要： 本講義では、債権総則を中心に講義を行ないます。弁済、債務不履行、責任財産の保全といった債権総則の基本を学習したうえで、人的担保としての保証を取り上げます。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授業目標： 債権総則の基本的な知識を習得し、ならびに債権の効力、人的担保とは何かについて説明できるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）				授業形態	
1	オリエンテーション			事前： 事後：配布資料の見直し				講義60分 質疑応答30分	
2	債権法の概要			事前：債権とは何かを調べる。 事後：債権法の概要をまとめる。				講義60分 ディスカッション30分	
3	債権総論(1) 発生原因・内容による分類／種類債権と「特定」			事前：債権と請求権について調べる。 事後：種類債権と「特定」についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分	
4	債権総論(2) 債権の目的（給付内容）			事前：債権の「目的」の要件について調べる。 事後：債権の「目的」の要件についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分	
5	債権の効力と概要			事前：債権に含まれる力について調べる。 事後：債権の効力と概要についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分	
6	債務不履行(1) 債務不履行と債権の効力			事前：債務不履行の類型について調べる。 事後：履行の強制についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分	
7	債務不履行(2) 損害賠償・追完			事前：債務不履行における損害賠償について調べる。 事後：損害賠償の要件についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分	
8	人的担保(1) 人的担保としての保証			事前：人的担保について調べる。 事後：現代における保証の類型についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分	
9	人的担保(2) 債権者と保証人の関係			事前：保証契約について調べる。 事後：保証契約の成立における要件についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分	
10	人的担保(3) 保証債務と主たる債務の関係－付従性			事前：付従性とは何かを調べる。 事後：付従性についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分	
11	人的担保(4) 保証人と主たる債務者との関係－随伴性・補充性			事前：随伴性・補充性について調べる。 事後：随伴性・補充性についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分	
12	人的担保(5) 保証人と主たる債務者の関係－求償権・通知義務			事前：求償権とは何かを調べる。 事後：求償権についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分	
13	人的担保(6) 個人保証の規律			事前：保証人保護の規律について調べる。 事後：保証人保護ついてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分	
14	人的担保(7) 保証の特殊形態			事前：連帯保証・共同保証・根保証について調べる。 事後：保証の特殊形態についてまとめる。				講義60分 ディスカッション30分	
15	多数当事者間の債権債務関係			事前：分割／不可分／連帯の各々の債権・債務を調べる。 事後：分割／不可分／連帯の各々の債権・債務をまとめる。				講義60分 ディスカッション30分	
教本： とくになし（資料を配布します）。					参考文献： 授業中に適宜指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	心理学 (Psychology)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	菊 地 創								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： この講義は「こころ」の働きを科学的な視点から理解することを目指しています。心理学では、見ることも触れることもできない対象である「こころ」をどのようにして科学的に捉えようとしているのでしょうか。講義形式で心理学という学問分野のさまざまな領域を概観し、そこで扱われる様々なテーマに触れることを通じて、これらの分野についての基礎的な知識を習得する。									
授業目標： 心理学の定義、歴史、方法や心理学の各領域の基礎的な知識を学び、人間の心を科学的に理解する能力を獲得することが目標である。さらに、人間の行動を注意深く観察して、その原因を客観的な立場から考察できるようなることを目指します。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	心理学の歴史について学ぶ。					事前：教本精読 (pp.2～28) 事後：ノート、疑問点の整理		講義 90分	
2	行動の獲得と学習について学ぶ。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読 (pp.30～57) 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70分、発表 20分	
3	明るさや色、かたちや空間など視覚の仕組みについて学ぶ。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読 (pp.92～109) 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70分、発表 20分	
4	聴覚と触覚の仕組みや視覚との相互作用について学ぶ。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読 (pp.109～120) 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70分、発表 20分	
5	注意と情報処理の仕組みについて学ぶ。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読 (pp.122～134) 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70分、発表 20分	
6	記憶と言語の仕組みについて学ぶ。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読 (pp.135～149) 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70分、発表 20分	
7	自己と他者の関わりについて学ぶ。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読 (pp.152～159) 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70分、発表 20分	
8	意思決定の仕組みや集団の影響力について学ぶ。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読 (pp.160～179) 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70分、発表 20分	
9	パーソナリティの測定や分類の方法について学ぶ。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読 (pp.182～195) 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70分、発表 20分	
10	パーソナリティの形成・発達について学ぶ。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読 (pp.195～206) 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70分、発表 20分	
11	精神分析の理論について学ぶ。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読 (pp.208～218) 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70分、発表 20分	
12	クライアント中心療法と認知行動療法の理論について学ぶ。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読 (pp.218～234) 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70分、発表 20分	
13	乳幼児期～児童期の発達の様相について学ぶ。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読 (pp.236～254) 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70分、発表 20分	
14	思春期・青年期～老年期の発達の様相について学ぶ。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：教本精読 (pp.254～263) 事後：ノート、疑問点の整理		講義 70分、発表 20分	
15	まとめと理解度の確認を行う。講義内容について感じたことや疑問点について発表を行う。					事前：ノートや資料の整理 事後：全体の確認		講義 70分、発表 20分	
教本： 「心理学入門 こころを科学する10のアプローチ」 坂口典弘・相馬花恵（編）講談社 ￥2,400					参考文献： 講義内で適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 教本必携で受講し、受講の態度やマナーに留意すること。講義内容に関するリアクションペーパーの提出を求めます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	心理学（General Psychology）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 心理学概論Ⅰでは主に個人の行動の発生の仕組みを考え、人がある行動を起こす際にどのような心の働きが生じているのか、という点を中心に学びを進める。授業内容としては、感覚に始まり、錯視を伴う知覚、また我々が見ている世界を意味づける際に必要となる記憶の働きを認知心理学の視点から考える。加えて性格・パーソナリティや動機付け、及びリーダーシップなど、人間理解に必要な基礎的な心理学的知識を学び、理解する。									
授業目標： 主に教職を目指す履修生が児童・生徒やその保護者への人間理解を深めると共に、教育現場において適切に対処することが出来ることを本授業の到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、 ディスカッション 20分	
2	現代心理学の誕生から現在までの発達・変遷の歴史を通じ、心理学の全体像を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
3	履修生が興味を持つ「性格やパーソナリティ」を取り上げ、それらの内容を理解すると共に、自己評価法と他者評価法を学び、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 40分、実習 30分、 PBL 20分	
4	物理的な世界と我々が見ている世界との間に生じる差異について、認知心理学の視点から学び、脳で行われている内部情報処理過程の働きと行動との関係を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
5	外界から得られる様々な刺激と、これを受容する感覚器の働きを学び、感覚情報の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
6	錯視図形や多義図形を通じ、知覚体制の意味を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
7	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、知覚の働きを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
8	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 30分、実験 40分、 PBL 20分	
9	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組み等を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
10	動機づけに関する考え方を学び、動機づけの手法である外発的動機づけ、内発的動機づけの長所と短所を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
11	リーダーシップに係る知見を概観すると共に、リーダーシップと生産性との関係を始めて数量的に明らかにしたレヴィンらの研究成果を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
12	リーダーシップに関する代表的な学説であるPM理論とマネジリアルグリッド理論の主張する内容を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
13	リスク、リスク・パーセプションを学び、安全管理対策の重要性を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
14	行動変容をもたらす集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、 ディスカッション 10分、 PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、 ディスカッション 20分	

教本： 深澤伸幸「ヒューマンエラーの心理学入門－発生過程の理解と対策－」 (株)杏林舎、¥2,300	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100％）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	心理学基礎 A （Introduction to Psychology A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菅沼 憲治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 生物－心理－社会モデルは Engel. G. L. が1970年代に提唱した。現代心理学は、医療・教育・福祉・産業と組織・司法と矯正などの 5 大領域を中心に進化した。見えない心をどのように研究し、そこで蓄積された知見をどのように生活者の支援に応用するかを柱に、実証科学である心理学を解説する。									
授業目標： 1．心理学とは何か、心理学の目的、心のモデル、研究方法について理解する。 2．心理学の基礎知識及び実践分野に加え多職種連携の意義を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の進め方・内容に関するガイダンス					事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認		講義	
2	心理学の歴史・原理・研究法					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
3	学習の仕組み					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
4	認知とは何か					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
5	感覚・知覚の仕組み					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
6	発達心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
7	教育心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
8	社会心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
9	パーソナリティ					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
10	感情					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
11	臨床心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
12	障害心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
13	心理職への道					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
14	心理学を創った人物群像					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
15	心理学の基礎 A で解説した内容の確認と振り返り					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
教本： 『心理学』、子安増生編著、勁草書房					参考文献： 授業の中で随時配布する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テストとレポート（40%）、定期試験（60%）等により総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本授業は、科学としての心理学を含め日々進化している実践心理学について論じる。そこで、生活者である自分のエピソード体験と関連させた知識の理解を勧める。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	心理学基礎B（Introduction to Psychology B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菅沼 憲治								
履 修 条 件	前提科目	心理学基礎Aを履修していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 心理学の基礎Aを履修している前提で講義する。心理学の知見は、生活者としての人生を確実に豊かにしていると言えるだろう。そこで基礎心理学から実践心理学への発展の経緯を概観し学ぶことにする。									
授業目標： 1．実践心理学の動向について知見を得る。 2．21世紀の心理学の潮流であるポジティブ心理学を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ポジティブ心理学とは何か					事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認		講義	
2	皮膚の下の物語である神経・生理について					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
3	心理現象の測定					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
4	産業・組織心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
5	健康心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
6	福祉心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
7	犯罪・非行心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
8	司法心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
9	カウンセリング心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
10	災害心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
11	ストレスの心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
12	最近の心理学研究動向					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
13	世界の心理学					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
14	心理学の資格について					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
15	心理学の基礎Bで解説した内容の確認と振り返り					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
教本： 『心理学』、子安増生編著、勁草書房					参考文献： 授業の中で随時配布する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テストとレポート（40%）、定期試験（60%）等により総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本授業は、系統的な講義と小集団討議が教授方法の柱である。そこで、欠席が総授業回数の1/3を超えると受講しても評価しない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	心理学研究法（Approaches to Psychology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では、心理学の研究法、心理学の研究論文の検索方法、論文の読み方、論文のまとめ方を学ぶ。									
授業目標： 心理学研究の論文を検索し、読んで理解し、概要を記述することができるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習			講義	
2	心理学における研究とは、論文検索の方法				事前：資料確認・課題検討 事後：学会誌の原著論文を検索する			講義 50分、演習 40分	
3	様々な心理学研究法				事前：資料確認・課題検討 事後：学会誌の原著論文を検索する			講義	
4	心理学論文の構成				事前：資料確認・課題検討 事後：検索した論文の構成を確認する			講義 50分、演習 40分	
5	心理学論文の読み方				事前：資料確認・課題検討 事後：検索した論文の内容をまとめる			講義 50分、演習 40分	
6	心理学論文内容の理解				事前：資料確認・課題検討 事後：選んだ論文を読み込む			講義 20分、グループワーク 70分	
7	心理学論文のまとめ①				事前：資料確認・課題検討 事後：発表資料の作成			講義 20分、グループワーク 70分	
8	心理学論文のまとめ②				事前：資料確認・課題検討 事後：発表資料の作成			講義 20分、グループワーク 70分	
9	心理学論文のまとめ③				事前：資料確認・課題検討 事後：発表準備			講義 20分、グループワーク 70分	
10	発表会①				事前：資料確認・課題検討 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分	
11	発表会②				事前：資料確認・課題検討 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分	
12	発表会③				事前：資料確認・課題検討 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分	
13	発表会④				事前：論文検索 事後：発表された論文を読み込む			発表 20分、討論 30分、講義 40分	
14	論文形成での記述方法				事前：資料確認・課題検討 事後：選んだ論文のまとめレポートを作成する			発表 20分、討論 30分、講義 40分	
15	まとめ				事前：授業全般の復習 事後：理解の補完			講義	
教本： なし。授業中に資料を配布する。					参考文献： 授業中に、都度紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、レポートまたはテスト等（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	心 理 学 実 験 演 習 (Seminar on Psychology Experiment)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菊 地 創								
履 修 条 件	前 提 科 目	心 理 学 実 験 法、心 理 学 統 計 法 の 単 位 を 修 得 し て い る こ と							
	そ の 他								
授 業 概 要： データによる人間理解の方法を学ぶ。心理学の実験や調査を実施し、その方法論や分析手法を習得する。また、「心理学実験法」で学んだレポートの作成方法を上達させる。									
授 業 目 標： ①心理学の実験や調査を適切に実施できる。 ②実験・調査の結果を正確に分析できる。 ③実験・調査の目的を把握し、結果から論理的な考察が導き出せる。 ④実験・調査の目的・方法・結果・考察を書式や形式に則ってレポートにまとめられる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習・事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：心理学実験を行う意義について解説する。					事前：シラバスの確認 事後：ノート、疑問点の整理		講義 90分	
2	心理学論文に準拠したレポートの書き方について解説する。					事前：配布資料の精読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 90分	
3	本講義で使用する統計手法について解説し、サンプルデータなどを用いて実際に計算作業を行う。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 40分、 実習 50分	
4	ストループ効果：実験概要を解説する。					事前：配布資料の精読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 90分	
5	ストループ効果：実験を実施し、データの集計を行う。					事前：実験方法の確認 事後：データの見直し		実習 90分	
6	ストループ効果：実験から得られたデータの分析（記述統計量の算出と検定）を行う。					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
7	ストループ効果：実験結果についてディスカッションを行い、実験レポートを作成する。					事前：配布資料の見直し 事後：レポートの作成		実習 60分、 ディスカッション 30分	
8	SD 法によるイメージの測定：実験概要を解説する。					事前：配布資料の精読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 90分	
9	SD 法によるイメージの測定：質問紙の作成を解説し、実際に作成する。					事前：配布資料の精読 事後：データの収集		講義 40分、 実習 50分	
10	SD 法によるイメージの測定：実験から得られたデータの分析（記述統計量の算出と検定）を行う。					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
11	SD 法によるイメージの測定：実験結果についてディスカッションを行い、実験レポートを作成する。					事前：配布資料の見直し 事後：レポートの作成		実習 60分、 ディスカッション 30分	
12	系列位置効果：実験概要を解説する。					事前：配布資料の精読 事後：ノート、疑問点の整理		講義 90分	
13	系列位置効果：実験を実施し、データの集計を行う。					事前：実験方法の確認 事後：データの見直し		実習 90分	
14	系列位置効果：実験から得られたデータの分析（記述統計量の算出と検定）を行う。					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
15	系列位置効果：実験結果についてディスカッションを行い、実験レポートを作成する。					事前：配布資料の見直し 事後：レポートの作成		実習 60分、 ディスカッション 30分	
教 本： 授業プリントと関連資料の提供。					参 考 文 献： 「よくわかる心理学実験実習」村山香奈・山崎浩一（編）ミネルヴァ書房 「改定新版心理学論文の書き方ー卒業論文や修士論文を書くためにー」松井豊（著）河出書房新社				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（60%）で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 受講の態度やマナーに留意すること。講義では表計算ソフト（MS Excel）のインストールされたパソコンを必ず持参すること。									
オ フ ィ ス ア ワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	心理学実験法（Experimental Psychology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菊 地 創								
履 修 条 件	前提科目	心理統計法を履修していること							
	そ の 他								
授業概要： データによる人間理解の方法を学ぶ。心理学の実験や調査を実施し、その方法論や分析手法を習得するとともに、実験・調査内容を適切に報告するためのレポートの書き方を学ぶ。									
授業目標： ①心理学の実験や調査を適切に実施できる。 ②実験・調査の結果を正確に分析できる。 ③実験・調査の目的を把握し、結果から論理的な考察が導き出せる。 ④実験・調査の目的・方法・結果・考察を書式や形式に則ってレポートにまとめられる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：心理学実験実習で何を学ぶのか解説する。					事前：教本精読 (pp.2～21) 事後：講義内容の復習		講義 90分	
2	心理学論文に準拠したレポートの書き方（問題、方法）について学ぶ。					事前：教本精読 (pp.22～29) 事後：講義内容の復習		講義 90分	
3	心理学論文に準拠したレポートの書き方（結果、考察、引用文献）について学ぶ。					事前：教本精読 (pp.30～43) 事後：講義内容の復習		講義 90分	
4	潜在態度の実験：実験概要を解説する。					事前：資料精読 事後：講義内容の復習		講義 90分	
5	潜在態度の実験：実験を実施し、データの集計を行う。					事前：実験方法の確認 事後：データの見直し		実習 90分	
6	潜在態度の実験：実験から得られたデータの分析（記述統計量の算出と検定）を行う。					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
7	潜在態度の実験：実験結果についてディスカッションを行い、実験レポートを作成する。					事前：資料確認 事後：レポートの作成		実習 60分、 ディスカッション 30分	
8	錯視の実験：実験概要を解説し、実験刺激を作成する。					事前：教本精読 (pp.44～49) 事後：実験刺激の点検		講義 60分、実習 30分	
9	錯視の実験：実験を実施し、データの集計を行う。					事前：実験方法の確認 事後：データの見直し		実習 90分	
10	錯視の実験：実験から得られたデータの分析（記述統計量の算出と検定）を行う。					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
11	錯視の実験：実験結果についてディスカッションを行い、実験レポートを作成する。					事前：教本確認 (pp.44～49) 事後：レポートの作成		実習 60分、 ディスカッション 30分	
12	質問紙調査：調査の概要を解説する。					事前：教本精読 (pp.138～143) 事後：講義内容の復習		講義 90分	
13	質問紙調査：質問紙の作成方法を解説し、実際に作成する。					事前：配布資料の精読 事後：データの収集		講義 40分、実習 50分	
14	質問紙調査：調査から得られたデータの分析（記述統計量の算出と検定）を行う。					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		実習 90分	
15	質問紙調査：調査結果についてディスカッションを行い、実験レポートを作成する。					事前：教本確認 (pp.138～143) 事後：レポートの作成		実習 60分、 ディスカッション 30分	
教本：「よくわかる心理学実験実習」村山香奈・山崎浩一(編) ミネルヴァ書房 ￥2,400 参考文献：「改定新版心理学論文の書き方ー卒業論文や修士論文を書くためにー」松井豊(著)河出書房新社									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（60%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本科目は選択科目であるが、実験演習の基礎をなす科目である。「心理学実験演習」、「社会心理学実験演習」を受講する予定の学生は必ず履修すること。講義では表計算ソフト（MS Excel）のインストールされたパソコンを必ず持参すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	心理統計法 (Psychometrics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菊 地 創								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 人間の行動は画一的ではなく、状況や個人差によって変化する。こうした行動から人間の心理を検討するために、心理学では統計学的手法が用いられる。この講義では、心理学を学ぶ上で必要とされる基礎的な統計学に関する知識の習得とその実践を学ぶ。									
授業目標： ①なぜ心理学に統計学が必要なのか説明できるようになる。 ②基礎的な統計学的な知識を説明できるようになる。 ③さまざまなデータに対して適切な統計処理ができるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：なぜ心理学を学ぶのに統計を勉強しなければならないのか。					事前：シラバスの確認 事後：教本導入部の精読		講義 90分	
2	心理学で扱うデータの種類について学ぶ。					事前：教本精読 (pp.3～12) 事後：ノート確認、練習問題		講義 90分	
3	データを代表する値について学ぶ。練習問題を設定し実際に計算作業を行う。					事前：教本精読 (pp.13～21) 事後：ノート確認、練習問題		講義 60分 実習 30分	
4	データの散らばりの指標について学ぶ。練習問題を設定し実際に計算作業を行う。					事前：教本精読 (pp.21～26) 事後：ノート確認、練習問題		講義 60分 実習 30分	
5	標準化について学ぶ。練習問題を設定し実際に計算作業を行う。					事前：教本精読 (pp.26～31) 事後：ノート確認、練習問題		講義 60分 実習 30分	
6	関係を要約する指標について学ぶ。練習問題を設定し実際に計算作業を行う。					事前：教本精読 (pp.32～47) 事後：ノート確認、練習問題		講義 60分 実習 30分	
7	表と図の種類について学ぶ。					事前：教本精読 (pp.48～61) 事後：ノート確認、練習問題		講義 90分	
8	練習問題を通して、記述統計に関する総括を行う。					事前：教本精読 (pp.3～61) 事後：ノート確認、練習問題		講義 60分 実習 30分	
9	母集団と標本について学ぶ。					事前：教本精読 (pp.66～82) 事後：ノート確認、練習問題		講義 90分	
10	統計的検定について学ぶ。練習問題を設定し実際に計算作業を行う。					事前：教本精読 (pp.82～87) 事後：ノート確認、練習問題		講義 60分 実習 30分	
11	平均値が2つの場合の検定①：対応のあるt検定について学ぶ。練習問題を設定し実際に計算作業を行う。					事前：教本精読 (pp.93～97) 事後：ノート確認、練習問題		講義 60分 実習 30分	
12	平均値が2つの場合の検定②：対応のないt検定について学ぶ。練習問題を設定し実際に計算作業を行う。					事前：教本精読 (pp.97～104) 事後：ノート確認、練習問題		講義 60分 実習 30分	
13	度数・比率の検定①： χ^2 検定について学ぶ。練習問題を設定し実際に計算作業を行う。					事前：教本精読 (pp.124～130) 事後：ノート確認、練習問題		講義 60分 実習 30分	
14	度数・比率の検定②：残差分析について学ぶ。練習問題を設定し実際に計算作業を行う。					事前：教本精読 (pp.130～133) 事後：ノート確認、練習問題		講義 60分 実習 30分	
15	講義全体のまとめと理解度の確認を行う。					事前：講義内容の復習 事後：理解の補完		講義 90分	
教本： 「数学が苦手でもわかる心理統計法入門」芝田征司（著）サイエンス社 ￥2,200					参考文献： 「統計嫌いのための心理統計の本」白井祐浩（著）創元社				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 教本必携で受講し、受講の態度やマナーに留意すること。講義内で実際に計算作業を行う場合があるため、 $\sqrt{\quad}$ の計算できる電卓（アプリでも可）などを用意すること。詳しくはガイダンス時に説明する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	数 学 (Mathematics)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に 不 い。							
	そ の 他	特 に 不 い。							
授 業 概 要： この授業では、さまざまな数式の作り方、数式と図を関連づけたグラフ（座標）の書き方について学び、解の導き方を身に付けることによって、数学的思考力の向上を目指します。さらに、線形代数におけるベクトルと行列について学び、大学数学の基礎を身に付けます。									
授 業 目 標： ①数列の一般項を数式で表すことができ、数列の和を求めることができる。 ②数式と座標の関係を理解し、さまざまな関数のグラフを書くことができる。 ③微分とは何か理解し、微分係数と導関数の計算ができる。 ④ベクトル及び行列とは何か理解し、それらを用いた計算ができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 数と数学についての学び方を学ぶ。					事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー		アイスブレイク（15分） 講義（75分）	
2	数列と素数について学ぶ。					事前：数学ノートを準備する 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） グループワーク（30分）	
3	Σと数列の和について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
4	デカルトと関数のグラフについて学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
5	関数のグラフと方程式の解、不等式の解について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
6	ニュートンと微分とグラフの傾きについて学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
7	微分係数と導関数について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 小テスト（30分）	
8	ピタゴラスと三角関数について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
9	オイラーと指数・対数について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
10	線形代数学(1) ベクトルについて学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
11	線形代数学(2) ベクトルの内積・外積について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
12	線形代数学(3) 行列について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
13	線形代数学(4) 列式と連立一次方程式について学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：ミニッツペーパー		講義（60分） 演習（30分）	
14	線形代数学(5) 固有値と固有ベクトルについて学ぶ。					事前：テーマについて下調べ 事後：学びのマップ作成		講義（60分） 演習（30分）	
15	試験とまとめ、学びの振り返りを行う。					事前：ポートフォリの整理 事後：学びの振り返りを行う		講義（40分） 試験（50分）	
教 本： 授業内で指示する。 参 考 文 献： 黒川重信『数学の夢 素数からの広がり』岩波書店 ISBN：978-4-000262149 その他、必要に応じて授業内で紹介する。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 学習ポートフォリオ（ミニッツペーパー、数学ノート、振り返り等）：60%、小テスト：10%、試験：30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルーブリック（評価基準）による自己評価を含む。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 数学ノートについて、初回講義日に説明する。									
オ フ ィ ス ア ワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	スポーツ実技（Physical Exercises）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	白井 大史								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること							
授業概要： 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、サッカー、フットサルなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。									
授業目標： 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。 また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション・体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
2	卓球Ⅰ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
3	フットサルⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
4	フットサルⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
5	サッカーⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
6	サッカーⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
7	ソフトボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
8	テニスⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
9	テニスⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
10	バスケットボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
11	バスケットボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
12	バレーボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
13	バレーボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
14	バドミントンⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
15	バドミントンⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	

16	卓球Ⅱ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
17	フットサルⅢ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
18	フットサルⅣ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
19	サッカーⅢ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
20	サッカーⅣ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
21	ソフトボールⅡ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
22	テニスⅢ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
23	テニスⅣ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
24	バスケットボールⅢ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
25	バスケットボールⅣ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
26	バレーボールⅢ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
27	バレーボールⅣ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
28	バドミントンⅢ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
29	バドミントンⅣ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
30	本講のまとめ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
教本：特になし 参考文献：特になし			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対にしないこと。1年間預けることができる室内シューズを用意すること。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	スポーツ実技（Physical Exercises）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	小林 夕紀恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること							
授業概要： 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、フットサルなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。									
授業目標： 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。 また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション・体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
2	バドミントンⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
3	バドミントンⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
4	テニスⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
5	テニスⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
6	バレーボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
7	バレーボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
8	卓球Ⅰ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
9	卓球Ⅱ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
10	ソフトボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
11	ソフトボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
12	バスケットボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
13	バスケットボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
14	レクリエーションスポーツⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
15	レクリエーションスポーツⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	

16	バドミントンⅢ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
17	バドミントンⅣ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
18	テニスⅢ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
19	テニスⅣ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
20	バレーボールⅢ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
21	バレーボールⅣ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
22	卓球Ⅲ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
23	卓球Ⅳ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
24	ソフトボールⅢ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
25	ソフトボールⅣ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
26	バスケットボールⅢ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
27	バスケットボールⅣ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
28	レクリエーションスポーツⅢ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
29	レクリエーションスポーツⅣ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
30	本講のまとめ	事前：なし 事後：なし	実技 90分
教本：特になし 参考文献：特になし			
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対にしないこと。1年間預けることができる室内シューズを用意すること。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	ス ポー ツ 実 技 A (Physical Exercises A)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	白 井 大 史								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	持 病 が あ る 場 合 は 担 当 教 員 に 事 前 に 申 し 出 る こ と							
授 業 概 要： 本 講 は、様 々 な スポ ー ツ を 実 践 す る こ と に よ っ て 各 種 目 か ら 得 ら れ る 楽 し さ や 喜 び を 体 験 す る と と も に、健 康 や 体 力 の 維 持・増 進 の た め に 必 ず し も 必 要 な 運 動 を 効 果 的 に 実 践 す る 基 礎 を 身 に つ け る こ と を ね ら い と し て い る。ス ポー ツ 種 目 は、テ ニ ス、卓 球、バ ド ミ ン ト ン、ソ フ ト ボ ー ル な ど を 行 う 予 定 で あ る が、ス ト レ ッ チ や 基 礎 体 力 作 り な ど に つ い て も 実 践 し て い く。な お、天 候 の 関 係 で 実 施 す る 種 目 を 変 更 す る 場 合 が あ る。									
授 業 目 標： 近 年、悪 性 新 生 物 や 心 疾 患 な ど の 生 活 習 慣 病 に 関 連 す る 疾 病 が 増 え、「健 康」を 考 え る う え で、ス ポー ツ や 運 動 が 大 き く 影 響 し て い る こ と が 知 ら れ て い る。そ こ で 本 講 で は、健 康 で 充 実 し た 社 会 生 活 を 送 る た め に 必 ず し も 必 要 な 体 力 を 維 持・増 進 す る こ と を 到 達 目 標 と し、定 期 的 な 運 動 習 慣 を 確 立 す る た め の 基 礎 を 学 習 す る。 ま た、授 業 に お け る 「ル ー ル と 安 全」を テー マ と し、ス ポー ツ の 実 践 を 通 じ て 社 会 生 活 に 必 ず し も 欠 け な い 集 団 行 動 や コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン に つ い て も 学 習 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標（最 重 要 に ◎、重 要 に ○ 1 つ）									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
○							◎		
授 業 計 画、事 前 学 習・事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳 細 に 記 入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テー シ ョ ン、体 な ら し（ス ト レ ッ チ や 基 礎 体 力 作 り）					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
2	卓 球 I					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
3	卓 球 II					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
4	卓 球 III					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
5	ソ フ ト ボ ー ル I					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
6	ソ フ ト ボ ー ル II					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
7	ソ フ ト ボ ー ル III					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
8	テ ニ ス I					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
9	テ ニ ス II					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
10	テ ニ ス III					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
11	バ ド ミ ン ト ン I					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
12	バ ド ミ ン ト ン II					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
13	バ ド ミ ン ト ン III					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
14	バ ド ミ ン ト ン IV					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
15	本 講 の ま と め					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分	
教 本：									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	スポーツ実技 A（Physical Exercises A）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	小林 夕紀恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること							
授業概要： 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボールなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。									
授業目標： 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。 また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
2	バドミントンⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
3	バドミントンⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
4	テニスⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
5	テニスⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
6	レクリエーションスポーツⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
7	レクリエーションスポーツⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
8	卓球Ⅰ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
9	卓球Ⅱ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
10	ソフトボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
11	ソフトボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
12	バドミントンⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
13	テニスⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
14	卓球Ⅲ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
教本： 特になし					参考文献： 特になし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対にしないこと。半日間預けることができる室内シューズを用意すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習										
授 業 科 目 (英 文)	ス ポー ツ 実 技 B (Physical Exercises B)						科 目 分 類	基 礎 科 目											
担 当 教 員	白 井 大 史																		
履 修 条 件	前 提 科 目	な し																	
	そ の 他	持 病 が あ る 場 合 は 担 当 教 員 に 事 前 に 申 し 出 る こ と																	
授 業 概 要： 本 講 は、様 々 な スポ ー ツ を 実 践 す る こ と に よ っ て 各 種 目 か ら 得 ら れ る 楽 し さ や 喜 び を 体 験 す る と と も に、健 康 や 体 力 の 維 持・増 進 の た め に 必 ず し も 必 要 な 運 動 を 効 果 的 に 実 践 す る 基 礎 を 身 に つ け る こ と を ね ら い と し て い る。ス ポー ツ 種 目 は、バ ス ケ ッ ト ボー ル、バ レー ボー ル、サ ッ カー、フ ッ ト サ ル な ど を 行 う 予 定 で あ る が、ス ト レ ッ チ や 基 礎 体 力 作 り な ど に つ い て も 実 践 し て い く。な お、天 候 の 関 係 で 実 施 す る 種 目 を 変 更 す る 場 合 が あ る。																			
授 業 目 標： 近 年、悪 性 新 生 物 や 心 疾 患 な ど の 生 活 習 慣 病 に 関 連 す る 疾 病 が 増 え、「健 康」を 考 え る う え で、ス ポー ツ や 運 動 が 大 き く 影 響 し て い る こ と が 知 ら れ て い る。そ こ で 本 講 で は、健 康 で 充 実 し た 社 会 生 活 を 送 る た め に 必 ず し も 必 要 な 体 力 を 維 持・増 進 す る こ と を 到 達 目 標 と し、定 期 的 な 運 動 習 慣 を 確 立 す る た め の 基 礎 を 学 習 す る。 ま た、授 業 に お け る 「ル ー ル と 安 全」を テー マ と し、ス ポー ツ の 実 践 を 通 じ て 社 会 生 活 に 必 要 不 可 欠 な 集 団 行 動 や コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン に つ い て も 学 習 す る。																			
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標（最 重 要 に ◎、重 要 に ○ 1 つ）																			
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養												
○							◎												
授 業 計 画、事 前 学 習・事 後 学 習、形 式																			
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳 細 に 記 入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態											
1	オ リ エ ン テー シ ョ ン、体 な ら し（ス ト レ ッ チ や 基 礎 体 力 作 り）					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
2	フ ッ ト サ ル I					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
3	フ ッ ト サ ル II					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
4	サ ッ カー I					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
5	サ ッ カー II					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
6	サ ッ カー III					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
7	バ ス ケ ッ ト ボー ル I					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
8	バ ス ケ ッ ト ボー ル II					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
9	バ ス ケ ッ ト ボー ル III					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
10	バ ス ケ ッ ト ボー ル IV					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
11	バ レー ボー ル I					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
12	バ レー ボー ル II					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
13	バ レー ボー ル III					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
14	バ レー ボー ル IV					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
15	本 講 の ま と め					事 前：な し 事 後：な し		実 技 90 分											
教 本： 特 に な し										参 考 文 献： 特 に な し									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等（70%）、実 技 試 験（30%）等 で 総 合 評 価 す る。																			
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 遅 刻 は 絶 対 に し な い こ と。半 年 間 預 け る こ と が で き る 室 内 シ ュ ズ を 用 意 す る こ と。																			
オ フ ィ ス ア ワー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。																			

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	スポーツ実技 B（Physical Exercises B）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	小林 夕紀恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること							
授業概要： 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、バレーボール、バスケットボール、フットサルなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。									
授業目標： 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。 また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
2	レクリエーションスポーツⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
3	卓球					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
4	バレーボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
5	バレーボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
6	バレーボールⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
7	フットサルⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
8	フットサルⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
9	フットサルⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
10	バスケットボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
11	バスケットボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
12	バスケットボールⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
13	レクリエーションスポーツⅡ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
14	レクリエーションスポーツⅢ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		実技 90分	
教本： 特になし					参考文献： 特になし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（70%）、実技試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対にしないこと。半日間預けることができる室内シューズを用意すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	スポーツ論（Health and Sports Education）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	小林 夕紀恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「健康である」ということは、生涯において深く関わることであり、充実した生活を送るための基盤となっていることである。本講は、「健康づくりのためのスポーツ」または「スポーツを介した健康づくり」について学び、自らの健康について考え、より豊かな生活を送るための知識や方法を身につけることを目的としている。									
授業目標： 現代社会の生活の中において適度にスポーツ習慣を持つことは、ストレス発散や健康維持・増進につながり「心身の健康」に大きく寄与する。「健康スポーツ」の成立の背景及びその発展の経緯を教示し、自発的にスポーツに取り組むための知識や方法、これからの健康維持・増進に不可欠とされる基礎理論を学習することを目標としている。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	体育からスポーツへ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
3	スポーツの意義と役割					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
4	生涯スポーツと健康①（健康観の変遷、健康の現状と課題）					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
5	生涯スポーツと健康②（メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドロームとは）					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
6	生涯スポーツと健康③（体力について）					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
7	生活習慣病について					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
8	救急法について					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
9	休養とは(ストレスと健康)					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
10	感染症について					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
11	スポーツマネジメント					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
12	スポーツの心理					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
13	スポーツと栄養					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
14	スポーツのデータ収集・分析					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教本： 適宜資料配付					参考文献： 必要時に提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対しないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	図画工作（子どもと造形）(Art and Craft)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小野 和								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	『幼稚園教育要領』『幼保連携型こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』の精読							
授業概要： 『幼稚園教育要領』『幼保連携型こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』資料等により、子どもと造形についての基礎的な事項を学ぶ。さらに具体的な造形活動を実践し、基礎的な造形技能を身に付ける。加えて、造形活動に必要な材料・用具を使って、造形表現について、より技能を高めていく。									
授業目標： 造形に関する様々な活動を通して、楽しさや喜びを体験する。造形表現の発達や、保育で扱う造形素材・教材・画材等を知り、それらを展開できるように努める。基本的な造形要素や造形技法を理解して造形表現を行い、考察する。 この科目は、1. 幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス・造形の意義と『小学校学習指導要領』に基づく図画工作の今日的課題について検討する。					事前：各自の図画工作経験を考える。 事後：授業の内容を整理する。		講義 60分、 ディスカッション 30分	
2	造形遊びの研究（1）身近な環境に注目して検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
3	造形遊びの研究（2）発想に注目して検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
4	造形遊びの研究（3）材料・用具に注目して検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
5	絵に表す（1）絵具類について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
6	絵に表す（2）クレヨン・パス等について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
7	絵に表す（3）様々な表現について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
8	立体に表す（1）紙や空き箱等に注目して検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
9	立体に表す（2）粘土類に注目して検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
10	鑑賞（1）相互鑑賞を実施する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
11	鑑賞（2）鑑賞教育について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
12	工作（1）作って遊び、撮影する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
13	工作（2）共同制作・展示を行い、撮影する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
14	作品・資料集を作成する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分	
15	図画工作の視点による幼小の連携について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分	
教本： 『〈感じること〉からはじまる 子どもの造形表現』平田智久監修、小野和・宮野周編著、教育情報出版、¥2,000＋税 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、¥240＋税 『幼保連携型こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省、厚生労働省、フレーベル館、¥350＋税 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館、¥320＋税									
参考文献： 『小学校学習指導要領解説・図画工作編』文部科学省、日本文教出版、¥100＋税									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況・授業態度等（50％）、課題・レポート等（50％）、等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 子どもと造形について意欲的に学び、造形の楽しさや喜びを体験し、知識や技能を習得することを期待する。 個人で使用する材料・用具については授業の中で説明・指示するので、各自で準備すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	性格心理学（Personality Psychology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 淳子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 人は誰でも自分らしくありたいと思うでしょう。しかし、自分ほどわからないものはありません。本講座では、自身の性格（パーソナリティ）や、個性について考えるとともに他者理解の手掛かりとして「性格」を心理学的視点から学んでいきます。									
授業目標： 1. 各性格理論について学び、その妥当性について考える。 2. 性格や個性を理解するための方法論を学ぶ。 3. 性格形成に及ぼす様々な影響（環境）について学び、考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	性格とはなにか？				事前： 事後：復習 性格の定義をまとめる			講義70分 振り返り20分	
2	性格は変化するか？				事前：予習 自身の人格変化について考える 事後：復習 変化についてまとめる			講義70分 振り返り20分	
3	性格に男女差はあるか？				事前：予習 男女差について調べる 事後：復習 男女差についてまとめる			講義60分 グループワーク30分	
4	性格に及ぼす影響は何か？(1)家庭環境、出生順位				事前：予習 出生順位について調べる 事後：復習 環境の違いについてまとめる			講義50分 エクササイズ40分	
5	〃 (2)役割と個性				事前：予習 自身の個性について調べる 事後：復習 役割・個性についてまとめる			講義70分 振り返り20分	
6	〃 (3)群衆と個性（性格）				事前：予習 集団心理について調べる 事後：復習 群衆と個性についてまとめる			講義70分 振り返り20分	
7	自分の性格を知る方法 (1)他者から知る自分				事前：予習 自分の性格について考える 事後：復習 他者からみた性格をまとめる			講義50分 グループワーク40分	
8	〃 (2)心理検査から知る自分				事前：予習 心理検査を調べる 事後：復習 心理界のまとめ			講義20分 エクササイズ70分	
9	性格と文化 (1)日本人の性格				事前：予習 文化差について調べる 事後：復習 日本人の性格をまとめる			講義70分 振り返り20分	
10	〃 (2)教育と異文化				事前：予習 異文化について考える 事後：復習 異文化や教育のまとめ			講義70分 振り返り20分	
11	やる気のある人の性格				事前：予習 やる気とは何か考える 事後：復習 やる気のある人の性格のまとめ			講義50分 グループワーク40分	
12	創造性のある人の性格				事前：予習 創造性について調べる 事後：復習 創造性のある人のまとめ			講義50分 グループワーク40分	
13	攻撃的な人の性格、偏った性格				事前：予習 攻撃性について調べる 事後：復習 攻撃的・偏りについてまとめる			講義50分 グループワーク40分	
14	好き嫌いとは性格				事前：予習 好みによる違いを考える 事後：復習 好き嫌いについてまとめる			講義20分 エクササイズ70分	
15	まとめ				事前： 事後：復習 全講義について学んだことをまとめる			講義70分 振り返り20分	
教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。					参考文献： ・近藤卓編著 パーソナリティと心理学 大修館書店 ￥2,000 ・清水弘司著 はじめてふれる性格心理学 サイエンス社 ￥1,800				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業では、一方的な講義ではなく、学生に考えてもらいます。単元によっては発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらうこともあります。受け身な態度ではなく、自身の考えを表現できるように心がけてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	生活（子どもと生活）（Living Environment Studies）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野川 智子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 小学校1・2年の教科「生活科」の理念と、目標及び9項目の内容について体験の重要性を具体的に理解できるようにする。また、幼児期から小学校低学年の発達課題の連続を図るために幼児期の教育・保育に必要な事柄（基本的生活習慣、遊び、地域の生活、人間関係など）をを学び、多面的総合的な理解力を有する人材育成を図る。									
授業目標： ①「生活科」の理念、目標、内容について具体的な活動や体験の重要性を理解する ②幼児期における生活、人間関係、遊びなどについて体験の重要性を理解し、保育者としての知識や技能を身につける ③幼児教育・保育に携わる者として子どもの生活について理解を深め、保育者としての力量を高める									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	科目の目的を理解し見通しをもつ 5歳児の発達について講義・DVD視聴を通して理解する					事前：なし 事後：ノート整理		講義(70分) 討議(20分)	
2	「生活科」が誕生した背景から、「生活科」の目標を読み解く					事前：配布資料の下読み 事後：ノート整理		講義(45分) 討議(45分)	
3	生活科の9つの内容は、何をどのように学び、どんな力をつけるのかを読んで理解する					事前：配布資料の下読み 事後：ノート整理		講義(45分) 討議(45分)	
4	生活科の内容7（飼育・栽培活動）に関連して、栽培活動の意義を理解して、具体的な栽培活動の準備する					事前：栽培方法を調べる 事後：テキスト(1章)まとめ		講義(30分) 発表実習(60分)	
5	幼児の生活について生活リズムや基本的生活習慣の重要性を理解し、子どもへの影響などを話し合う					事前：テキスト(3章)下読み 事後：ノート整理		講義(45分) 討議(45分)	
6	生活科の内容1（家庭生活）に関連して、親子関係、家族の一員としての役割などを理解し、家庭で育つ力について討議する					事前：テキスト(6章)下読み 事後：ノート整理		講義(45分) 討議(45分)	
7	家庭・教育保育施設で身につける生活技術を習得し、小学校生活への適応や自己実現に影響することを理解する					事前：パンフレット作成 事後：パンフレット記入		実習(90分)	
8	栽培活動の観察記録をする 四季の代表的な植物の特徴を調べて彩色する					事前：花の写真。名前調べ 事後：花クイズを作る		実習(90分)	
9	生活科の内容6（自然観察・遊び）に関連して、花クイズを出し合い、クイズの作り方がわかる					事前：花クイズを作る 事後：テキスト(7章)まとめ		講義(30分) 発表実習(60分)	
10	生活科の内容3（地域生活）に関連して、地域の教育力（お祭り、見守りなど）が子どもの生活に関わっていることを理解する					事前：テキスト(14章)下読み 事後：こどもNEWS		講義(90分)	
11	生活科の内容4（公共施設）に関連して、学校や町にある公共施設、利用のルールを討議する					事前：こどもNEWS 事後：テキスト(13章)のまとめ		講義(45分) 討議(45分)	
12	こどもNEWSから親子の関係や子どもの発達について気づいたことを発表する 生活技術の確認しながら、教え合う					事前：こどもNEWS確認 事後：生活技術パンフの仕上げ		発表(20分) 実習(70分)	
13	就学前の小学校との関わり、アプローチプログラムの内容と留意点について理解する（平仮名練習）					事前：毛筆の準備 事後：ノート整理		講義(45分) 討議(45分)	
14	入学時のスタートカリキュラム、生活科の指導方法と幼児教育・保育の共通点があり小学校への適応にかなうことを理解する					事前：配布資料の下読み 事後：テキスト(11章)下読み		講義(45分) 討議(45分)	
15	生活科の内容9（自分の成長）に関連して、自己認識を深める活動や人権について討議する					事前：テキスト(11章)下読み 事後：なし		講義(45分) 討議(45分)	
教本：子ども学講座1 子どもと生活 林邦雄・谷田貝公昭 一藝社 ￥1,800 参考文献：授業時に随時提示する									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 保育者になった自分を想像しながら、子どもにとって大切なことはなにかを考えながら学んでいくとよい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	政治学 (Politics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	伊藤 重行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 政治学は時代と共に変化してくる。現在はアジア太平洋の時代である。そこでは地球的に考えて、地域的に活動することが基本概念になる。この講義を通じて新しい政治論とそれに基づく日本の政治、選挙、政策決定過程などを講義する。									
授業目標： 社会や国家における政治現象は、人間の集団化によって起こってくるので、有史以来政治から逃避することはできない。政治現象がどのようにして生じてくるのか、その現象の法則性を究明することに目標が置かれている。ここではアジア太平洋の現実と新しい哲学に依拠した政治論を講義する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
2	新時代の政治学					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
3	アジア太平洋の時代					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
4	アジア太平洋か、あるいは太平洋アジアか					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
5	アジア太平洋と太平洋経済協力協議会（PECC）					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
6	アジア太平洋とアジア太平洋経済協力会議（APEC）					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
7	アジア太平洋と東南アジア諸国連合（ASEAN）					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
8	アジア太平洋の諸国と地理					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
9	日韓関係の過去と未来					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
10	アジア太平洋と福田内閣					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
11	アジア太平洋と村山内閣					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
12	日本とベトナムー安土桃山時代の関係史					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
13	日本とベトナムー明治、大正の関係史					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
14	日本とベトナムー昭和、平成の関係史					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
15	まとめ					事前：講義報告の構想 事後：講義報告の提出		10 分小論文、20 分その解説 60 分講義まとめ	
教本： 伊藤重行『アジア太平洋発展論』志学社、¥2,000					参考文献： 伊藤重行『釧路湿原の聖人・長谷川光二』学文社、¥2,000				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： テキストや参考文献などを購入し、よく読む努力をして欲しい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	政治学 (Politics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	末 次 俊 之								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	そ の 他	特になし							
授業概要： 意見の異なる人々と「ともにうまくやっていく」ために、人々は「政治」を行い、その政治からさまざまな考え方やルール、集団の中の在り方などが模索されてきました。ただ、ともにうまくやっていくための「政治」は時として我々の生活に暴力的な形で介入することもあります。一体、政治とはなんなのか、これを問い続けているのが「政治学」です。この授業では、政治学の基礎的な知識や考え方を習得することを通じて、自分の周りの「政治」を改めて認識・理解する視点を提供します。									
授業目標： 1. 政治学の基本的な概念や考え方を理解する。 2. 政治の「当事者」としての冷静かつ批判的な態度を養う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要とともに、「政治」と向き合うこととはどのようなことかをお話しします。					事前：特になし 事後：配布物復習		講義と対話	
2	「政治」とは何か：「政治」、「権力」などと共に政治学はどのような学問かを説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
3	国家：国家の成り立ちと類型など基本知識を学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
4	政治体制：政治体制において、デモクラシーの成立と展開の背景をお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
5	政治制度と政治過程：政治過程とは何か、政治を見渡す際の視点を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
6	公共政策：政策が作られる過程がどのようなものであり、どのような視点から分析されてきたかを学びます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
7	中間テスト：前半の復習を行います。					事前：前半の復習 事後：テスト復習		テスト、 フィードバック	
8	議会：政治過程での議会と行政府との関係を中心にお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
9	政党：政党とは何か、その役割、類型などとともに政党と他の集団との違いを整理します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
10	利益団体：政治過程における利益団体の概要と意義を説明します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
11	選挙制度：政治参加の形はどのようなものか、その1つである「選挙」の概要をお話しします。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
12	投票：人々は何を基準にして投票するのか、投票行動の代表的なモデルなどを紹介します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
13	マスメディア：マスメディアの役割について主なモデルを説明しながら、人々の意識にどのように影響を及ぼすかを考えます。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
14	国際関係：国際関係のなかでどのように「秩序」の維持が模索されてきたか、「国際関係」論の展開をお話しし、理解します。					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
15	総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義 60分 ディスカッション 30分	
教本： 特にありませんが、授業毎に配布物を配ります。					参考文献： 久米、川出、古城、田中、真淵著『政治学 補訂版』（有斐閣、2011年）、¥3,400、を推薦します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 近年の新型コロナ感染拡大によって、「政治」は我々の生活に大きな影響を及ぼしました。この授業は政治の身近さを学ぶ政治学の導入編ですので、興味があればぜひ受講してみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	政治学 (Politics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	そ の 他								
授業概要： 新聞、テレビ、インターネットなどにあるニュース素材を使いながら、政治、また政治学とは何かという問いにアプローチしていきます。前半は、民主主義における「政治過程」というものをイメージしながら、政治を理解することを目指します。後半は、日本の大学で学ぶ政治学の主要分野を概略していきます。									
授業目標： 1. 政治学に親しみ、身近な政治に関心を持つ。 2. 具体的な事例を通じ、政治学の骨格を身に着ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要と身近な問題に隠れている政治と政治過程というものについてわかりやすくお話しします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義と対話	
2	民主主義と政治過程とは：政治過程とは何か、民主主義の中での意義を概説します。民主主義の政治過程での民意の実現に関して、幾つかの事例を使いながら説明していきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
3	市民革命と民主主義：民主的制度の歴史と土台にある伝統的な理論について、基本事項を学習していきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
4	民主主義と現代の政治体制：民主主義とは何か、そして現代の政治体制のタイプを整理します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
5	権力分立と行政と立法：権力分立の形と背景を学び、行政と立法の意味と関係について概略します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
6	選挙：民主主義の要である選挙の意義と仕組みについて学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
7	ミニ・テスト①：前半の総復習をします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		テストとフィードバック、対話	
8	政党：政治過程の主要な担い手である政党について基礎知識を学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
9	利益団体：政治過程の主要な担い手である利益団体について基礎知識を学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
10	大衆社会、ネット社会と民主主義：大衆社会での民主主義の姿とネット時代でのその変化について学んでいきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
11	大衆社会と選挙：大衆社会での選挙行動について、その理論の系譜を追いながら考えていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
12	国家と権力：国内政治の基礎にある「国家」について、伝統的な政治学での議論を紹介します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
13	民主主義と寛容さ：自由な民主主義にとって不可欠な寛容さの問題を、政治学の歴史を背景に学んでいきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
14	ミニ・テスト②：後半の復習をします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		テストとフィードバック、対話	
15	政治とは何を指すのか：講義のまとめとして、政治の目的と我々の政治参加のあり方を一緒に考えていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
教本：参考文献： 毎回ハンドアウト（配布資料）を配ります。それに従って講義を進めます。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 18歳から選挙権が与えられ政治を身近な問題として若い人が学ぶべき時代になっています。どなたにでもわかりやすい入門の講義なので、少しでも関心があれば是非受講してみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	成人・老年期の心理（Psychology of Adults and Elderly）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 淳子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 高齢期に至る前の成人期を踏まえていかに人生後半を生きるべきかを考えていく。長い高齢期間がもたらす諸問題について検証し、人生の集大成である高齢期を支えることは、将来の自分たちを見通すことであることを生涯発達の視点から学び、考えていく。									
授業目標： 1. 生涯発達の視点からの成人期、高齢期の位置づけについて考える。 2. 成人期の課題と身体変化、認知面・環境面が及ぼす心理的特徴について学び、理解する。 3. 高齢期の人間関係、社会的側面、問題行動や障害について理解を深め、支援方法について学び、考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	成人期の発達課題とは？					事前： 事後：復習 成人の発達課題をまとめる		講義 70 分 振り返り 20 分	
2	生涯発達の視点から見た成人期、高齢期の位置づけ —(1)精神分析理論					事前：予習 精神分析理論を調べておく 事後：復習 講義のまとめ		講義 70 分 振り返り 20 分	
3	〃 —(2)生涯発達理論					事前：予習 生涯について調べる 事後：復習 生涯発達についてまとめる		講義 70 分 振り返り 20 分	
4	成人期のアイデンティと課題 —(1)キャリア発達					事前：予習 キャリアについて考える 事後：復習 キャリア発達のまとめ		講義 70 分 振り返り 20 分	
5	〃 —(2)成人期の危機					事前：予習 成人期について調べる 事後：復習 危機について考える		講義 30 分 討議 60 分	
6	高齢期の身体・感覚的特徴—(1)身体機能と感覚機能					事前：予習 高齢者の身体について調べる 事後：復習 身体・感覚機能についてまとめる		講義 70 分 振り返り 20 分	
7	〃 —(2)加齢による記憶機能の変化					事前：予習 記憶について調べる 事後：復習 加齢による変化を考える		講義 30 分 討議 60 分	
8	高齢者の知能・認知機能の特徴—(1)知能の生涯発達					事前：予習 知能について調べる 事後：復習 認知機能についてまとめる		講義 70 分 振り返り 20 分	
9	〃 —(2)知恵の発達					事前：予習 知恵とは何か調べる 事後：復習 高齢者の認知機能をまとめる		講義 30 分 討議 60 分	
10	高齢者のパーソナリティ — 人格の安定性と変化					事前：予習 パーソナリティについて調べる 事後：復習 人格変化についてまとめる		講義 70 分 振り返り 20 分	
11	高齢期の人間関係 — 家族・対人関係					事前：予習 人間関係を調べる 事後：復習 家族間の人間関係をまとめる		講義 70 分 振り返り 20 分	
12	高齢期の疾患と心理的問題 —(1)認知症、うつ病他					事前：予習 認知症について調べておく 事後：復習 うつ秒他についてまとめる		講義 30 分 発表 60 分	
13	〃 —(2)認知機能のアセスメント					事前：予習 アセスメントについて調べる 事後：復習 認知機能アセスメントをまとめる		発表 80 分 講義 10 分	
14	高齢者と心理的適応 —サクセスフル・エイジング					事前：予習 サクセスフルエイジングを調べる 事後：復習 高齢者の適応をまとめる		発表 80 分 講義 10 分	
15	高齢者と死 — 死生観の発達					事前：予習 死について考えておく 事後：復習 講義のまとめと感想		発表 80 分 講義 10 分	
教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。					参考文献： 下仲順子編 高齢期の心理と臨床心理学 培風館 ￥3,800、大川一郎他 編著 エピソードでつかむ老年心理学 ミネルヴァ書房 ￥2,660				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業では、一方的な講義ではなく、学生に考えてもらいます。単位によっては発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらうこともあります。 受け身な態度ではなく、自身の考えを表現できるように心がけてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	青 年 期 の 心 理 （Psychology of Adolescent Age）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 青年期は、子どもからおとなへの移行期であり、身体、対人関係、環境等に大きな変化を経験する時期である。本講義では、そうした青年期について、生涯発達の中の位置づけ、特有の認知・感情、対人関係の有り様などを、理論やワークを通して学ぶ。									
授 業 目 標： 青年期について理解することにより、自己・他者理解を深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授 業 計 画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （詳細に記入）				事 前 ・ 事 後 学 習 （学習課題）			授 業 形 態	
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習			講 義	
2	生涯発達の中の青年期				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分に結びつけて考える			講 義 60分、 ディスカッション 30分	
3	青年期の認知・感情①				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分に結びつけて考える			講 義 60分、 ディスカッション 30分	
4	青年期の認知・感情②				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分に結びつけて考える			講 義 60分、 ディスカッション 30分	
5	青年期の自己意識①				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分に結びつけて考える			講 義 60分、 ディスカッション 30分	
6	青年期の自己意識②				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分に結びつけて考える			講 義 60分、 ディスカッション 30分	
7	アイデンティティ①				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分に結びつけて考える			発表 40分、討議 50分	
8	アイデンティティ②				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分に結びつけて考える			発表 40分、討議 50分	
9	青年期の親子関係				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分に結びつけて考える			発表 40分、討議 50分	
10	青年期の親子関係②				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分に結びつけて考える			発表 40分、討議 50分	
11	青年期の友人関係①				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分に結びつけて考える			発表 40分、討議 50分	
12	青年期の友人関係②				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分に結びつけて考える			発表 40分、討議 50分	
13	青年期の恋愛関係				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分に結びつけて考える			発表 40分、討議 50分	
14	青年期のキャリア形成				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分に結びつけて考える			発表 40分、討議 50分	
15	まとめ				事前：授業全般の復習 事後：理解の補完			講 義	
教 本： 『ノードとしての青年期』高坂康雅編 ナカニシヤ出版									
参 考 文 献：									
成 績 評 価 の 方 法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、テスト（50%）で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 講義には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	生物学 (Biology)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	橋詰 二三夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 生物学は、生命現象を対象として異なる生命体に共通する部分と共通しない部分の識別・追求から始まり、発展してきた。内容は分子レベルにまで達しているが、詳細（ミクロ）追求のみでは、全体像（マクロ）を見失う場合もあるので、両者のバランスを保ちつつ認識を培う。なお、授業は板書で行い、必要に応じて資料を配布し、パワーポイントなどで説明する。									
授業目標： 1. 生命現象から、発生、環境応答、生態、進化に至る生物の基本的事項が理解できる。 2. 教養として役立つと思われる生物学的基礎知識を習得できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：生物に関するこれまでの学習履歴の確認					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
2	細胞：核、細胞膜、真核生物、原核生物、微生物などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
3	酵素：タンパク質、基質、温度、pH、補酵素などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
4	呼吸：ミトコンドリア、ATP などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
5	光合成：クロロフィル、明反応、暗反応、光補償点、光飽和点などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
6	遺伝 ①：体細胞分裂、DNA、複製、転写、翻訳などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
7	遺伝 ②：減数分裂、優性の法則、分離の法則、独立の法則、組換え価などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
8	遺伝 ③：突然変異などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
9	発生：胚の発生過程、内胚葉、中胚葉、外胚葉などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
10	恒常性：自律神経、ホルモンなどについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
11	生体防御：白血球、免疫などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
12	植物：発芽、成長、開花、結実、植物ホルモンなどについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
13	個体群：生物群集、植生、共生、なわばり、ニッチなどについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
14	生態系：物質循環、生産者、消費者、分解者、環境などについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
15	進化：系統、分類、種、生活環、ドメインなどについて					事前：左記用語の予習 事後：授業内容のまとめ		講義 90 分	
教本： 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 鈴木孝仁 監修 数研出版 ¥1,243					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 本年度からの担当のため、状況により変更もありうるが、授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。 授業中の私語、スマートフォン操作は厳禁									
学生へのアドバイス： 範囲は広いものの、難易度は低めに設定。									
オフィスアワー： 講義終了後、講義室ないし講師室で対応									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習										
授業科目(英文)	造形で遊ぶ（造形表現）（Playing with Art）						科目分類	専門科目											
担 当 教 員	小野 和																		
履 修 条 件	前提科目	なし																	
	そ の 他	なし																	
授業概要： これまでで学んだ造形表現のための知識と技能を基礎とし、領域「表現」のねらいや内容に沿った、保育の造形活動について考える。幼児の発達に応じた、課題の設定、教材の選択、画材や道具の使い方を確認するとともに、環境構成についても考え、課題設定や教材研究、指導計画の立案と展開、保育活動の実践を想定した授業を行う。																			
授業目標： これまでで学んだ子どもの表現力をはぐくむための知識を基礎として、保育の全体構造に基づいて、子どもの図工的な表現について理解を深め、発達過程に即した教育への知見を深める。 この科目は、1.幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養												
◎			○																
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	ガイダンス『幼稚園教育要領』『小学校学習指導要領』と図画工作・造形表現の意義について検討する。					事前：各自の造形経験を考える。 事後：配布資料を読む。		講義 60分、 ディスカッション 30分											
2	子どもの造形表現の発達の道筋や特徴について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 60分、 ディスカッション 30分											
3	遊びと造形について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分											
4	図画工作の内容「表現(1)」と造形遊びについて検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分											
5	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す(1)発想と表現について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分											
6	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す(2)材料と表現について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分											
7	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す(1)用具と表現について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分											
8	図画工作の内容「鑑賞」と鑑賞教材について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分											
9	造形で遊ぶ(1)素材とイメージについて検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分											
10	造形で遊ぶ(2)色や形からの表現について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分											
11	造形で遊ぶ(3)共同の取り組みについて検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分											
12	現代的教育課題と造形・図画工作(1)多様なニーズへの対応について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分											
13	現代的教育課題と造形・図画工作(2)幼稚園・小学校の連携について検討する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分											
14	作品・資料集を作成する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 グループワーク 60分											
15	総合レポートを作成する。					事前：配布資料を読む。 事後：授業の内容を整理する。		講義 30分、 ディスカッション 60分											
教本： 『小学校学習指導要領解説・図画工作編』文部科学省、日本文教出版、¥100 + 税 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』平田智久・小野 和編著、教育情報出版、¥1,905 + 税										参考文献： 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、¥240 + 税 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、¥350 + 税 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館、¥320 + 税									
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況・授業態度等（50%）、課題作品・レポート等（50%）、等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス： 個人で使用する材料・用具については授業の中で説明・指示するので、各自で準備すること。																			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	総合ゼミⅠ（Comprehensive SeminarⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修・小林 克・高橋基樹・仲 伯維								
履 修 条 件	前提科目	基礎科目全般							
	そ の 他	なし							
授業概要： 少人数のクラスを編成し、担当教員の指導のもとで、コミュニケーション・スキル、自己管理能力、就職力、チームワーク、リーダーシップの向上を図る。講義方式による指導ではなく、課題を与え学生自らがそれを解き、教員と学生相互の討議よるフォローアップによるレベルアップを図る方式で進める。 以下の「授業内容及び計画」は一応の目安であり、具体的な実施内容は各担当教員の指導に基づく。履修者は初回講義に必ず出席する事（欠席した場合には履修を認めない）。									
授業目標： テーマ：到達目標：社会人としての基礎能力の習得 テーマ：「学士力」に関連したコミュニケーション・スキル、自己管理能力、就職力、チームワーク、リーダーシップなど演習を通じて習得できるスキルや態度を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	コミュニケーション・スキル（読み）					事前：なし 事後：なし		演習	
2	コミュニケーション・スキル（読み）					事前：なし 事後：なし		演習	
3	コミュニケーション・スキル（書き）					事前：なし 事後：なし		演習	
4	コミュニケーション・スキル（書き）					事前：なし 事後：なし		演習	
5	コミュニケーション・スキル（聴き）					事前：なし 事後：なし		演習	
6	コミュニケーション・スキル（聴き）					事前：なし 事後：なし		演習	
7	コミュニケーション・スキル（話す）					事前：なし 事後：なし		演習	
8	コミュニケーション・スキル（話す）					事前：なし 事後：なし		演習	
9	コミュニケーション・スキル（話す）					事前：なし 事後：なし		演習	
10	自己管理能力（目標カード）					事前：なし 事後：なし		演習	
11	自己管理能力（目標カード）					事前：なし 事後：なし		演習	
12	自己管理能力（TODO リスト）					事前：なし 事後：なし		演習	
13	自己管理能力（TODO リスト）					事前：なし 事後：なし		演習	
14	自己管理能力（セルフコントロール）					事前：なし 事後：なし		演習	
15	前期まとめ					事前：なし 事後：なし		演習	

16	ガイダンス	事前：なし 事後：なし	演習
17	自己分析	事前：なし 事後：なし	演習
18	自己分析	事前：なし 事後：なし	演習
19	企業研究	事前：なし 事後：なし	演習
20	企業研究	事前：なし 事後：なし	演習
21	面接	事前：なし 事後：なし	演習
22	面接	事前：なし 事後：なし	演習
23	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
24	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
25	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
26	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
27	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
28	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
29	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
30	まとめ	事前：なし 事後：なし	演習
教本： 必要とする教材をその都度準備・提供する。 参考文献： 各教員が指定する。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 課題・レポートの提出状況、討議への参加・発言内容などを総合的に判断して評価する。			
学生へのアドバイス： 欠席・遅刻は認めない。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	総合ゼミⅡ（Comprehensive SeminarⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤幹彦・金澤秀嗣・沈 瑛								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学、社会学、哲学、伝統文化、経済学、地理、歴史など							
	そ の 他	なし							
授業概要： 担当教員の指導のもとで、多方面の研究活動を行います。総合ゼミⅠの延長上にあるため、各担当教員の指示を受けて下さい。									
授業目標： テーマを立て、それに基づいて調査し、データを集め、報告書完成に至る。これから皆さんに対して、生起する様々な問題などに対して、自身の考えをもって対応できるようにすることが目標です。報告書の完成にいたるプロセスも大切な学習機会であり、自身の希望に向けての思考を確立する方法です。（※論文の執筆もできます。）									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	各自の興味・関心事からテーマのガイドラインを策定					事前：地域社会を考える 事後：テーマについて考える		ゼミナール	
2	テーマを確定する					事前：テーマについて考える 事後：地域を絞り込む		ゼミナール	
3	それぞれの地域社会に関する文献収集					事前：図書館や資料館の検索 事後：収集作業		ゼミナール	
4	それぞれの地域社会に関する文献収集					事前：収集作業 事後：収集作業		ゼミナール	
5	地域社会に関する調査方法の考察（観察、インタビューなど）					事前：収集作業 事後：収集検討		ゼミナール	
6	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
7	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
8	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
9	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
10	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
11	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
12	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
13	調査・研究					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
14	調査・研究の中間報告					事前：調査・研究 事後：調査・研究		ゼミナール	
15	調査の結果、進捗の再検討					事前：調査・研究 事後：夏休み、後期への展望		ゼミナール	

16	後期の見通し、継続か方向転換を再検討します	事前：報告 事後：再検討	ゼミナール
17	研究方法の再検討	事前：再検討 事後：各自の事情により異なる	ゼミナール
18	調査・研究	事前：調査・研究 事後：調査・研究	ゼミナール
19	調査・研究	事前：調査・研究 事後：調査・研究	ゼミナール
20	調査・研究と報告書の再検討	事前：調査・研究 事後：テーマ決め	ゼミナール
21	報告書のレジュメ作成	事前：大きなまとめ 事後：レジュメ作成	ゼミナール
22	報告書のレジュメ作成	事前：レジュメ作成 事後：レジュメ作成	ゼミナール
23	報告書のレジュメ作成	事前：レジュメ作成 事後：本文原案	ゼミナール
24	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
25	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
26	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
27	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
28	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
29	報告書作成	事前：報告書作成 事後：添削・修正	ゼミナール
30	報告書完成	事前：報告書作成 事後：報告書完成	ゼミナール
教本：参考文献：その時々で指示します。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： じっとしているのが苦手な方、歓迎します。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	相続法（Inheritance Law）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	上地 一郎								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ／私法学Ⅱ／物権法／家族法							
	そ の 他								
授業概要： 本講義では、民法第五編相続を中心に講義を行ないます。相続法の法定原則、共同相続、遺言、遺贈、遺留分減殺請求権を中心に親族法が主要なテーマとなります。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授業目標： 相続法の基本的な知識を習得し、ならびに相続法の主要な問題を説明できるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション			事前： 事後：配布資料の見直し			講義60分 質疑応答30分		
2	相続法総論			事前：日本の相続制度について調べる。 事後：相続制度の根拠についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
3	家督相続から遺産相続へ			事前：家督相続とは何かを調べる。 事後：相続回復請求権の意義についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
4	相続財産(1) 積極財産			事前：包括承継について調べる。 事後：現行制度の問題について調べる。			講義60分 ディスカッション30分		
5	相続財産(2) 消極財産			事前：消極財産の相続について調べる。 事後：財産分離・限定承認の相互関係についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
6	相続人(1) 相続人の法定			事前：現行法のもとでの相続人となる者を調べる。 事後：法定相続人と法定相続分の問題をまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
7	相続人(2) 相続人の増減(1) 相続人の減少			事前：相続欠格／廃除人について調べる。 事後：相続欠格／廃除人についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
8	相続人(3) 相続人の増減(2) 相続人の増加			事前：養子／遺言について調べる。 事後：養子の状況と濫用についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
9	遺産分割(1) 特別受益・寄与分(1) 対象			事前：特別受益・寄与分について調べる。 事後：特別受益・寄与分についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
10	遺産分割(2) 特別受益・寄与分(2) 調整の性質			事前：寄与分にける「貢献」について調べる。 事後：被相続人の意思と相続人間の衡平についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
11	遺産分割(3) 相続と第三者			事前：共同相続人とは何かを調べる。 事後：共同相続人間の法律関係についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
12	遺産分割(4) 分割の協議			事前：遺産分割の方法について調べる。 事後：遺産分割の法的問題についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
13	遺言と遺留分(1) 遺言の利用			事前：遺言について調べる。 事後：遺留分／減殺請求についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
14	遺言と遺留分(2) 遺言の方式			事前：公正証書遺言について調べる。 事後：遺言に関する問題（事後救済）についてまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
15	まとめ			事前：講義の論点を整理する。 事後：講義の論点について自分なりにまとめる。			講義60分 ディスカッション30分		
教本： とくになし（資料を配布します）。				参考文献： 授業中に適宜指示します。					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30％）、定期試験（70％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	相 談 援 助 (Consultation Assistance)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 社会福祉専門職としての「相談援助」を理解し、保育士に求められているソーシャルワークとしての相談援助を学ぶ。そして、相談援助の方法と技術を具体的に展開する方法を事例や演習を通して学ぶ。									
授業目標： 保育士が行う「相談援助」の知識と技術を理解し、習得したうえでの実践であることが求められる。この科目を通して相談援助の概要を理解しつつ、「保育士による相談援助」のための知識と技術の獲得を目標としている。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション 相談援助の概要を説明する。 社会福祉専門職としての「相談援助」を理解する。					事前：シラバスの確認をする 事後：相談援助の概要をまとめる		講義 60分、概要のまとめ 30分	
2	相談援助の意義と機能 相談援助が重要とされる根拠や背景について理解する。					事前：相談援助の背景を調べる 事後：社会状況をまとめる		講義 60分、調査 30分	
3	相談援助とソーシャルワーク ソーシャルワークとしての相談援助の特徴について理解する					事前：ソーシャルワークの下読み 事後：相談援助の特徴をまとめる		講義 60分、事例検討 30分	
4	相談援助のための基本技術 厚木市療育相談センターについて事前調査し、療育の基本を学ぶ					事前：療育について予習 事後：質問事項をまとめる		講義 60分、事前調査 30分	
5	厚木市療育相談センターの視察研究 子どもの療育の相談について実際に視察する。					事前：職員への質問の整理 事後：レポートにまとめる		視察研修 90分	
6	療育相談センター内での相談状況や環境の口頭発表 レポートにまとめ発表をする。					事前：研修の意義やまとめ 事後：他の学生の発表を聞く		口頭発表 60分、レポート 30分	
7	相談援助の方法と技術 相談援助の利用者が抱える内容や、援助課題などを理解する					事前：相談援助の技術を予習 事後：援助課題をまとめる		講義 60分、事例検討 30分	
8	相談援助のための実践アプローチ 相談援助における実用的な実践アプローチを理解する。					事前：援助の態度などを考える 事後：話し合ったことをまとめる		講義 60分、事例検討 30分	
9	相談援助の演習 事例に基づいて皆で討論し、発表する。					事前：援助者の心構えを考える 事後：他の人の意見をまとめる		講義 30分、事例検討 30分、発表 30分	
10	相談援助の具体的展開 計画、記録、評価の方法や必要な事柄について検討する。					事前：相談者の気持ちを考える 事後：事例のまとめ		講義 30分、事例検討 30分、発表 30分	
11	専門機関との連携 専門機関や専門職等の連携について学ぶ					事前：専門機関の下調べをする 事後：保育士と協働する社会資源		講義 60分、調査 30分	
12	社会資源の活用、調整、開発 様々な社会資源について調べ、発表してみる。					事前：社会資源について考える 事後：口頭発表の反省		講義 30分、検討 30分、発表 30分	
13	虐待の予防と対応に関する事例分析 虐待のケース発見からアウトリーチまでの課程を理解する。					事前：虐待の定義を予習 事後：児童虐待の過課程をまとめる		講義 60分、事例分析 30分	
14	障害のある子どもとその保護者への支援に関する事例分析 事例を通して援助者としての対応を身に付ける。					事前：障害のある子どもを理解 事後：事例のまとめをする		講義 60分、事例検討 30分	
15	ロールプレイ、フィールドワークなどによる事例分析とまとめ 事例を基に援助場面を体験して学びを深める。					事前：今までの事例を見直す 事後：事例をまとめ、振り返る		講義 30分、事例分析 30分、まとめ 30分	
教本： 相談援助 保育相談支援 著者：笠師千恵、小林明子 発行所：中山書店 ￥2,500					参考文献： 保育所保育指針 解説書 療育相談センターのパンフレット				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 事例検討や演習問題、調査後の口頭発表となるべく学生の参加型の授業にする。積極的に参加してほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	組織心理学（Organizational Psychology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	産業心理学概論を履修していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現在は産業・組織心理学として社会に認知されており、本授業も産業心理学とは不可分の関係にある。そこで本授業では、組織とは何かから始め、組織内において生じる対人関係の在り方、精神的ストレスの定義と対処法、生理的特性や動機づけ、及び作業行動の発生過程までを学ぶ。授業形態は講義を中心とするが、随時討議や実習も行い、「分かりやすい授業」を目指す。									
授業目標： 組織構造や組織規範、対人関係から生じる精神的なストレスの意味を把握すると共に、ストレスからの脱出方法までを学ぶ。加えて、組織集団が有するリスク知覚とリスク回避方法までを正しく理解できることを到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、ディスカッション 20分	
2	組織とは何か。組織の定義に始まり、組織構造、組織規範を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
3	動機づけに関する考え方を学び、動機づけの手法である外発的動機づけ、内発的動機づけの長所と短所を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
4	動機づけを基にした目標管理制度の意味と、そこで用いられる PDCA サイクルの意味と、OJT や off-JT 等の研修の意味を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分 ディスカッション 10分、PBL 20分	
5	産業場面で発生するヒューマンエラーには、人間の生理的な特性も関与している。サーカディアンリズムとこれに連動する大脳覚醒水準の特性を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分 ディスカッション 10分、PBL 20分	
6	事故や労働災害を減少するには、人間の行動の仕組みを知ることが不可欠である。我々の作業行動を理解することを目指し、作業行動モデルの作成を行う。ここでは集団ブレインストーミング法を用い、作業行動を考え合う。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、ディスカッション 70分	
7	前回到引き続き集団ブレインストーミングを通じて得られた様々なアイデアを、KJ 法を用いてカテゴリ化を図る。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、ディスカッション 70分	
8	前回到引き続き KJ 法で得られたカテゴリ間に関連性を持たせ、人の作業行動のあり方、プロセスの図化を試み、その後班ごとに発表を行い、作業行動の仕組みを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 20分、ディスカッション 70分	
9	用語としてのストレスの意味と使用方法の変遷、ストレスの構造とセリエの考えを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分 ディスカッション 10分、PBL 20分	
10	精神的ストレスの定義、ライフイベント研究、ストレスの測定方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分 ディスカッション 10分、PBL 20分	
11	ラザラスらが主張する心理学的ストレスモデルを学び、ストレスからの脱出方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 30分、実験 40分、PBL 20分	
12	精神的ストレスを軽減するためのソーシャルサポート、THP、ストレスチェックの方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分 ディスカッション 10分、PBL 20分	
13	リスク、リスク・パーセプションを学び、職場安全管理対策の重要性を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分 ディスカッション 10分、PBL 20分	
14	職場安全風土醸成を目指す集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分 ディスカッション 10分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、ディスカッション 20分	

教本： 深澤伸幸「ヒューマンエラーの心理学入門－発生過程の理解と対策－」（株）杏林舎、¥2,300	参考文献：
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100％）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないので注意されたい。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	租税法Ⅰ（Tax LawⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	郷 原 廣 行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 物の売買や金銭の授受など、我々が経済取引をすると当該金銭の法的性質に応じて必ず種々の課税関係が生じます。租税法を学ぶことで、我々の租税負担を予測して経済活動することは自己の財産権を守るために不可欠です。本授業では、租税法のうち、租税法の基本原則、所得税法などの租税債権債務の発生等を規律する租税実体法を中心に講義します。									
授業目標： 本授業では、(1)税金の基本的な仕組みと税法について、理解を深めることを目的としています。(2)租税法は身近な法律であることを認識すること。(3)租税法上の問題を発見し、いかにして解決を図るべきかを考え、解決するための能力を涵養します。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	租税及び租税法とは 租税法法律関係の特色					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
2	租税法の基本原則 1 租税法法律主義					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
3	租税法の基本原則 2 租税公平主義					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
4	納税義務・課税要件・申告納税制度					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
5	節税・租税回避行為・脱税					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
6	租税法法律主義と租税法法律主義を争う憲法訴訟					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
7	申告納税制度と租税法法律主義					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
8	通達課税と租税法法律主義					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
9	節税・租税回避行為・脱税					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
10	租税回避行為の否認					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
11	課税要件と要件事実の認定					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
12	所得税法Ⅰ 所得税の基本原則					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
13	所得税法Ⅱ 課税所得の分類					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
14	所得税法Ⅲ 所得税法の構造と計算の仕組み					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
15	所得税法Ⅳ 必要経費、所得控除、税額控除					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
教本： 「基礎から学ぶ現代税法」岸田貞夫（共著）財経詳報社					参考文献： 「税法としての所得課税」岸田貞夫 郷原廣行(著) 「法人税法講座」中江博行(著)、岸田貞夫(監修)				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 予習は、教科書の該当する章を精読すること。復習は、授業時の内容と教科書の内容とを突合させ、問題意識を深め整理すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	租税法Ⅱ（Tax Law Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	郷 原 廣 行								
履 修 条 件	前提科目	租税法Ⅰ（Tax Law Ⅰ）							
	そ の 他	なし							
授業概要： 法人間の経済的取引や相続・贈与による財産の移転など、我々が経済取引等を行い、課税要件を充足すると必ず課税関係が生じます。租税法を学ぶことで、我々の租税負担を予測して経済活動することは自己の財産権を守るために不可欠です。本授業では、租税法のうち、法人・相続税法などの租税実体法を中心に講義します。									
授業目標： 本授業では、(1)難解な租税法を我々納税者の視点から平易に身近な事例を用いて講義し、租税法が我々国民のためにあることを理解すること、(2)学生が租税法を身近な法律であることを認識すること、(3)法的問題解決能力（リーガルマインド）を身に付け、租税法上の問題を発見し、いかにして解決を図るべきかを考え、社会上の問題を発見解決するための能力を涵養したいと思います。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	基礎理論 租税法の基本原則と課税要件総論					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
2	法人税法Ⅰ 法人税の納税義務者と課税所得等の範囲					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
3	法人税法Ⅱ 法人税法の法的構造					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
4	法人税法Ⅲ 課税所得の基礎的計算構造					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
5	法人税法Ⅳ 益金と損金の計上時期					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
6	法人税法Ⅴ 同族会社の行為・計算否認規定					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
7	相続税法Ⅰ 相続税・贈与税の意義と概要					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
8	相続税法Ⅱ 相続税法の構造と計算の仕組み（法定相続分課税方式）					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
9	相続税法Ⅲ 相続税法の構造と計算の仕組み（税額の算定）					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
10	相続税法Ⅳ 相続財産の評価と問題点					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
11	相続税法Ⅳ 贈与税の課税財産					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
12	法人税法・相続税法・相続税の計算のまとめ					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
13	租税法の解釈・適用 租税回避行為					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
14	租税手続法の構造					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
15	租税手続法の論点 質問検査権と更正の請求					事前：教科書確認 事後：講義内容の復習		講義 90 分	
教本： 「基礎から学ぶ現代税法」岸田貞夫（共著）財経詳報社					参考文献： 「税法としての所得課税」岸田貞夫 郷原廣行(著) 「法人税法講座」中江博行(著)、岸田貞夫(監修)				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 予習は、教科書の該当する章を精読すること。復習は、授業時の内容と教科書の内容とを突合させ、問題意識を深め整理すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									